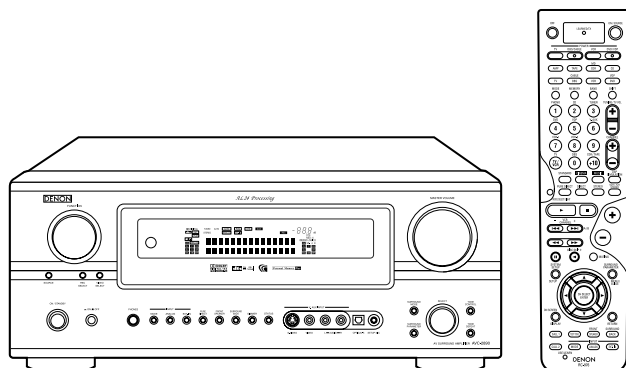
DENON
取扱説明書

AVC-2890

AV SURROUND AMPLIFIER

AV サラウンド アンプ

安全にお使いいただくためにー必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

目　次

1 安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について　この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

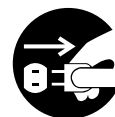
⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠ 警 告

■安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

電源プラグをコンセントから抜け

内部に異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。火災・感電の原因となります。

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 警告 つづき

■安全上お守りいただきたいこと

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない
内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で
表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で
接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。
また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。

雷が鳴り出したら
電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

乾電池は充電しない
電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は
まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない
火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない
こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない
万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 注 意

■安全上お守りいただきたいこと

電源コードを熱器具に近付けない
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは
電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。

電池を交換する場合は
極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する
テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■置き場所について

不安定な場所に置かない
ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

次のような場所には置かない
火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

壁や他の機器から少し離して設置する
壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

⚠ 注 意 つづき

■取り扱いについて

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

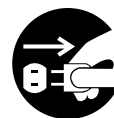
この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

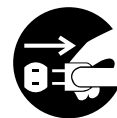
重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

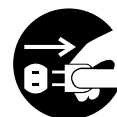
移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■使わないときは

長時間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■お手入れについて

お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

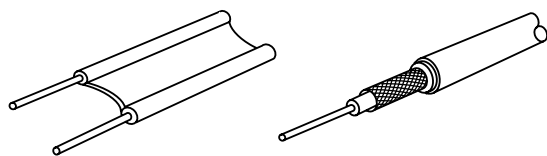
2 取り扱い上のご注意

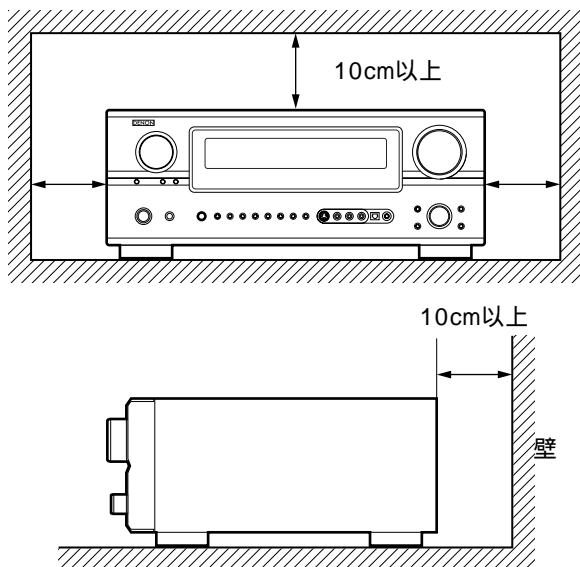
設置の際のご注意

■ 本機やマイコンを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合には次の点に注意してください。

◎ 本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。

◎ チューナーやテレビのアンテナ線を本機の電源コードおよび入出力などの接続コードから離して設置してください。

◎ 特に室内アンテナや300Ωフィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75Ω同軸ケーブルのご使用をおすすめします。

300Ωフィーダー線　　75Ω同軸ケーブル

■ 放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他のAV機器などとは10cm以上離して設置してください。（下図参照）

その他のご注意

■ 入力端子に機器を接続していない状態で入力の切り替えをおこなうと、クリックノイズが発生することがあります。このような場合には、主音量調節つまみを絞るか、入力端子に機器を接続してください。

■ 電源ボタンをスタンバイにしても一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず電源スイッチをOFFにするか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ プリアウト端子およびスピーカー端子には、ミューティング回路が組み込まれています。このため、電源投入後数秒間は出力信号が大幅に減衰されます。この動作時に音量を調節しますと、ミューティング終了後非常に大きな出力となりますので、音量調節は必ずミューティング終了後におこなってください。

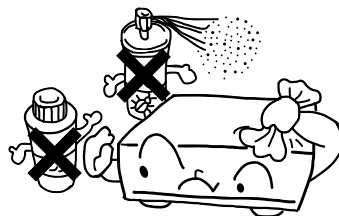
■ 説明のためのイラストは、実際の機器と異なる場合があります。

■ 取扱説明書を保存してください。
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保存してください。また、裏表紙の記入欄に必要事項を記入しておくと便利です。

お手入れについて

■ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。

◎ 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

■ ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

使わないときは

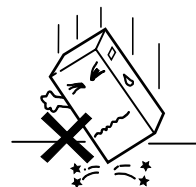
■ ふだん使わないとき

◎ 電源ボタンを押して、スタンバイ状態にしてください。

◎ 外出やご旅行の場合には、必ず電源スイッチをOFFにするか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 移動させるとき

◎ 衝撃を与えないでください。

◎ 必ず電源プラグをコンセントから抜いて、接続コードを外したことを確認してからおこなってください。

3 本機の特長

Ⅰ 高音質設計

1．32bitフローティングポイントDSPを搭載

DIGITAL信号処理に最新の32bitフローティングポイントDSPを搭載。
高速演算処理能力により、最新サラウンドフォーマットへの対応や精度の高いサラウンドデコード処理を実現します。

2．AL24 Processing

CDなどのデジタル入力時に入力されたデジタルデータを手掛かりに、その音が自然界に存在したはずのアナログ波形に近づくようにデジタルデータの補間をおこない、24bitのクオリティで再現するAL24 Processingを搭載しています。

3．ピュアダイレクトモード

CDやレコード再生時に映像回路やデジタル回路の影響をシャットダウンして、オーディオ再生に理想的な環境を創出することにより、極めて高品位な音楽再生を実現するピュアダイレクトモードを備えています。

4．フルディスクリート構成7chパワーアンプを搭載

全チャンネル同一パワー、同一レスポンスのフルディスクリートのパワーアンプを搭載しています。
フロント L/R　：100W+100W、センター：100W、
サラウンド L/R：100W+100W、サラウンドバック L/R：100W+100W（8Ω定格時）

Ⅱ 最新のサラウンドフォーマットに対応

1．ドルビープロロジックⅡx 対応

ドルビープロロジックⅡx はドルビープロロジックⅡのマトリックスデコード技術を拡張して、2チャンネルで記録された音声を、サラウンドバックチャンネルを含めた最大7.1チャンネルにデコードして再生することができます。
また、5.1チャンネルソースについても、最大7.1チャンネルでの再生を楽しむことができます。
音楽再生に適したMUSICモード、映画再生に適したCINEMAモード、ゲームをお楽しみになる場合に最適なGAMEモードなど再生するソースに合わせて選べます。
GAMEモードは2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

2．ドルビープロロジックⅡGAMEモード対応

従来のMUSIC/CINEMAモードに加えて、ゲームに最適なGAMEモードに対応しています。

3．ドルビーデジタルEXデコーダー搭載

ドルビーデジタルEXは、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発し『スター・ウォーズエピソード1/ファントム・メナス』で初めて採用された音響フォーマット『DOLBY DIGITAL SURROUND EX』を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した6.1chのサラウンドフォーマットです。
サラウンドバックチャンネルを含めた6.1chでの音場再生により、空間表現力、定位感が向上します。

4．DTS-ES（Extended surround）対応/DTS Neo:6搭載

本機は、デジタル・シアター・システムズ社が新たに開発したマルチチャンネルフォーマットである、DTS-ESに対応しています。さらに、通常のステレオソースから6.1ch再生をおこなうDTS Neo:6にも対応しています。

5．DTS 96/24対応

本機は、デジタル・シアターシステムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットであるDTS 96/24の再生に対応しています。
96kHz/24bitまたは88.2kHz/24bitの高音質で、DTS 96/24ソースをマルチチャンネル再生することが可能です。

6．MPEG-2 AAC対応

本機は、BSデジタル放送の音声フォーマット『MPEG-2 AAC（ムービング・ピクチャー・エキスパーツ・グループ・アドバンスト・オーディオ・コーディング）』の2ch、5.1ch放送の両方に対応したデコーダーを搭載しています。

本機の特長（つづき）

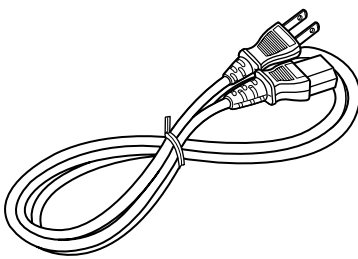
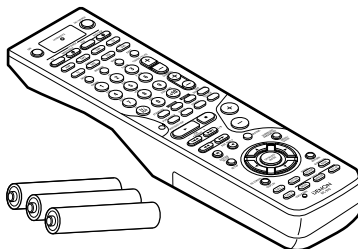
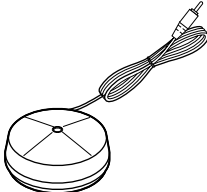
Ⅲ 簡単、便利な機能

1．Auto Setup / Room イコライザー機能
付属のセットアップ用マイクを使い、自動でスピーカーシステムとリスニングルームに応じたセッティングを正確におこない、最適な視聴環境を提供します。

2．前面入力端子装備
ビデオカメラなどの接続に便利な前面入力端子を装備しました。

3．映像信号のアップコンバート機能を装備
再生機器と本機の映像入力端子との接続方法に関わらず、本機のモニター出力端子とモニター（テレビ）間の接続方法については、より高品位な接続のケーブルを1本接続するだけで視聴できます。

4．プリメモリー機能付き学習リモコン
DENONのリモコン対応コンポーネント製品をはじめ、国内主要メーカーのDVDプレーヤー、LDプレーヤー、ビデオデッキおよびテレビのリモコン操作コードをあらかじめ記憶しているプリメモリー機能付き学習リモコンを採用しています。

5．大型ディスプレイを採用
入力、出力チャンネルが一目で分かる大型多機能ディスプレイを採用しました。

6．オートサラウンドモード
入力信号に対して最後に再生したサラウンドモードを記憶し、次に同じ信号が入力された場合に記憶したサラウンドモードで自動的に再生する機能です。

7．オーディオディレイ機能
信号に合わせて音声信号を遅らせる機能です。（0～200msec）

4 付属品について

★ 本体とは別に下記の付属品がついています。ご使用の前にご確認ください。

電源コード　1本	リモコン（RC-976）　1個 単3乾電池　3本	セットアップマイク　1本
取扱説明書（本書）　1冊 リモコンコード表　1枚	製品のご相談と 修理・サービス窓口一覧表　1枚	保証書 （梱包箱に添付されています。）

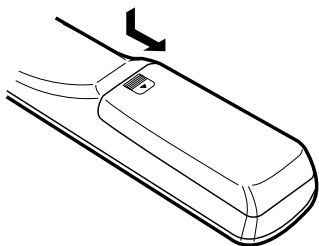
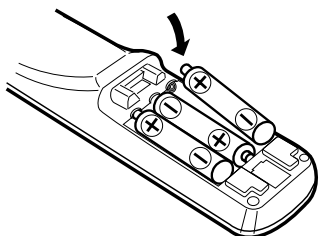
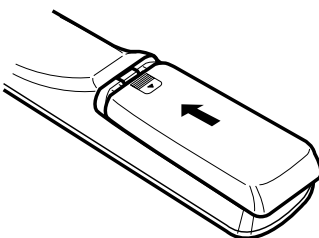
付属品について（つづき）

■ リモコンのご使用について

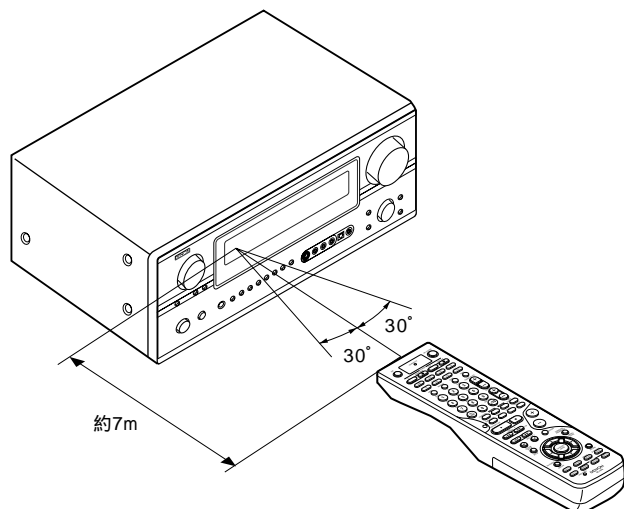
★ 付属のリモコン（RC-976）は本機の操作だけでなく、DENON製リモコン対応のコンポーネント製品を操作することができます。また、他メーカーのリモコンのコントロール信号を学習・記憶する機能を備えていますので、DENON製品以外のリモコン対応ビデオ機器を操作することができます。

（詳細は89、90ページ参照）

(1) 乾電池の入れかた

① リモコンの裏ぶたを外してください。

② 単3形乾電池（3本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。

③ 裏ぶたを元通りにしてください。

乾電池についてのご注意

- リモコンには単3形乾電池をご使用ください。
- リモコンの使用回数にもよりますが、乾電池は約1年毎に新しいものと交換してください。
- 1年経っていなくても、リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は、動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに、⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 乾電池を交換するときはあらかじめ交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。
- 乾電池を約30秒以上外したままにすると、学習されているリモコン信号が消去されることがあります。

(2) リモコンの使いかた

- リモコンは図のようにリモコン受光部に向けてご使用ください。
- 直線距離では約7m離れたところまで使用できますが、障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。
- リモコン受光部を基準にして左右30 °までの範囲で操作できます。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。
- 本機とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因となります。

5 簡単にホームシアターを楽しむ

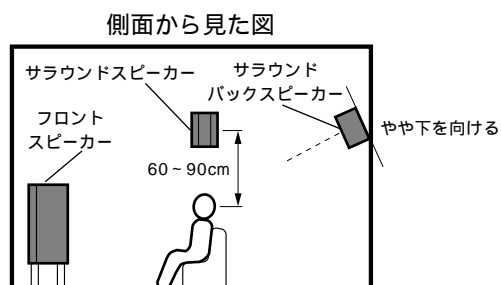
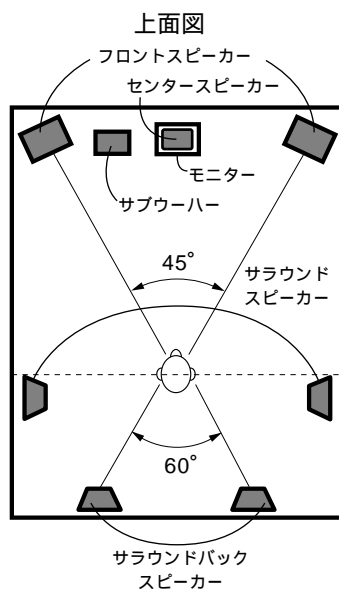
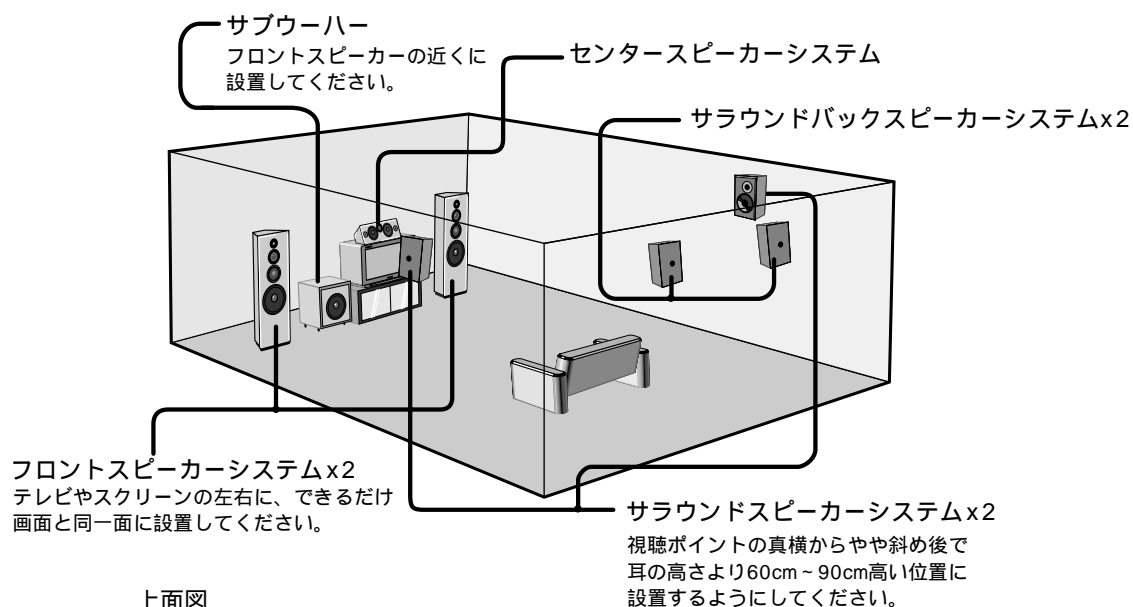
本ページから17ページまでは、ホームシアターを簡単にお楽しみいただくための簡易ガイドです。

すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
なお、接続の際は各機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

(1）基本的なシステムレイアウト

● スピーカーシステム（8台）とテレビを組み合わせた、基本的なシステムレイアウトの例です。

上面図

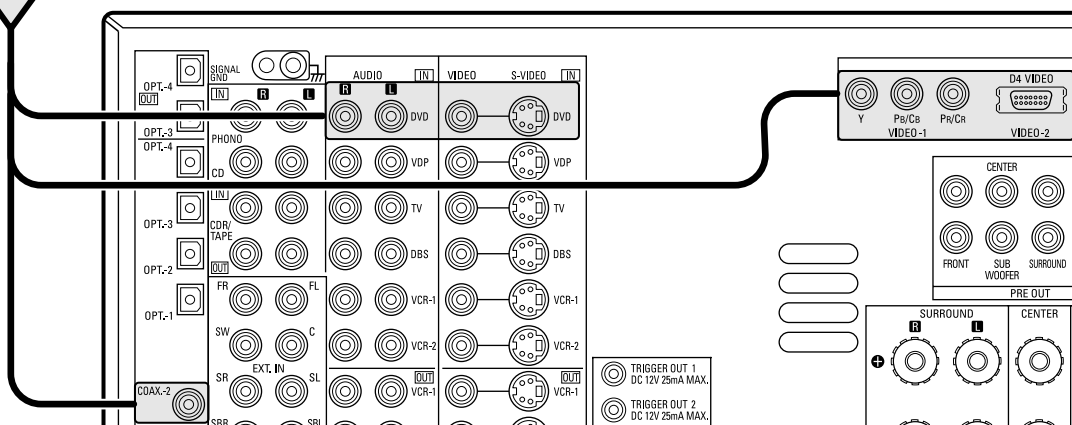
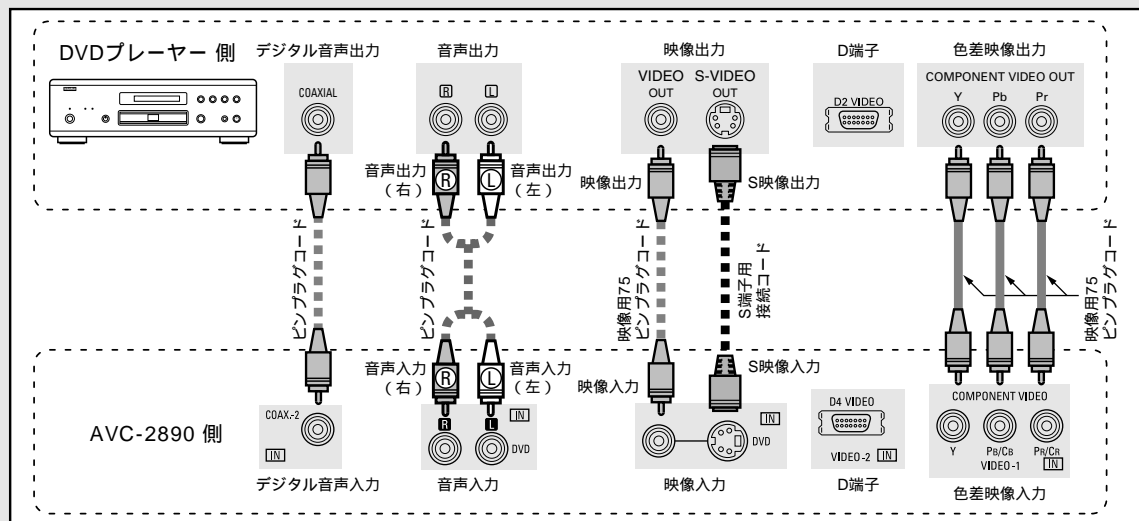
フロントスピーカー
センタースピーカー
モニター
サブウーハー
45°
サラウンド
スピーカー
60°
サラウンドバック
スピーカー

● フロント、センタースピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならない所に置いてください。
● サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあったほうが理想的です。
● センタースピーカーをテレビの上に置いたり、サラウンドスピーカーを壁に吊るす場合、地震で落下したりしないよう、しっかりと固定してください。

※ 詳しくは「システムセットアップのしかた」（30～59ページ）をご参照ください。

側面から見た図

簡単にホームシアターを楽しむ（つづき）

（2）DVDプレーヤーのつなぎかた

映像用コード、音声用コードをそれぞれの端子に間違えないように接続してください。
※ ドルビーデジタル、DTS等マルチチャンネル信号を再生する場合は、デジタル音声の接続が必要です。
※ 色差映像の接続は、映像用75Ωピンプラグコード以外に、D端子ケーブルで接続して再生をお楽しみいただくこともできます。

デジタル入力の設定

★ デジタル信号は、ここにご紹介した以外の方法で本機に接続し、再生をお楽しみいただくことができます。
（例えば、CDプレーヤーを光伝送ケーブルで、DBS（BSデジタルチューナー）を75Ω同軸ピンプラグコードで接続することもできます。詳しくは48ページをご覧ください。）

リモコンでデジタル入力端子を、AV機器を接続したい入力ソースに対して割り当てます。

① System Setup Menu画面でDigital In Assignを選択し画面を切り替えます。
② 入力ソースに割り当てたいデジタル入力端子を選択します。

色差映像入力の設定

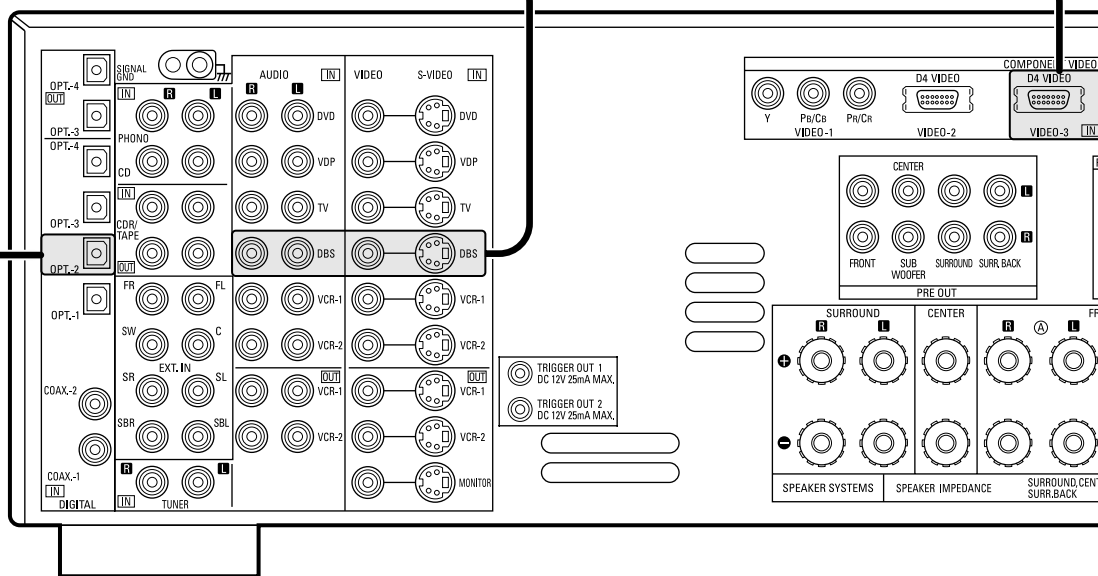
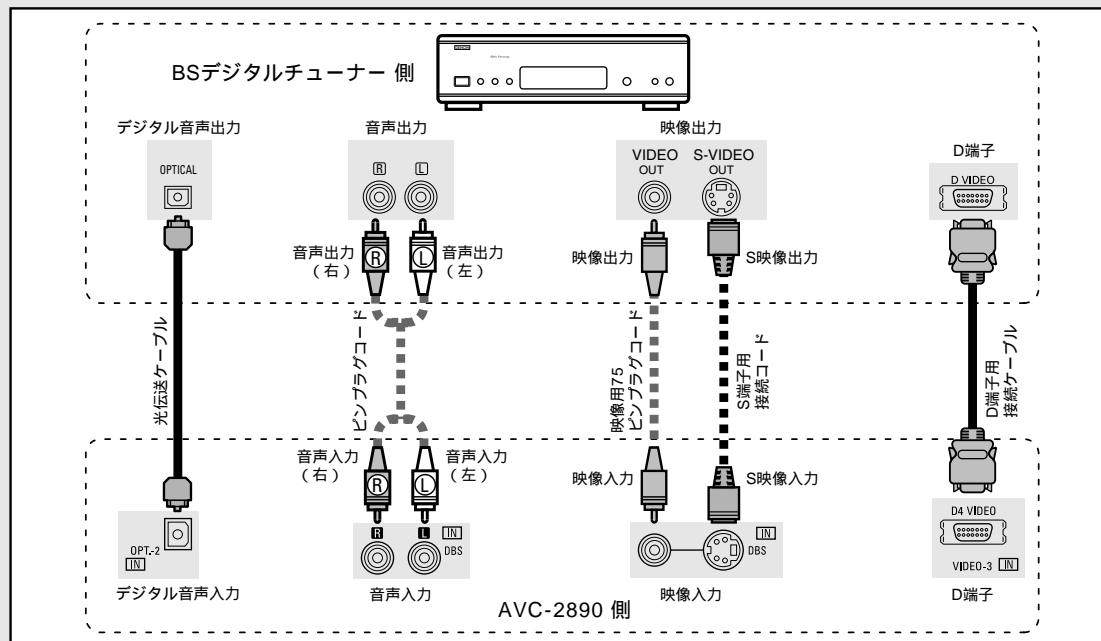
★ 色差映像信号は、ここにご紹介した以外の方法で本機に接続し、再生をお楽しみいただくことができます。
（例えば、DVDプレーヤーをD端子ケーブルで接続することもできます。詳しくは50ページをご覧ください。）

リモコンで色差映像入力端子を、AV機器を接続したい入力ソースに対して割り当てます。

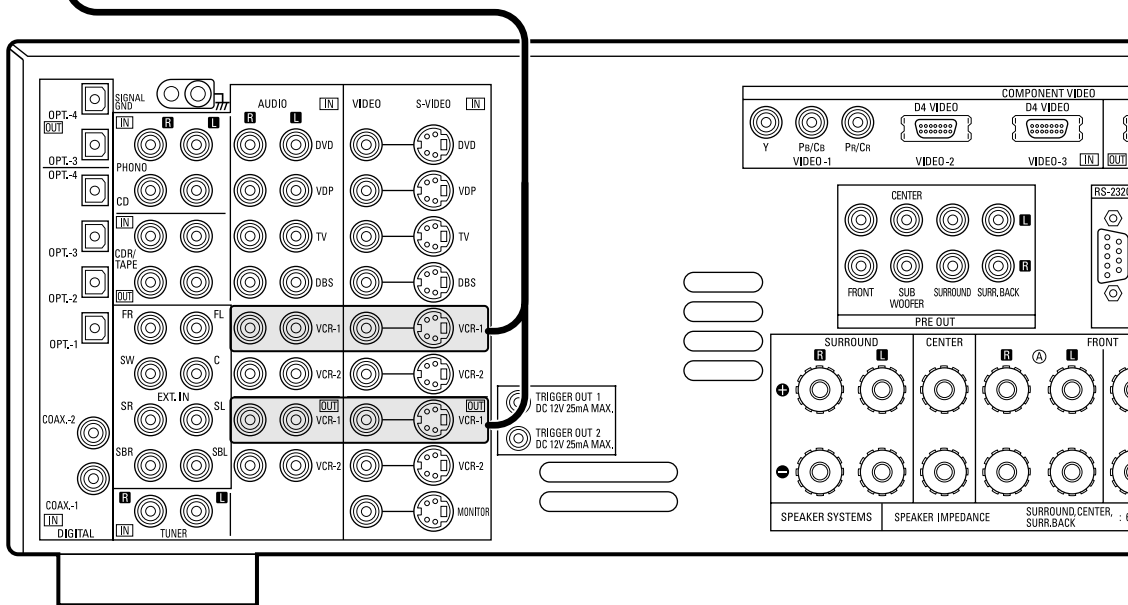
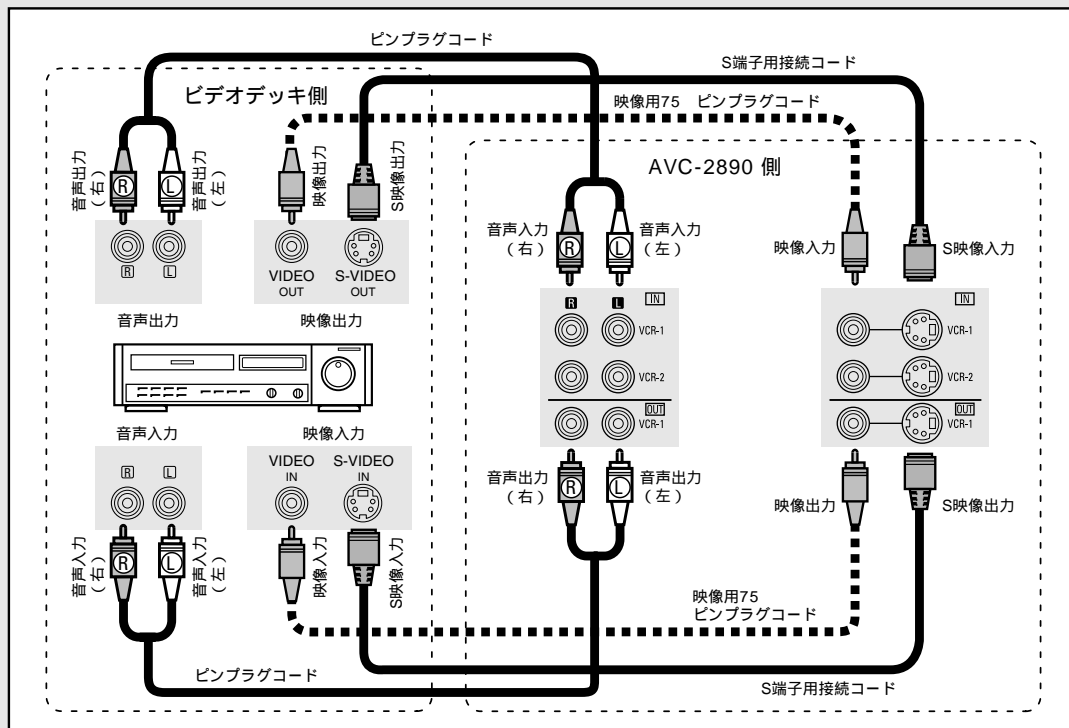
① System Setup Menu画面でComponent In Assignを選択し、画面を切り替えます。
② 入力ソースに割り当てたい色差映像入力端子を選択します。

簡単にホームシアターを楽しむ（つづき）

(3) BSデジタルチューナー（DBS）のつなぎかた

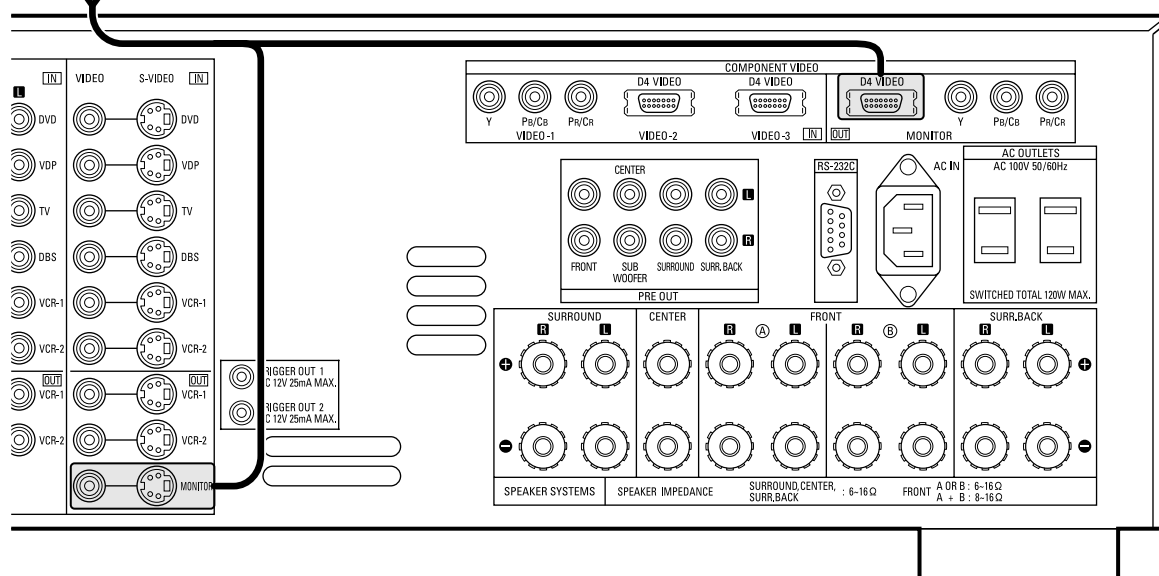
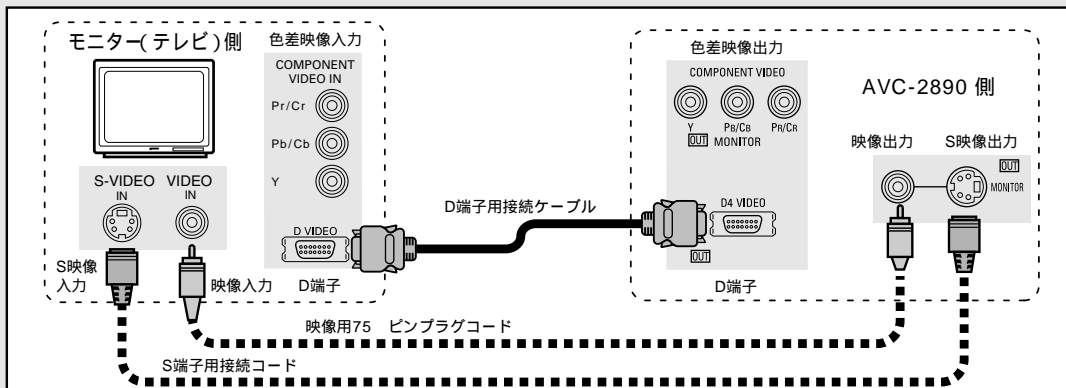
映像用コード、音声用コードをそれぞれの端子に間違えないように接続してください。
接続するコードは、それぞれ種類が異なります。間違いのないように注意してください。

簡単にホームシアターを楽しむ（つづき）

（4）ビデオデッキ（VCR）のつなぎかた

映像用コード、音声用コードをそれぞれの端子に間違えないように接続してください。
S端子付きビデオをご使用の場合は、S映像ケーブルをつなぐと、よりきれいな映像で楽しめます。

簡単にホームシアターを楽しむ（つづき）

(5) モニター（テレビ）のつなぎかた

★ 本機は映像信号のアップコンバート機能を装備しています。
このため、再生機器と本機の映像入力端子との接続方法に関わらず、本機のモニターアウト端子とモニター（テレビ）間の接続方法については、より高品位な接続方法のケーブルを1本接続するだけで視聴できます。複数のケーブルで接続する場合、モニター（TV）によっては入力信号の自動検出回路の働きにより、映像が途切れたりする場合があります。このときには、必要のないケーブルを抜いてください。
★ 映像信号の接続方法については、一般的に①コンポーネント映像（D）端子、②S映像端子、③ビデオ映像端子（黄）の順で高品位な再生をおこなうことができます。
★ 本機のモニターアウト端子とモニター（テレビ）間をコンポーネント映像（D）端子で接続しない場合は、再生機器と本機の映像入力端子との接続方法はビデオ映像端子（黄）またはS映像端子のどちらかで接続してください。再生機器と本機の映像入力端子をコンポーネント映像（D）端子のみで接続すると映像信号は出力されません。
★ モニターアウト端子以外の映像出力端子については、コンバート機能がないため、録画する場合には個々に接続が必要となります。（20、21、23ページ参照）

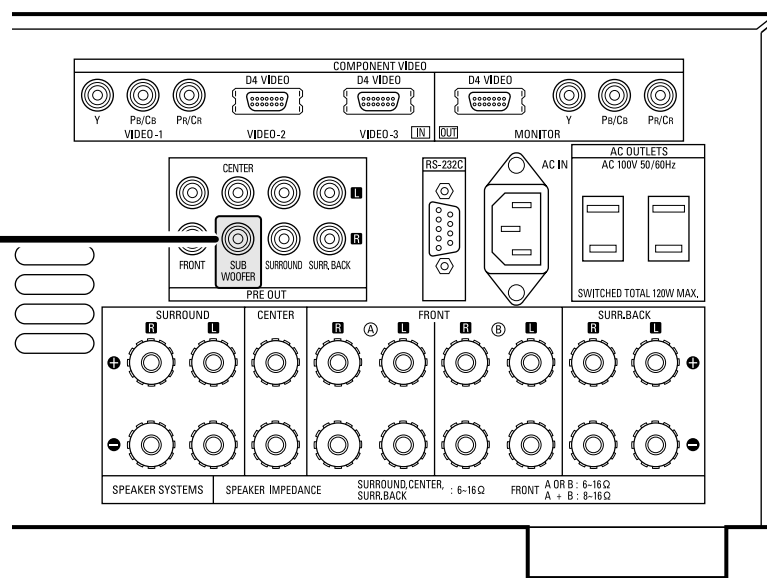
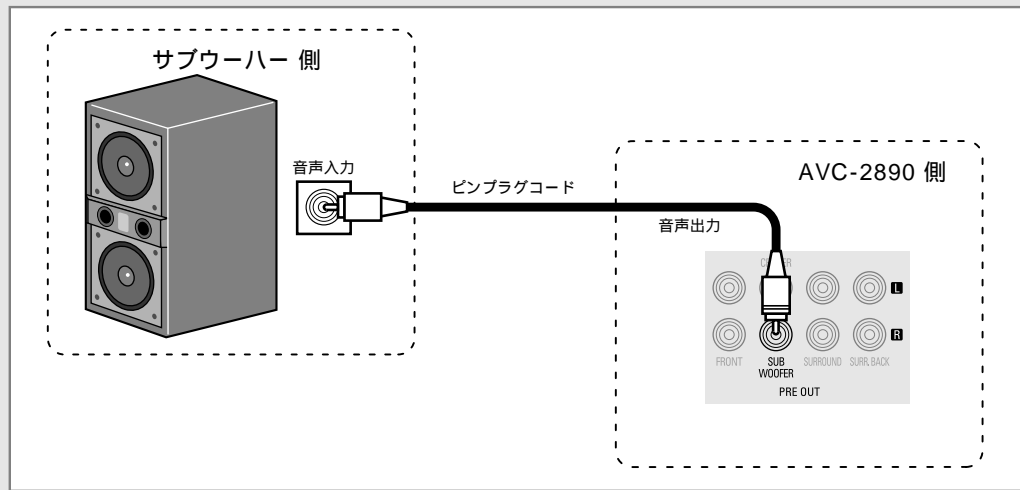
映像ケーブルを使って、モニター（テレビ）を接続します。
※ 色差映像出力を75Ωピンプラグコードでモニター（テレビ）に接続した場合、D端子から入力された解像度などの識別信号は出力されません。
※ 色差映像出力とモニター（テレビ）は、D端子ケーブルか映像用75Ωピンプラグコードのどちらか片方で接続してください。

★ コンポーネント映像端子に入力された信号は、VIDEO映像出力端子（黄）ならびにS端子からは出力されません。
★ テレビやモニターによって色差映像入力端子の表示が異なります。（Pr、Pb、Y/Cr、Cb、Y/R-Y、B-Y、Yなど）
詳しくはテレビなどに付属の取扱説明書をよくお読みください。

簡単にホームシアターを楽しむ（つづき）

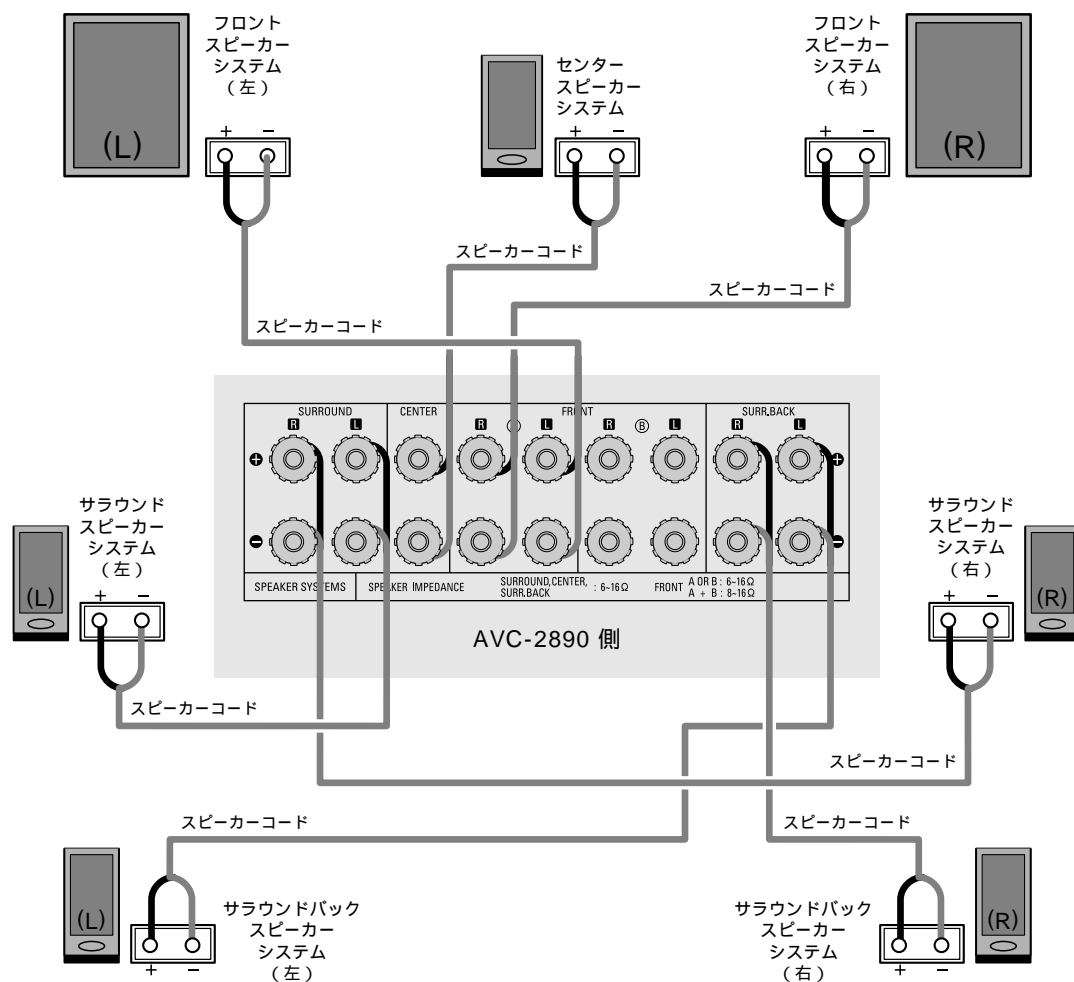
(6) サブウーハーのつなぎかた

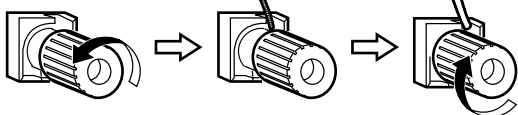
ピンプラグコードを使って、アンプ内蔵サブウーハー（スーパーウーハー）をサブウーハー端子に接続してください

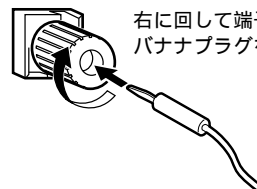
※ サブウーハーを2本使うときは市販のモノ-ステレオアダプターをお求めください。

※ サブウーハーがアンプ内蔵でないときは、別のアンプに接続してからご使用ください。

簡単にホームシアターを楽しむ（つづき）

（7）スピーカーのつなぎかた

スピーカーコードを使って、スピーカー端子にスピーカーシステムをつなぎます。
※ 本機のスピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性（＋と＋、－と－）を接続してください。
※ 接続の際、スピーカーコードの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないように、また、スピーカーコードの芯線どうし、および芯線がリアパネルに接触しないように注意してください。

■ **スピーカーコードの接続**

1.スピーカー端子を左に回してゆるめます。
2.コードの芯線を差し込みます。
3.右に回して端子を締めます。

※芯線は先をよくねじると接続しやすいです。

■ **バナナプラグの接続**

右に回して端子を締めつけ、バナナプラグを挿入します。

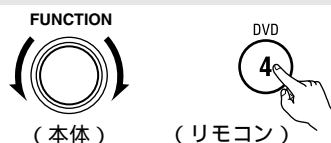
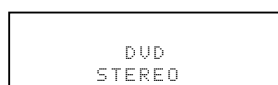
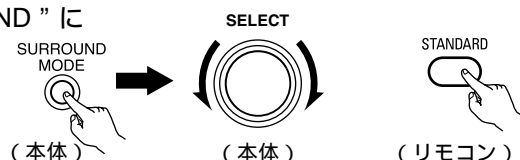
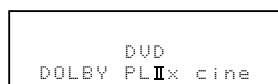
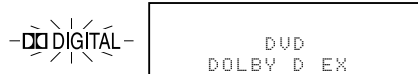
接続はこれでおしまいです。
つなぎ間違いはありませんか？
もう一度だけ確認してみましょう。

簡単にホームシアターを楽しむ（つづき）

最適なサラウンド再生を楽しむために

最適なサラウンド再生をおこなうためには、各種パラメーターを設定することが必要です。
「システムセットアップのしかた（1）～（5）」（30～59ページ）を参照して設定をおこなってください。

（8）DVDソフトをサラウンド再生しましょう

●詳しくは64～73ページをご覧ください。

（9）音、映像は出力されましたか？

●音、映像が出力されない場合は次の項目を確認してください。

現　象	原　因	処　置
ディスプレイが“ DTS ES MTRX6.1 ”の表示にならない。	●DVDプレーヤーが、DTS対応のプレーヤーではない。 ●DVDプレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。 ●サラウンドバックスピーカーがOFFになっている。	●DTS対応のプレーヤーを使用してください。 ●DVDプレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をお読みください。 ●本体またはリモコンのサラウンドバックボタンでサラウンドバックチャンネルをONにしてください。
ディスプレイが“ DOLBY D EX ”の表示にならない。	●DVDプレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。 ●サラウンドバックスピーカーがOFFになっている。	●DVDプレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をお読みください。 ●本体またはリモコンのサラウンドバックボタンでサラウンドバックチャンネルをONにしてください。
映像が出ない。	●プレーヤーとの接続がコンポーネント端子でモニター（TV）との接続がコンポジット端子（黄）またはS端子になっている。	●プレーヤーとの接続をコンポジット端子（黄）またはS端子にするか、モニター（TV）との接続をコンポーネント端子にしてください。

6 接続のしかた

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 電源プラグはしっかり差し込んでください。
  不完全な接続は、雑音発生の原因となります。
- ACアウトレットへはオーディオ機器の電源プラグを差し込み、ドライヤーなどオーディオ機器以外の電源としては使用しないでください。CDプレーヤーやレコードプレーヤー、テープデッキなど本機に接続した機器の電源プラグを差し込んでおくと便利です。
- 接続コードと電源コードを一緒に束ねたり、電源トランスなど他の電気製品の近くに接続コードを設置すると、ハムや雑音の原因となることがあります。
- レコードプレーヤーを接続しないで音量を上げたときに、“ ブーン ” という誘導ハム音がスピーカーから出ることがあります。なお、本機のアース端子（SIGNAL GND）はレコードプレーヤーを接続した場合の雑音を低減をはかるもので、安全アースではありません。
- 本機の背面の通風口をふさがないように、各接続コードを配線してください。温度保護回路が作動することがあります。

ステレオ音のエチケット

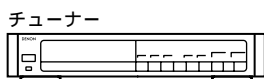
◎楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
◎隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
◎ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。
◎特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
◎窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
◎お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

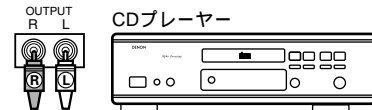
接続のしかた（つづき）

（1）オーディオ機器の接続

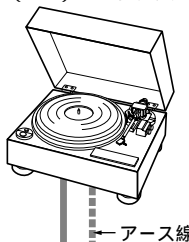
★ 接続の際は、各機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

チューナーの接続

チューナーの出力（OUTPUT）端子と本機のTUNER端子をピンプラグコードで接続します。

CDプレーヤーの接続

CDプレーヤーのアナログ出力（ANALOG OUTPUT）端子と本機のCD端子をピンプラグコードで接続します。

ACアウトレットへの接続について

SWITCHED（合計容量120W）：
本体の電源ボタンと連動して電源がON/OFFします。また、リモコンで電源をON/STANDBYした場合にも連動します。本体のスタンバイ中はACアウトレットはOFFとなります。合計で120W以上の機器は絶対に接続しないでください。

レコードプレーヤー（MM）カートリッジ

レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤー出力コードを本機のPHONO端子に、Lプラグは L端子に、Rプラグは R端子にそれぞれ接続します。

ご注意

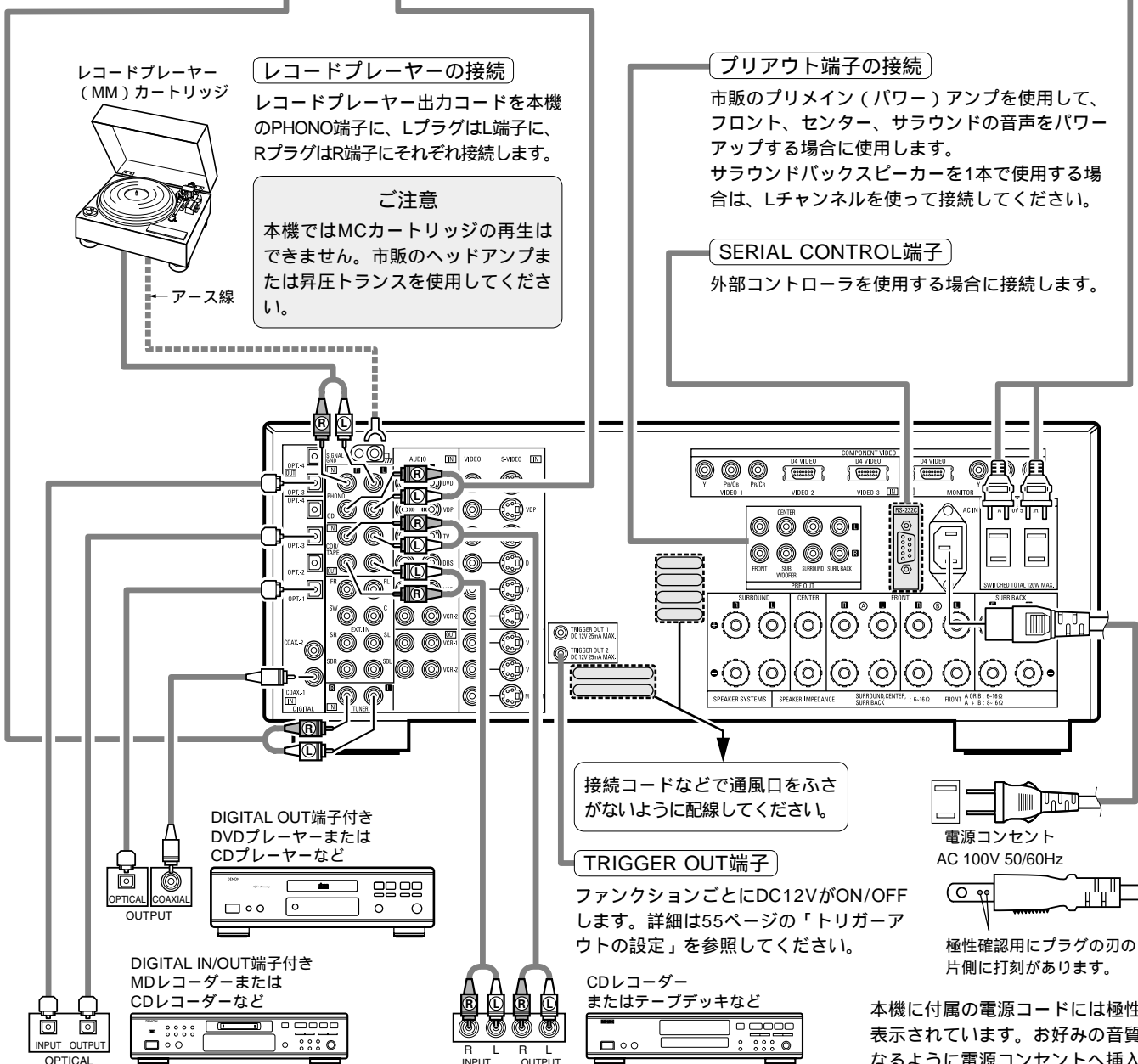
本機ではMCカートリッジの再生はできません。市販のヘッドアンプまたは昇圧トランスを使用してください。

← アース線

プリアウト端子の接続

市販のプリメイン（パワー）アンプを使用して、フロント、センター、サラウンドの音声をパワーアップする場合に使用します。
サラウンドバックスピーカーを1本で使用する場合は、Lチャンネルを使って接続してください。

SERIAL CONTROL端子

外部コントローラを使用する場合に接続します。

接続コードなどで通風口をふさがないように配線してください。

電源コンセント
AC 100V 50/60Hz

極性確認用にプラグの刃の片側に打刻があります。

DIGITAL OUT端子付き
DVDプレーヤーまたは
CDプレーヤーなど

OPTICAL COAXIAL
OUTPUT

TRIGGER OUT端子

ファンクションごとにDC12VがON/OFFします。詳細は55ページの「トリガーアウトの設定」を参照してください。

DIGITAL IN/OUT端子付き
MDレコーダーまたは
CDレコーダーなど

INPUT OUTPUT
OPTICAL

R L R L
INPUT OUTPUT

CDレコーダー
またはテープデッキなど

- 本機に付属の電源コードには極性が表示されています。お好みの音質になるように電源コンセントへ挿入してください。

デジタル入力端子への接続について

- DIGITAL OUTPUT端子の付いている機器を接続します。接続後はデジタル入力の設定をおこなってください。（48ページ参照）
- 同軸（COAXIAL）タイプの接続は、75Ω同軸ケーブル（別売り）を使用してください。
- 光伝送（OPTICAL）の接続は光伝送ケーブル（別売り）を使用し、キャップを外してから接続してください。

テープデッキの接続

録音用の接続： テープデッキの録音入力（LINE INまたはREC）端子と本機のCDR/TAPE OUT端子をピンプラグコードで接続します。

再生用の接続： テープデッキの再生出力（LINE OUTまたはPB）端子と本機のCDR/TAPE IN端子をピンプラグコードで接続します。

接続のしかた（つづき）

(2) ビデオ機器の接続

★ 映像信号を接続するときは、必ず映像用75Ωピンプラグコード（別売り）を使用してください。
★ 接続の際は、各機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。
★ 本機は映像信号のアップコンバート機能を装備しています。
★ ビデオ映像端子に接続された信号は、S映像およびコンポーネント（D端子）映像のモニターアウト端子から出力されます。
★ REC OUT端子についてはコンバート機能がないため、録画する場合にはビデオ映像端子のみで接続してください。

TVまたはDBSチューナーの接続

TVまたはDBS端子

- TVまたはDBSチューナーの映像出力（VIDEO OUTPUT）端子と本機のVIDEO TV INまたはVIDEO DBS IN端子（黄）を映像用75Ωピンプラグコードで接続します。
- TVまたはDBSチューナーの音声出力（AUDIO OUTPUT）端子と本機のAUDIO TV INまたはAUDIO DBS IN端子をピンプラグコードで接続します。

DVDプレーヤーの接続

DVD端子

- DVDプレーヤーの映像出力（VIDEO OUTPUT）端子と本機のVIDEO DVD IN端子（黄）を映像用75Ωピンプラグコードで接続します。
- DVDプレーヤーのアナログ音声出力（ANALOG AUDIO OUTPUT）端子と本機のAUDIO DVD IN端子をピンプラグコードで接続します。
- 同様の方法でビデオディスクプレーヤーをVDP端子へ接続することができます。
- また、V.AUX端子にもDVDプレーヤー、ビデオディスクプレーヤー、ビデオカムコーダー、ゲーム機などを接続することができます。

モニターTVの接続

MONITOR OUT端子

- TVの映像入力（VIDEO INPUT）端子と本機のVIDEO MONITOR OUT端子を映像用75Ωピンプラグコードで接続します。

デジタル入力端子への接続について

※ デジタル入力端子に入力されるのは音声信号のみです。
詳細は19ページを参照してください。

ビデオデッキの接続

VCR-1、VCR-2端子

- ビデオデッキ（VCR）端子は2系統あり、2台のビデオデッキを接続して同時録画やビデオコピー（ダビング）がおこなえます。

映像入出力の接続： ビデオデッキの映像出力（VIDEO OUT）端子と本機のVIDEO VCR-1 IN端子（黄）およびビデオデッキの映像入力（VIDEO IN）端子と本機のVIDEO VCR-1 OUT端子（黄）を映像用75Ωピンプラグコードで接続します。

音声入出力の接続： ビデオデッキの音声出力（AUDIO OUT）端子と本機のAUDIO VCR-1 IN端子、およびビデオデッキの音声入力（AUDIO IN）端子と本機のAUDIO VCR-1 OUT端子をピンプラグコードで接続します。

※ 上記と同様の方法で2台目のビデオデッキをVCR-2端子に接続することができます。

ご注意

- **ドルビーデジタルRF出力端子付きLDプレーヤーの接続について**
  デジタル入力端子にLDプレーヤーのドルビーデジタルRF出力端子を接続する場合は、市販のアダプターを使用してください。
  接続の際には、アダプターの取扱説明書もあわせてご覧ください。

（3）S映像端子付きビデオ機器の接続

★ 接続の際は、各機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。
★ 本機は映像信号のアップコンバート機能を装備しています。
★ S映像端子に接続された信号は、ビデオ映像およびコンポーネント（D端子）映像のモニターアウト端子から出力されます。
★ REC OUT端子についてはコンバート機能がないため、録画する場合にはS映像端子のみで接続してください。

DVDプレーヤーの接続

DVD端子

- DVDプレーヤーのS映像出力（S-VIDEO OUTPUT）端子と本機のS-VIDEO DVD IN端子をS端子用接続コードで接続します。
- 同様の方法でビデオディスクプレーヤーをVDP端子に接続することができます。
- また、V.AUX端子にDVDプレーヤー、ビデオディスクプレーヤー、ビデオカムコーダー、ゲーム機などを接続することができます。

モニターTVの接続

MONITOR OUT端子

- モニターTVのS端子映像入力（S-VIDEO INPUT）端子と本機のS-VIDEO MONITOR OUT端子をS端子用接続コードで接続します。

TVまたはDBSチューナーの接続

TVまたはDBS端子

- TVまたはDBSチューナーのS端子映像出力（S-VIDEO OUTPUT）端子と本機のS-VIDEO TV INまたはS-VIDEO DBS IN端子をS端子用接続コードで接続します。

ビデオデッキの接続

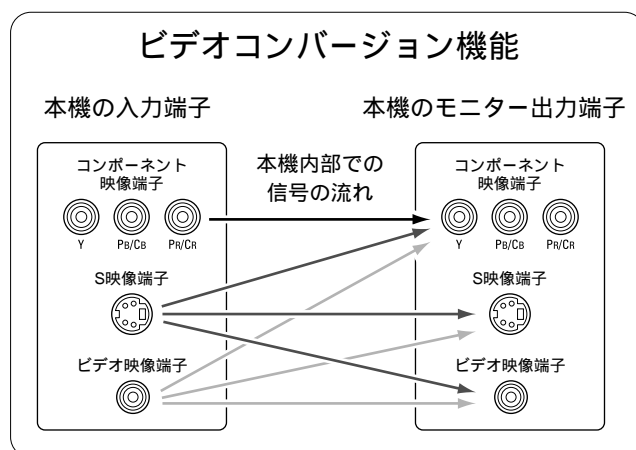
VCR-1、VCR-2端子

- ビデオデッキ1のS端子出力（S-OUT）端子と本機のS-VIDEO VCR-1 IN端子、およびビデオデッキのS端子入力（S-IN）端子と本機のS-VIDEO VCR-1 OUT端子をS端子用接続コードで接続します。
- ビデオデッキ2のS端子出力（S-OUT）端子と本機のS-VIDEO VCR-2 IN端子、およびビデオデッキのS端子入力（S-IN）端子と本機のS-VIDEO VCR-2 OUT端子をS端子用接続コードで接続します。

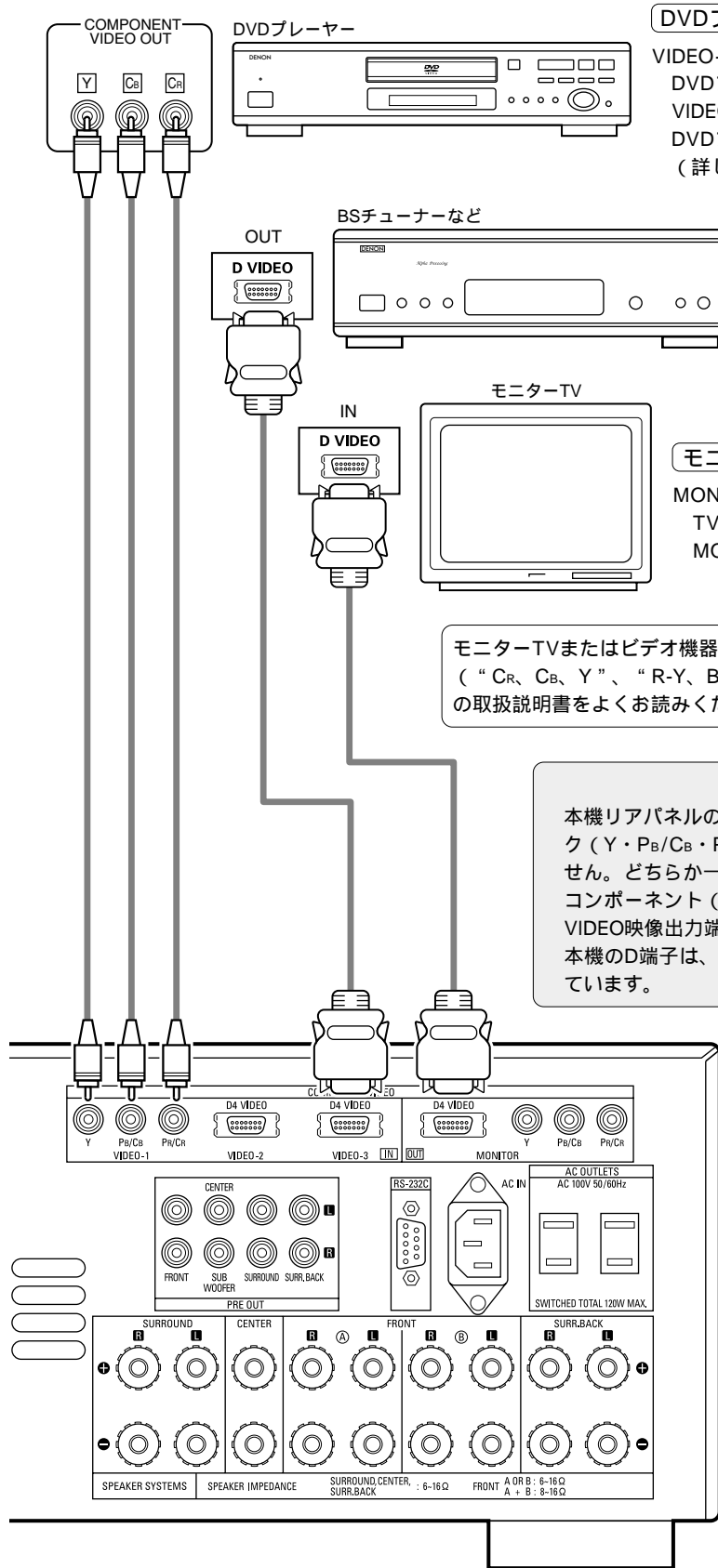
それぞれの機器の音声入(出) 力については20ページと同様に接続をおこなってください。

接続のしかた（つづき）

（4）コンポーネント（D端子、Y・PB/CB・PR/CR）映像端子付きビデオ機器の接続

★ 接続の際は、各機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。
★ 本機には、コンポーネント映像入力端子（COMPONENT VIDEO INPUT）にピンジャック（Y・PB/CB・PR/CR）とD4映像入力端子（D4 VIDEO INPUT）があり、どちらに入力された映像信号も切り替えてCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子に出力することができます。
★ 本機とD端子付きDVDプレーヤー、BSチューナー、モニターTVなどを接続する場合は、D端子から入力された解像度等の識別信号を伝送するD端子用ケーブルのご使用を推奨します。
★ テレビやモニターのコンポーネント映像入力端子（ピンジャック）を使用する場合は、映像用75Ωピンプラグコードで本機と接続してください。
★ コンポーネント（D端子、Y・PB/CB・PR/CR）映像入力はシステムセットアップでファンクションの割り当てを変更することができます。詳細は50ページの「コンポーネント（D端子、Y・PB/CB・PR/CR）映像入力の設定」を参照してください。
★ 本機は映像信号のアップコンバート機能を装備しています。
このため、再生機器と本機の映像入力端子との接続方法に関わらず、本機のモニターアウト端子とモニター（テレビ）間の接続方法については、より高品位な接続方法のケーブルを1本接続するだけで視聴できます。
★ 映像信号の接続方法については、一般的に①コンポーネント映像（D）端子、②S映像端子、③ビデオ映像端子（黄）の順で高品位な再生をおこなうことができます。
★ 本機のモニターアウト端子とモニター（テレビ）間をコンポーネント映像（D）端子で接続しない場合は、再生機器と本機の映像入力端子との接続方法はビデオ映像端子（黄）またはS映像端子のどちらかで接続してください。再生機器と本機の映像入力端子をコンポーネント映像（D）端子のみで接続すると映像信号は出力されません。
★ コンポーネントビデオ信号からS-ビデオ、コンポジットビデオ信号へのダウンコンバートはできませんので、コンポーネントビデオモニターアウト端子を使用しない場合は、S-ビデオまたはコンポジットビデオ入力端子で再生機器と接続してください。

映像信号のアップコンバート機能についてのご注意

本機とテレビ（モニター、プロジェクターなど）との接続にコンポーネント映像端子を使用し、本機とVTR（ビデオ）を映像端子（黄色）またはS映像端子を使用して接続した場合、ご使用になるテレビとVTRの組み合わせによっては、ビデオテープを再生したときの画像に横方向の揺れや歪みが発生したり、同期が外れて映らなくなる場合があります。
このような場合には、市販のTBC（タイムベースコレクター）機能を持ったビデオスタビライザーなどを本機とVTRの間に挿入し接続するか、お手持ちのVTRにTBC機能がある場合は機能を『ON』にしてご使用ください。
Sモニター出力端子を接続しないと、S入力信号はコンバートしません。Sモニター出力端子を接続しないでS入力信号をコンバートさせる場合は、ビデオ入力モードの設定を『S-Video』に設定してください。
（詳しくは、51ページを参照してください。）

接続のしかた（つづき）

DVDプレーヤーの接続

VIDEO-1 IN端子

- DVDプレーヤーの色差映像出力端子と本機のCOMPONENT VIDEO-1 IN端子を映像用75Ωピンプラグコードで接続します。
- DVDプレーヤーをD端子で接続することもできます。（詳しくは50ページをご覧ください。）

BSチューナーの接続

VIDEO-3 IN端子

- BSチューナーのD映像出力（D VIDEO OUTPUT）端子と本機のVIDEO-3 D4 VIDEO IN端子をD端子用接続ケーブルで接続します。
- 同様にVIDEO-2 D4 VIDEO IN端子にもう1台のBSチューナーなどを接続することが可能です。

モニターTVの接続

MONITOR OUT端子

- TVのD映像入力（D VIDEO INPUT）端子と本機のD4 VIDEO MONITOR OUT端子をD端子用接続ケーブルで接続します。

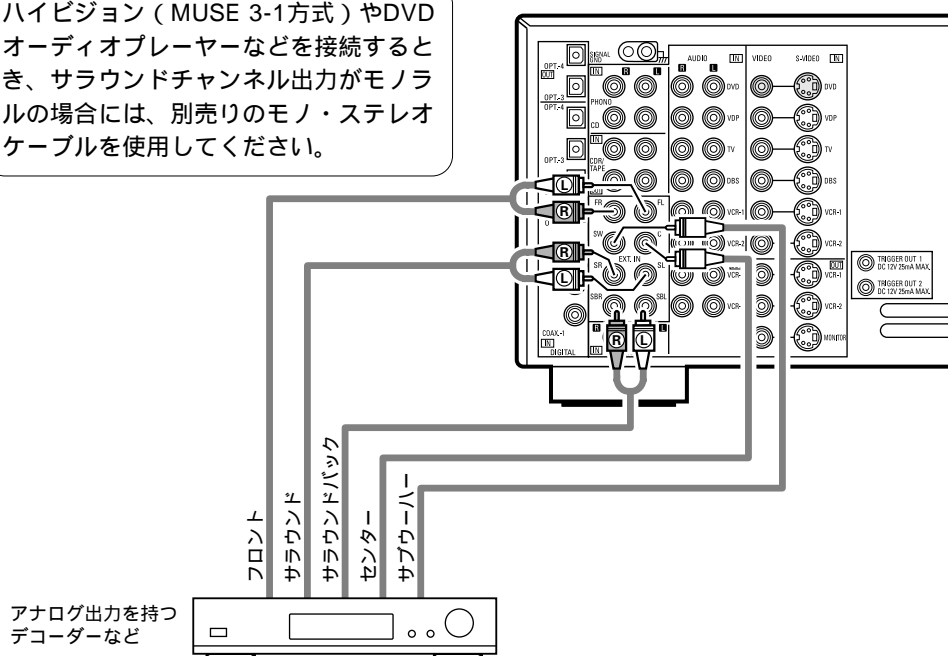
モニターTVまたはビデオ機器によってコンポーネント映像入力端子の表示が異なります。（“ CR、CB、Y ”、“ R-Y、B-Y、Y ”、“ Pr、Pb、Y ”など）詳しくは、テレビなどに付属の取扱説明書をよくお読みください。

ご注意

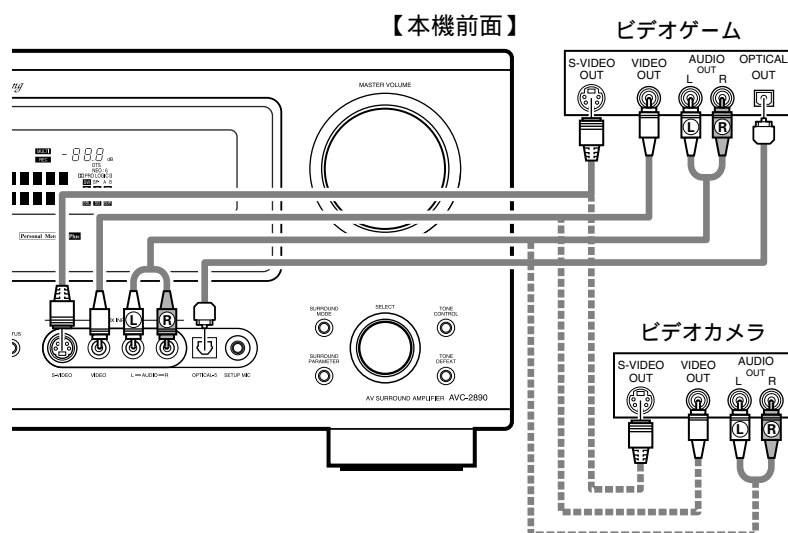
- 本機リアパネルのCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子は、ピンジャック（Y・PB/CB・PR/CR）、D4 VIDEO端子を両方同時に使用することはできません。どちらか一方のみをモニターTVに接続してください。
- コンポーネント（D端子、Y・PB/CB・PR/CR）映像端子に入力された信号は、VIDEO映像出力端子（黄）およびS端子からは出力されません。
- 本機のD端子は、D_1～D_4（525i、525p、1125i、750p）の映像信号に対応しています。

接続のしかた（つづき）

（5）外部入力（EXT. IN）端子の接続

★ この入力端子は、ハイビジョンのMUSE 3-1方式、DVDオーディオプレーヤーなどのマルチ・チャンネル音声を入力するための端子です。
★ 接続の際は、各機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

※ 外部入力（EXT. IN）端子での再生については、63ページをご覧ください。

（6）V.AUX入力端子の接続

★ 映像信号を接続するときは、必ず市販の映像用75Ω同軸ピンプラグコードを使用してください。
★ 接続の際は、各機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

ビデオカメラまたはテレビゲーム機器の接続

- ビデオカメラまたはテレビゲーム機器の映像出力（VIDEO OUTPUT）端子と本機のV. AUX INPUTのVIDEO端子を映像用75Ω同軸ピンプラグコードで接続します。
- ビデオカメラまたはテレビゲーム機器のアナログ音声出力（ANALOG AUDIO OUTPUT）端子と本機のV. AUX INPUTのAUDIO端子をピンプラグコードで接続します。

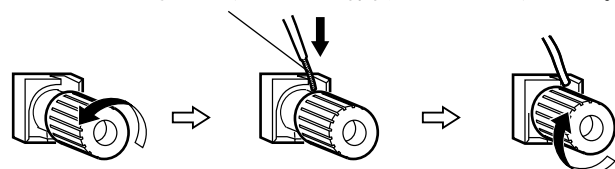
接続のしかた（つづき）

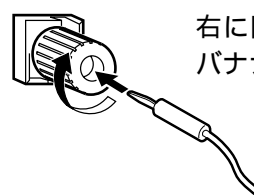
（7）スピーカーシステムの接続

- スピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性（⊕と⊕、⊖と⊖）を接続してください。
- 接続の際、スピーカーコードの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーコードの芯線どうし、および芯線がリアパネルに接触しないようにご注意ください。

■スピーカーのインピーダンスについて

- センター、サラウンドおよびサラウンドバック用スピーカーは、インピーダンスが6〜16Ωのスピーカーをご使用ください。
- フロント用スピーカーシステムAまたはBのどちらか一方を使用する場合は、インピーダンスが6〜16Ωのスピーカーをご使用ください。
- フロント用スピーカー2組（A＋B）を同時に使用する場合は、インピーダンスが8〜16Ωのスピーカーをご使用ください。
- 指定されたインピーダンス以下のスピーカーを使用して、長時間にわたって再生したり、大出力で楽しんだりすると、保護回路が動作することがあります。

■スピーカーコードの接続

① スピーカー端子を左に回してゆるめます。　②コードの芯線を差し込みます。　③ 右に回して端子を締めます。

■バナナプラグの接続

右に回して端子を締め付け、バナナプラグを挿入します。

ご注意

通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

保護回路について

本機には高速プロテクター回路が内蔵されています。これはパワーアンプの出力が誤って短絡された際に大電流が流れたり、本機の周囲の温度が異常に高くなったり、または長時間にわたり、本機を大出力で使用した際の極端な温度上昇などが発生した場合に、スピーカーを保護するためのものです。
保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源表示LEDが点滅します。このような場合は、電源コードを抜いてからスピーカーコードや入力コードの配線に異常がないかを確認の上、本機の温度が極端に上がっている場合は本機が冷えるのを待って、周囲の通風状態を良くしてから、もう一度電源コードを挿入して、本機の電源を入れ直してください。
配線や本機の周囲の通風に問題がないのにも関わらず、保護回路が動作してしまう場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で、弊社お客様相談窓口または修理相談窓口にご連絡ください。

スピーカーインピーダンスにおけるご注意

指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例えばスピーカーインピーダンスが4Ωなど）を使用して、長時間にわたり大出力で再生したりすると、極端な温度上昇などにより保護回路が動作することがあります。保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断されますので、電源コードを抜いてください。本機が冷えるのを待って、周囲の通風状態を良くしてから、もう一度電源コードを挿入して電源を入れ直してください。

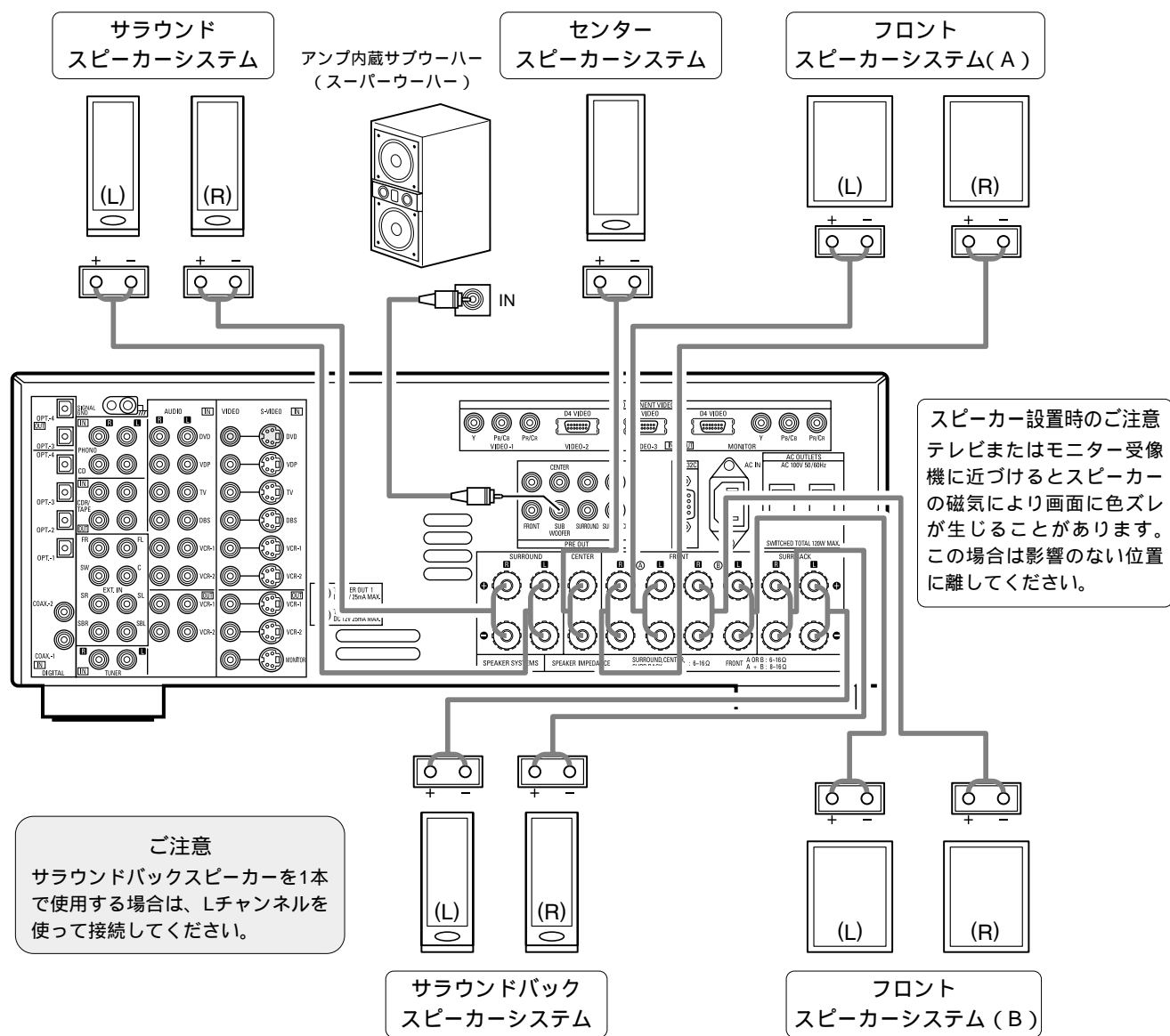
■ 接続のしかた

★ 接続の際は、スピーカーの取扱説明書も合わせてご覧ください。

スピーカー設置時のご注意

テレビまたはモニター受像機に近づけるとスピーカーの磁気により画面に色ズレが生じることがあります。この場合は影響のない位置に離してください。

ご注意

サラウンドバックスピーカーを1本で使用する場合は、Lチャンネルを使って接続してください。

7 各部の名前

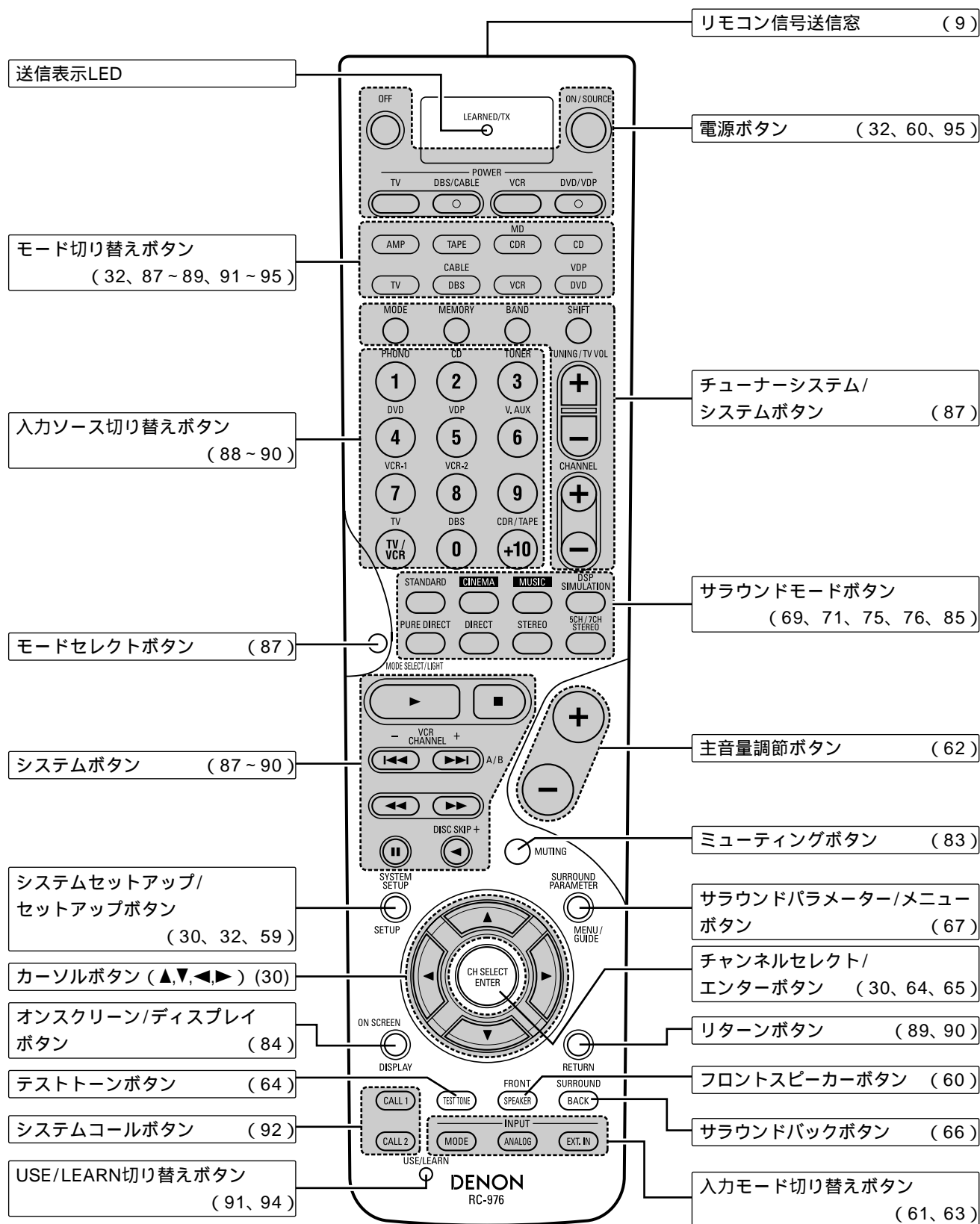
(1) フロントパネル

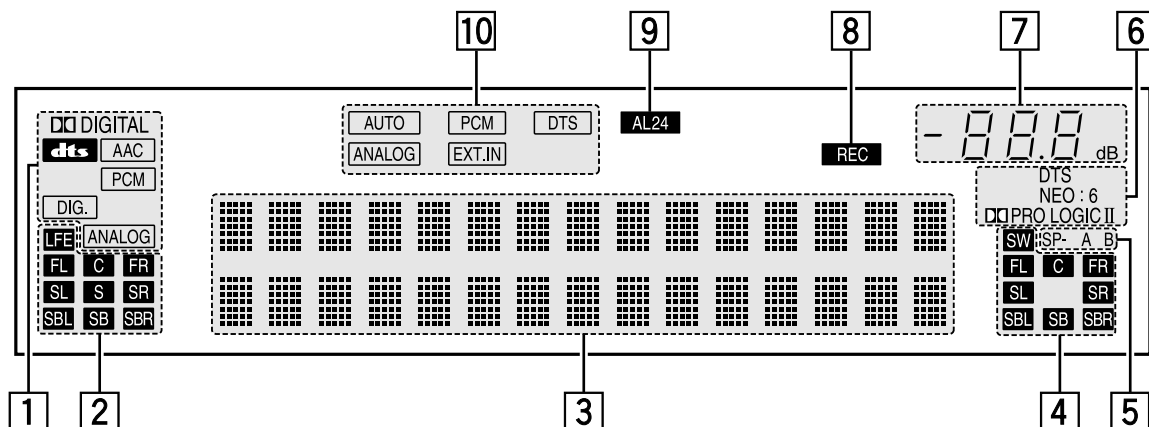
★ 各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。

1 **電源ボタン** （32、60）
2 **電源表示LED** （32、60）
3 **電源スイッチ** （32、60、105）
4 **ヘッドホンジャック（PHONES）** （83）
5 **入力モード切り替えボタン（MODE）** （61）
6 **アナログボタン（ANALOG）** （61）
7 **外部入力ボタン（EXT. IN）** （61、63）
8 **ピュアダイレクトボタン（PURE DIRECT）** （85）
9 **フロントスピーカーボタン（FRONT SPEAKER）** （60）
10 **サラウンドバックボタン（SURROUND BACK）** （66）
11 **ディマーボタン（DIMMER）** （84）
12 **ステータスボタン（STATUS）** （84）
13 **V. AUX入力端子（V. AUX INPUT）** （24）
14 **セットアップマイクジャック（SETUP MIC）** （33）
15 **サラウンドモードボタン（SURROUND MODE）** （76）
16 **サラウンドパラメーターボタン（SURROUND PARAMETER）** （67、69〜71、75〜78）
17 **セレクトつまみ（SELECT）** （76、78、83）
18 **トーンデフィートボタン（TONE DEFEAT）** （83）
19 **トーンコントロールボタン（TONE CONTROL）** （78、83）
20 **主音量調節つまみ（MASTER VOLUME）** （62）
21 **主音量表示** （62）
22 **ディスプレイ**
23 **リモコン受光部（REMOTE SENSOR）** （9）
24 **入力ファンクション切り替えつまみ（FUNCTION）** （61、72、84、86）
25 **ビデオセレクトボタン（VIDEO SELECT）** （84）
26 **録音出力切り替えボタン（REC SELECT）** （86）
27 **ソース切り替えボタン（SOURCE）** （61）

各部の名前（つづき）

(2) リモコン

★各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。
★本機以外の機器の操作（システムボタン）の説明は、87〜90ページを参照してください。

各部の名前（つづき）

(3) ディスプレイ

1 入力信号インジケーター

- 入力信号に合わせてそれぞれのインジケーターが点灯します。

2 入力信号チャンネルインジケーター

- 入力されたソースに含まれる音声チャンネルが点灯します。
- ビットストリーム信号のチャンネル表示をします。ANALOG / EXT. IN 信号入力時は点灯しません。

3 インフォメーションディスプレイ

- ファンクション名、サラウンドモードおよび設定値などを表示します。

4 出力信号チャンネルインジケーター

- 本機から出力された音声チャンネルが点灯します。

5 スピーカーインジケーター

- フロントスピーカーA / Bの設定に合わせて点灯します。

6 デコーダーインジケーター

- 本機内蔵のデコーダーが作動しているときにそれぞれのインジケーターが点灯します。

7 主音量表示

- 音量レベルまたはシステムセットアップ時の項目No. を表示します。

8 REC OUTソースインジケーター

- REC OUTモードを選択している場合に点灯します。

9 AL24インジケーター

- デジタル（PCM）信号入力時にPURE DIRECT、DIRECTおよびSTEREOを選択した場合に点灯します。

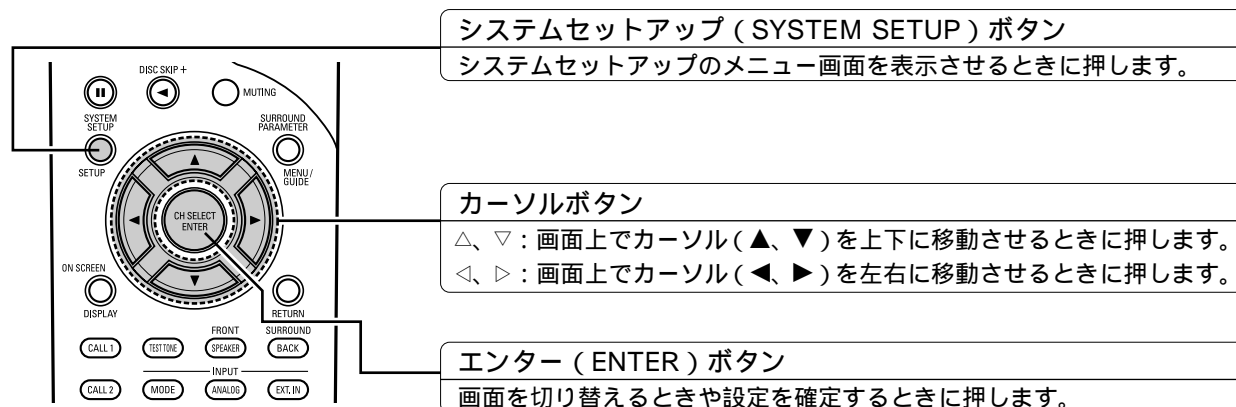
10 入力モードインジケーター

- 入力モードに合わせてそれぞれのインジケーターが点灯します。

8 システムセットアップのしかた

★「接続のしかた」（18～26ページ参照）に従って他のAV機器との接続が終わったら、本機のオンスクリーンディスプレイ機能によりモニターTV上で各種セッティングをおこないます。
これによりはじめて本機をメインとしたリスニングルームのAVシステムが完成します。

★ マイコンの初期化（105ページ参照）をおこなうことにより、システムセットアップの内容を初期値（工場出荷時）に戻すことができます。

★ システムセットアップはリモコンの下記ボタンでおこないます。

★ システムセットアップの内容と初期設定（工場出荷時）

1. Auto Setup / Room EQ

	オートセットアップ / ルームイコライザー		初期設定
①	Auto Setup	スピーカーシステムおよび部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動で設定します。	–
②	Manual EQ Setup	再生信号を聴きながら各スピーカーの音色を合わせます。	0 dB
③	Room EQ Setup	各サラウンドモードごとにRoom EQ を一括設定するか、個別設定するかを選択します。	All
④	Direct Mode Setup	サラウンドモードがダイレクトまたはピュアダイレクトモードの場合にRoom EQ を使用するかどうかを設定します。	OFF
⑤	Mic Input Select	Auto Setup に使用するマイク入力端子を選択します。	Mic

2. Speaker Setup

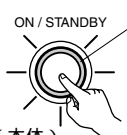
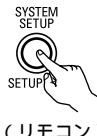
<table>
<tr><th colspan="3">スピーカーセットアップ</th><th colspan="8">初期設定</th></tr>
<tr><td rowspan="2">①</td><td rowspan="2">Speaker Configuration</td><td rowspan="2">サラウンド再生の際、実際に使用するスピーカーの組み合わせの有無や低域の再生能力に応じた大きさを入力することにより、本機内部で自動的に各スピーカーから出力される信号の成分や周波数特性が設定されます。</td><td colspan="2">Front Sp.</td><td>Center Sp.</td><td colspan="2">Subwoofer</td><td colspan="2">Surround Sp.</td><td>Surround Back Sp.</td></tr>
<tr><td colspan="2">Large</td><td>Small</td><td colspan="2">Yes</td><td colspan="2">Small</td><td>Small/2spkrs</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td rowspan="2">Delay Time</td><td rowspan="2">リスニングポジションに応じて各スピーカー、サブウーハーから発声される音声のタイミングを最適にするためのパラメーターです。</td><td colspan="2">Front L & R</td><td>Center</td><td colspan="2">Subwoofer</td><td colspan="2">Surround L & R</td><td>SBL & SBR</td></tr>
<tr><td colspan="2">3.6m（12ft）</td><td>3.6m（12ft）</td><td colspan="2">3.6m（12ft）</td><td colspan="2">3.0m（10ft）</td><td>3.0m（10ft）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③</td><td rowspan="2">Channel Level</td><td rowspan="2">最適な効果を得られるように、各スピーカーやサブウーハーから出力される音量をそれぞれチャンネルごとに調整します。</td><td>Front L</td><td>Front R</td><td>Center</td><td>Surround L</td><td>Surround R</td><td>Surround Back L</td><td>Surround Back R</td><td>Subwoofer</td></tr>
<tr><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td><td>0 dB</td></tr>
<tr><td>④</td><td>Crossover Frequency</td><td>各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下で出力するかを設定します。</td><td colspan="8">80Hz</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>Subwoofer Mode</td><td>重低音信号を再生するサブウーハー、スピーカーを選択します。</td><td colspan="8">LFE</td></tr>
</table>

（次のページに続きます。）

3. Input Setup

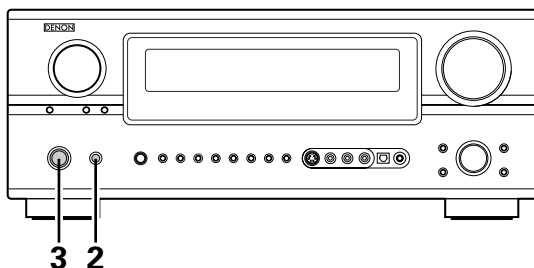
入力セットアップ				初期設定									
①	Digital in Assignment	各入力ソースに対して、デジタル入力端子を割り当てます。	入力ソース	CD	DVD	VDP	TV	DBS	V. AUX	VCR-1	VCR-2	TAPE	TUNER
			デジタル入力	COAX 1	COAX 2	OPT 1	OFF	OPT 2	OPT 5	OPT 3	OFF	OPT 4	OFF
②	Ext. In Subwoofer Level	Ext. In のサブウーハーに接続されたアナログ入力信号の再生レベルを設定します。		Subwoofer = +15dB									
③	Component In Assign	各入力ソースに対して、コンポーネントビデオ入力端子を割り当てます。	入力ソース	DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	V.AUX			
			ビデオ入力	VIDEO1	NONE	VIDEO2	VIDEO3	NONE	NONE	NONE			
④	Video Input Mode	モニターアウト端子に出力する入力信号を設定します。		AUTO									

4. Advanced Playback

アドバンス再生			初期設定
①	Audio delay	映像信号と音声信号の時間差を調整します。	0 ms
②	Dolby Digital Setup	ドルビーデジタル信号をダウンミックスするときのコンプレッションのON/OFFを設定します。	OFF
③	Auto Surround Mode	入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶するかどうかを設定します。	Auto Surround Mode = ON
④	Bilingual Mode	ドルビーデジタルソースおよびAACソースの入力に対して、二重音声の出力内容を設定します。	MAIN

5. Option Setup

オプションセットアップ			初期設定										
①	Trigger Out 1 Setup	各入力ソースに対して、トリガーアウト1の出力のON/OFFを設定します。	PHONO	CD	TUNER	CDR/TAPE	DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	V. AUX
			OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON
②	Trigger Out 2 Setup	各入力ソースに対して、トリガーアウト2の出力のON/OFFを設定します。	PHONO	CD	TUNER	CDR/TAPE	DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	V. AUX
			ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON
③	Muting Level	ミューティング時の音声出力の減衰量を設定します。	−dB										
④	On Screen Display	本機をリモコンや本体操作ボタンなどにより操作した際に、確認のためモニター画面上にあらわれる、オンスクリーン表示の表示有無を設定します。ちらつき防止の設定ができます。	On Screen Display = ON/Mode1										
⑤	Setup Lock	システムセットアップの設定を変更できないようにロックするかどうか設定します。	Setup Lock = OFF										

システムセットアップのしかた（つづき）

1 システムセットアップの前に

1 「接続のしかた」（18〜26ページ）を参照して、接続に間違いがないことを確認します。

2 電源スイッチをONにします。

- ON ：電源表示LEDが赤色に点灯します。
- OFF：電源表示LEDは消灯します。

（本体）

3 電源を入れます。

- 電源表示 LED が緑色に点滅して、電源が入ります。

（本体）　（リモコン）

- 電源ボタンを押すと電源が入り、ディスプレイが点灯します。
- 電源ボタンを押してから音声が出力されるまで、数秒間かかります。これは電源ON/OFF時の雑音を防止するミューティング回路が内蔵されているためです。
- 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしても一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず電源スイッチをOFFにするか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

4 アンプボタンを押します。

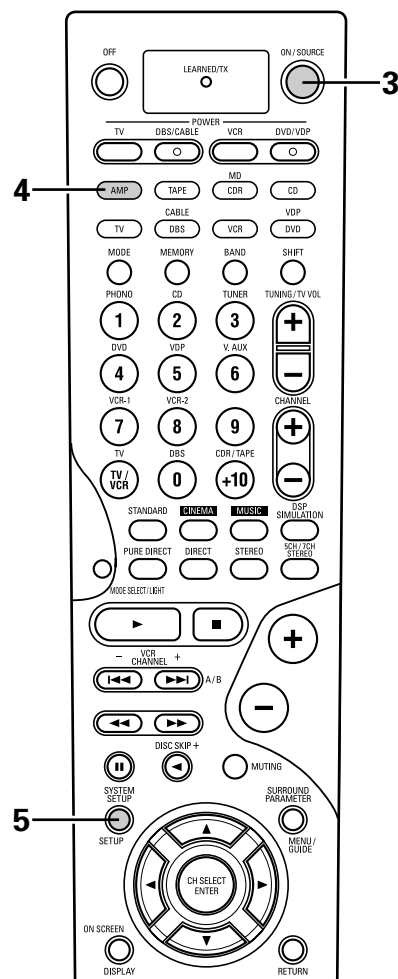
AMP

（リモコン）

5 セットアップボタンを押して、System Setup Menu 画面を表示させます。

（リモコン）

```
System Setup Menu

☞1. Auto Setup/Room EQ
 2. Speaker Setup
 3. Input Setup
 4. Advanced Playback
 5. Option Setup

 Exit
```

```
*System Setup
Auto Set/RoomEQ
```

ご注意

- オンスクリーンディスプレイの表示信号は、ビデオ機器の再生中はS-VIDEO MONITOR OUT端子に優先的に出力されます。例えば、モニターTVが本機のS-ビデオとビデオの両モニター出力端子に接続されている状態で、S-ビデオとビデオの入力端子両方に接続している機器（VDPなど）から信号が本機に入力されているときには、オンスクリーンディスプレイの表示信号はS-ビデオモニター出力に優先して出力されます。ビデオモニター出力端子に出力させたい場合は、S-VIDEO MONITOR OUT端子にはコードを接続しないでください。（詳しくは59ページを参照してください。）
- 本機のオンスクリーンディスプレイ機能は、高解像度のモニターTV用に設計されていますので、小さいキャラクター表示は小さい画面や低解像度のTVでは見にくい場合があります。
- ヘッドホンを使用している場合は、セットアップメニューは表示されません。
- System Setup Menuの構成は30、31ページのように階層状となっています。
- System Setup Menuが表示されているときにシステムセットアップボタンが押されると上位画面へ戻ります。

システムセットアップのしかた（つづき）

2 オートセットアップ / Room EQ

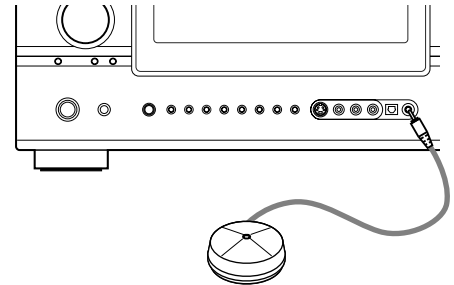
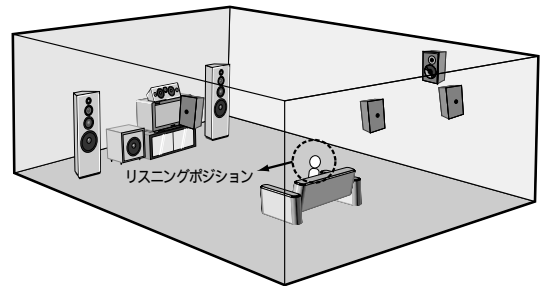
★ 本機のオートセットアップ / Room EQ 機能は接続したスピーカーシステムやお部屋の音響特性を測定し、最適なセッティングを自動でおこなうことができます。

★ 測定および設定内容
- ① Speaker Configuration：
  スピーカーの接続状態、極性および低域の再生能力を判断し、設定します。
- ② Delay Time：
  リスニングポジションに応じて、各スピーカーから出力される最適な音声のタイミングを測定し、設定します。
- ③ Channel Level：
  各スピーカーから出力される音量を測定し、設定します。
- ④ Room EQ：
  各スピーカーの周波数特性を測定し、設定します。

ご注意

測定中は大きなテストトーンが出力されます。
夜間の測定や小さなお子様はリスニングルームに立ち入らせないなどご配慮ください。

3 オートセットアップ用マイクの接続

1 **本機前面のセットアップマイクジャックに付属のオートセットアップ用マイクを接続します。**

2 **オートセットアップ用マイクは実際に視聴する位置（リスニングポジション）に耳と同じ高さで設置してください。設置するときは三脚や水平な台を使用してください。**

(1) オートセットアップ / Room EQ の設定

1 **System Setup Menu 画面上で “Auto Setup / Room EQ ”を選択します。**

```
System Setup Menu

☞1. Auto Setup/Room EQ
 2. Speaker Setup
 3. Input Setup
 4. Advanced Playback
 5. Option Setup

 Exit
```

```
*System Setup
Auto Set/RoomEQ
```

2 **エンターボタンを押して、Auto Setup / Room EQ 画面に切り替えます。**

システムセットアップのしかた（つづき）

1 オートセットアップの設定

1

Auto Setup / Room EQ 画面上で
“ Auto Setup ” を選択します。

```
1. Auto Setup/Room EQ

☞1. Auto Setup
  2. Manual EQ Setup
  3. Room EQ Setup
  4. Direct Mode Setup
  5. Mic Input Select

  Exit
```

```
                    1.1
  *AutoSet/RoomEQ
  Auto Setup
```

2

エンターボタンを押して
Auto Setup 画面に切り替えます。

3

“ Start ” を選択し、カーソルレフトボタンを押します。

- 測定が開始されます。

```
1-1. Auto Setup

Connect Microphone


        ☞Start◀
         Cancel◀
```

```
                    1.1
  *Auto Setup
  Start◀
```

- 各チャンネルの測定は下記の順序でおこなわれます。

※ フロントスピーカー（A）のみ測定されます。フロントスピーカー（B）が設定されていた場合でも、測定終了後は自動的にフロントスピーカー（A）の設定に切り替ります。
※ サブウーハーは2回測定されます。

3 つづき

ご注意

- 測定中に主音量つまみを動かした場合は測定中止となります。
- お使いのサブウーハーにボリウム設定およびクロスオーバー周波数設定機能がある場合は、サブウーハーのボリウムを半分の位置に設定し、クロスオーバー周波数を『最大』またはLPFを『オフ』に設定してください。

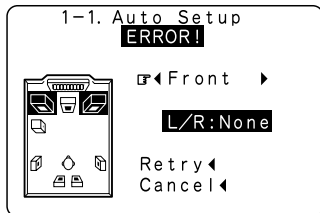
■ 再測定について

最適な測定結果を得るために再測定が必要な場合は、自動的に再測定がおこなわれます。
再測定は2回までおこなわれます。
再測定中は “ Retry1 ” または “ Retry2 ” と表示されます。

システムセットアップのしかた（つづき）

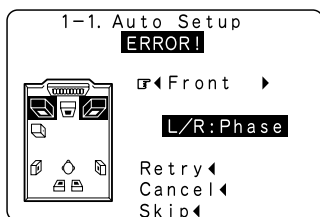
■ エラーメッセージについて

オートセットアップ/Room EQ の測定をおこなったとき、スピーカーの配置や測定環境などのために自動測定が完了できなかった場合はこれらのエラー画面が表示されます。下記をご確認のうえ該当する項目を設定し直して再度測定してください。
また、部屋の騒音が大きすぎる場合には正しくスピーカーが検出されない場合があります。このような場合には、騒音の小さい時間に測定をおこなうか、測定の間は騒音を発生する機器の電源を切ってください。

① 適切な再生をおこなうために
必要なスピーカーが検出されなかった場合

- フロントLまたはフロントRスピーカーが正しく検出されなかった。
- サラウンドスピーカーの片方のチャンネルしか検出されなかった。
- サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続している場合に、Rチャンネルから検出された。
- サラウンドバックスピーカーが検出されて、サラウンドスピーカーが検出されなかった。

→ 該当するスピーカーが正しく接続されているか確認してください。

（26ページ参照）

② ペアとなるL/Rのスピーカーの極性が
逆に接続されている場合

→ 該当するスピーカーの極性を確認してください。スピーカーによっては正しく接続されていてもこの画面が表示される場合があります。このような場合には“ Skip◀ ”を選択してください。

③ マイクへの入力レベルが高すぎるために
正確な測定ができない場合

→ 視聴位置をスピーカーから離してください。
→ サブウーハーの音量を下げてください。

④ 測定用のマイクが接続されていない場合
またはすべてのスピーカーが検出されなかった場合

→ セットアップマイクジャックに測定用のマイクを接続してください。
→ スピーカーの接続を確認してください。

■ 測定結果の確認とメモリーについて

自動測定が終了すると測定結果の確認画面が表示されますので、内容を確認することができます。

1

確認したい項目を選択します。

1−1. Auto Setup

☞Speaker Config. Check
Delay Time Check
Channel Level Check

Store◂
Retry ◂
Cancel◂

1.1
*Auto Setup
Sp Config.Check

2

エンターボタンを押して確認画面に切り替えます。

［スピーカー有り無しの確認画面］

［ディレイタイムの確認画面］

2 つづき

※ 測定用マイクを使用して実測した場合、サブウーハーなどのフィルター内蔵スピーカーは、内部の電気的な遅延により実際の距離と異なる値が設定される場合があります。

［チャンネルレベルの確認画面］

Channel Level Check

FL 0. 0dB
FR 0. 0dB
Center 0. 0dB
Subwoofer 0. 0dB

Channel Level Check

SL 0. 0dB
SR 0. 0dB
SBL 0. 0dB
SBR 0. 0dB

3

確認が終了したらエンターボタンを押します。

4

確認内容をメモリーするかどうか選択します。

Store ：イコライザーを含むすべてのパラメーターがメモリーされます。（約1分半程度時間がかかります。）
Retry ：再度測定を初めから開始します。
Cancel：メモリーを中止します。

1. Auto Setup

Speaker Config. Check
Delay Time Check
Channel Level Check

☞Store◂
Retry ◂
Cancel◂

1.1
*Auto Setup
Store◂

【例】“ Store ” を選択した場合

1−1. Auto Setup

Parameter Storing

※ イコライザーのパラメーターの確認は40ページを参照してください。

2 マニュアルイコライザーの設定

★ グラフィックイコライザーを使用して音楽などを聞きながら、サブウーハーを除く各スピーカーの音色を合わせます。

1 **Auto Setup / Room EQ 画面上で“ Manual EQ Setup ”を選択します。**

2 **エンターボタンを押して Manual EQ Setup 画面に切り替えます。**

3 **音色を調整するスピーカーを選択します。**

● 左記の順序で表示が切り替ります。

※「スピーカーの種類・有り無しの設定」（41ページ）でサラウンドバックスピーカーを“ 1 spkr ”に設定した場合はSBとなります。

4 **調整する周波数を選択します。**

● 63Hz、125Hz、250Hz、500Hz、1kHz、2kHz、4kHz、8kHzが選択できます。

5 **選択した周波数のレベルを調整します。**

● 各周波数のレベルは－6dB～＋6dBの範囲で、0.5dB単位で調整できます。

6 **エンターボタンを押して設定を確定します。**

● Auto Setup / Room EQ 画面に戻ります。

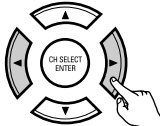
3 Room EQの設定

★ Auto Setup（オート セットアップ）および Manual EQ Setup（マニュアル イコライザーセットアップ）メニューで設定されたイコライザーを各サラウンドモードごとに個別設定するか、または一括設定するかを選択することができます。

1 **Auto Setup / Room EQ（オート セットアップ / ルーム イコライザー）画面上で “ Room EQ Setup（ルーム イコライザーセットアップ）” を選択します。**

```
1. Auto Setup/Room EQ

 1. Auto Setup
 2. Manual EQ Setup
☞3. Room EQ Setup
 4. Direct Mode Setup
 5. Mic Input Select
 6. EQ Parameter Check

 Exit
```

```
                1.3
  *AutoSet/RoomEQ
  Room EQ Setup
```

2 **エンターボタンを押して Room EQ Setup（ルーム イコライザーセットアップ）画面に切り替えます。**

```
1-3. Room EQ Setup

  Relation To
  The Surround Mode

   All ◀:▶Assign
```

```
                1.3
  *Room EQ Setup
  SurMode:ALL▶
```

3 **イコライザーの設定方法を選択します。**

● “ All ” または “ Assign（アサイン）” のどちらかを反転表示させます。

All　：すべてのサラウンドモードに対してイコライザーを一括設定します。
Assign：各サラウンドモードごとにイコライザーを個別設定します。

ご注意

● “ Normal ”、“ Front ” および “ Flat ” のイコライザーはオートセットアップメニューで自動測定を実行した後に選択可能となります。
● 自動測定で “ 無し ” と判定されたスピーカーを手動で “ 有り ” に切り替えた場合は “ Normal ”、“ Front ” および “ Flat ” のイコライザーは選択できなくなります。
● ヘッドホンを接続している場合はイコライザーの設定は “ OFF ” になります。

4 **a) “ All ” を選択した場合**

エンターボタンを押して Select the EQ Curve（セレクト ザ イコライザー カーブ）画面に切り替え、設定するイコライザーを選択します。

```
1-3. Room EQ Setup

 Select the EQ Curve

  Room EQ ◀Normal▶
```

```
                1.3
  *Room EQ Setup
  RoomEQ ◀Normal▶
```

OFF：
イコライザーは使用されません。
Normal：
すべてのスピーカーの周波数特性を一般的なサラウンドシステムに適した特性に調整します。
Front：
各スピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。
Flat：
すべてのスピーカーの周波数特性を均一（フラット）にします。
これはITU-Rスピーカーセッティングのような音楽再生に適しています。
Manual：
Manual EQ Setupメニューで設定されたグラフィックイコライザーを使用し、各スピーカーの特性を調整します。

b) “ Assign ” を選択した場合

サラウンドパラメーター画面でお好みのイコライザーを選択してください。
各サラウンドモードごとにイコライザーを記憶することができます。
※設定のしかたについては77、78ページを参照してください。

5 **エンターボタンを押して設定を確定します。**

● Auto Setup / Room EQ（オート セットアップ / ルーム イコライザー）画面に戻ります。

システムセットアップのしかた（つづき）

4 ダイレクトモード時のイコライザーの設定

★ サラウンドモードがダイレクトモードまたはピュアダイレクトモードのとき、Room EQ のON/OFFの切り替えができます。

5 マイク入力ジャックの選択

★ オートセットアップの測定時に付属品以外のマイクを使用する場合は、本設定をおこなってください。（初期設定は付属のマイクを選択できるよう “ Mic ” になっています。）

★ 本製品に付属されているマイクはオートセットアップ用に設計された測定用マイクです。
通常は “ Mic ” を選択して、付属のマイクをミニジャック（SETUP MIC）に接続してください。
測定用の高性能コンデンサマイクを別途用意してオートセットアップをおこなう場合は、“ V. AUX L ” を選択し、ピンジャック（V. AUX Lch）に接続してください。

※ 付属のマイク以外をご使用になる場合は、デノンお客様サービスセンターにお問い合わせください。

6 イコライザーのパラメーターの確認

★ オートセットアップで設定されたイコライザーのパラメーターを確認することができます。
★ オートセットアップの測定結果を確定した場合に自動的に表示されます。

1 **Auto Setup / Room EQ 画面上で“EQ Parameter Check”を選択します。**

```
1. Auto Setup/Room EQ

  1. Auto Setup
  2. Manual EQ Setup
  3. Room EQ Setup
  4. Direct Mode Setup
  5. Mic Input Select
☞6. EQ Parameter Check

  Exit
```

```
                    1.6
  *AutoSet/RoomEQ
  Parameter Check
```

2 **エンターボタンを押して EQ Parameter Check 画面に切り替えます。**

```
1-6. EQ Parameter Check

     ☞1:Normal
      2:Front
      3:Flat



      Exit
```

```
                    1.6
  *ParameterCheck
  1:Normal
```

3 **確認したいイコライザーのカーブの種類を選択します。**

4 **エンターボタンを押してパラメーター表示画面に切り替えます。**

```
1:Normal  EQ◀ Front L ▶
   Freq      Q      Gain
     57Hz   0.1   -1.0dB
    110Hz   0.5    0.0dB
    250Hz   0.1   +0.5dB
    510Hz   1.3   +1.0dB
   1.1kHz   2.1    0.0dB
   2.6kHz   0.5    0.0dB
   4.8kHz   0.1    0.0dB
    10kHz   0.1   +3.0dB
```

5 **確認したいチャンネルを切り替えます。**

- エンターボタンを押すと前の画面に戻ります。

6 **確認が終了したら“Exit”を選択し、エンターボタンを押します。**

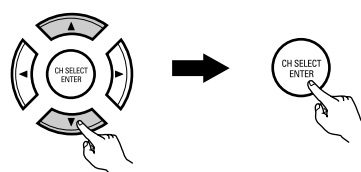
- Auto Setup / Room EQ 画面に戻ります。

```
1. Auto Setup/Room EQ

  1. Auto Setup
  2. Manual EQ Setup
  3. Room EQ Setup
  4. Direct Mode Setup
  5. Mic Input Select
  6. EQ Parameter Check

☞Exit
```

7 **Auto Setup / Room EQ 画面上で“Exit”を選択し、エンターボタンを押します。**

- System Setup Menu 画面に戻ります。

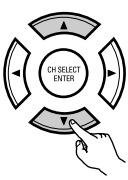
(2) スピーカーシステムの設定

★ ご使用のスピーカーに合わせて、スピーカーシステムを手動で設定する場合または、オートセットアップで設定された内容を変更する場合に設定してください。

1 **System Setup Menu 画面上で“Speaker Setup”を選択します。**

```
System Setup Menu

  1. Auto Setup/Room EQ
☞2. Speaker Setup
  3. Input Setup
  4. Advanced Playback
  5. Option Setup

  Exit
```

```
                    2
  *System Setup
  Speaker Setup
```

2 **エンターボタンを押して Speaker Setup 画面に切り替えます。**

```
2. Speaker Setup

☞1. Speaker Config.
  2. Delay Time
  3. Channel Level
  4. Crossover Frequency
  5. Subwoofer Mode Setup


  Exit
```

1 スピーカーの種類・有り無しの設定

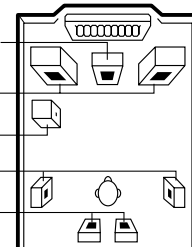
★ 実際に使用されるスピーカーの組み合わせに対して、自動的に各チャンネルの出力成分や特性を調節します。
★ 本機のサラウンド機能を有効にお使いいただくために、96～98ページの「スピーカーのセットアップについて」も合わせてお読みください。

1 **Speaker Setup 画面上で“ Speaker Config. ”を選択します。**

2 **エンターボタンを押してSpeaker Config. 画面に切り替えます。**

3 **各々のスピーカーの有無または大きさのパラメーターを選択します。**

◎ スピーカーの選択

◎ パラメーターの選択

4 **エンターボタンを押して設定を確定します。**

● Speaker Setup 画面に戻ります。

ご注意

Large/Smallの選択は、スピーカーの外形で判断せずにクロスオーバー周波数（46ページ参照）で設定した周波数を基準とした低域・再生能力で判断してください。この判断がつかない場合は、スピーカーを破壊しない範囲で“ Small ”に設定した場合と“ Large ”に設定した場合の音を比較した上で選択してください。

パラメーターについて

Large：
クロスオーバー周波数（46ページ参照）で設定した周波数以下の低音を十分再生できるスピーカーを使用するときに選択します。

Small：
クロスオーバー周波数（46ページ参照）で設定した周波数以下の低音再生に十分な音量が得られないスピーカーを使用するときに選択します。この設定をおこなった場合、設定した周波数以下の低音はサブウーハーに振り分けられます。

None：
スピーカーを設置していないときに選択します。

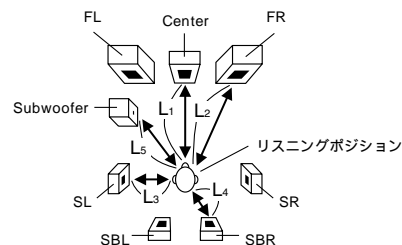
Yes/No：
サブウーハーを設置しているときには“ Yes ”、設置していないときには“ No ”を選択します。

2 spkrs/1 spkr：
サラウンドバックに使用するスピーカーの数を選択します。

※ サブウーハーの低域再生能力が十分な場合、フロント、センター、サラウンドの各スピーカーの設定を“ Small ”にしても良好な音場再生を得ることができます。
※ フロントスピーカーを“ Small ”に設定すると自動的にサブウーハーは“ Yes ”に設定され、サブウーハーを“ No ”に設定すると自動的にフロントスピーカーは“ Large ”に設定されます。

2 ディレイタイムの設定

★ リスニングポジションと各スピーカーとの距離を入力して、サラウンドのディレイタイムを設定します。

準備：リスニングポジションと各スピーカーとの距離
（右図のL1〜L5）を測定します。
L1：センタースピーカーとリスニングポジションとの距離
L2：フロントスピーカーとリスニングポジションとの距離
L3：サラウンドスピーカーとリスニングポジションとの距離
L4：サラウンドバックスピーカーとリスニングポジションとの距離
L5：サブウーハーとリスニングポジションとの距離

1 **Speaker Setup 画面上で“ Delay Time ”を選択します。**

2 **エンターボタンを押してDelay Time 画面に切り替えます。**

2-2. Delay Time
Set The Distance To
Each Speakers
Do You Prefer
In Meters? / In Feet?
Meters ◀:▶ Feet

2.2
*Delay Time
Meters◀ : ▶Feet

3 **距離の単位を選択します。**

- “ Meters ” または “ Feet ” のどちらかを反転表示させます。

【例】“ Meters ” を選択した場合

2-2. Delay Time
Set The Distance To
Each Speakers
Do You Prefer
In Meters? / In Feet?
Meters ◀:▶ Feet

4 **操作3 で “ Meters ” または “ Feet ” を選択すると、自動的にDelay Time 画面に切り替わります。**

- “ Step ” を選択すると変化量を0.01mステップに切り替えることができます。

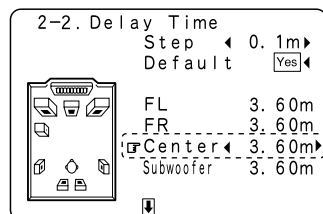
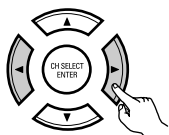
5 **設定したいスピーカーを選択します。**

（次のページに続きます。）

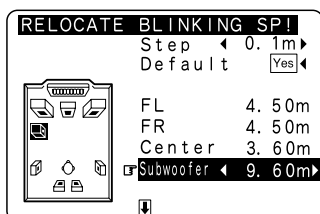
6

［例］センタースピーカーとリスニングポジションとの距離を設定します。

- ボタンを押すたびに数値が0.1m（1ft）単位で変化しますので、測定した距離に最も近い値を選択します。

【例】センタースピーカーを選択して、距離（L1）を3.6mに設定した場合

※ Default（デフォルト）の “ Yes ” を選択すると、初期設定値に戻ります。

各スピーカーに設定した距離の差はどれも6.0m（20ft）以下でなければなりません。不適切な距離を設定すると下図のような注意（CAUTION）が表示されます。この場合、点滅しているスピーカーの距離は反転表示された値より大きく設定することができませんので、該当のスピーカーを表示の値の位置に移動してください。

7

エンターボタンを押して設定を確定します。

- Speaker Setup（スピーカー セットアップ）画面に戻り、自動的にリスニングルームに最適なサラウンドのディレイタイムを設定します。

CH SELECT
ENTER

3 チャンネルレベルの設定

★ 各チャンネル間の再生レベルが等しくなるように調整します。
★ リスニングポジションで各スピーカーより出力されるテストトーン（再生音）を聞きながら調整します。
★ 調整はリモコンからのダイレクト操作でもおこなえます。（詳しくは64ページを参照してください。）

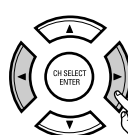
1

Speaker Setup 画面上で “ Channel Level ” を選択します。

2

エンターボタンを押して Channel Level 画面に切り替えます。

2−3. Channel Level
☞Test Tone Auto ◀：▶ Manual
Test Tone Start Yes◀
Level Clear Yes◀

3

Test Tone モードを選択します。

●“ Auto ” または “ Manual ” のどちらかを反転表示させます。

Auto：
各スピーカーより自動的に出力されるテストトーンを聞きながらレベルを調整します。

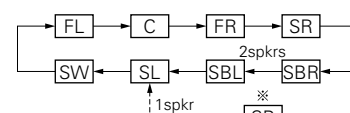
Manual：
テストトーンを出力させたいスピーカーを選択してレベルを調整します。
最初の設定は “ Manual ” でおこなうと詳細な設定ができます。

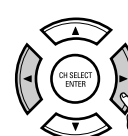
【例】“ Auto ” モードを選択した場合

2−3. Channel Level
☞Test Tone Auto ◀：▶ Manual
Test Tone Start Yes◀
Level Clear Yes◀

4

“ Test Tone Start ” を選択します。

5

“ Yes ” を選択します。

6

a) “ Auto ” モードを選択した場合

● 下記の順序で2周目までは4秒間隔、3周目からは2秒間隔でテストトーンが各スピーカーより自動的に出力されます。

FL → C → FR → SR → SBR (2spkrs) → SBL → SL → SW → FL
SR → ※SB → SL (1spkr)

※「スピーカーの種類・有り無しの設定」（41ページ）でサラウンドバックスピーカーを “ 1 spkr ” に設定した場合は SB となります。

各スピーカーのテストトーンが同じ音量で聞こえるように調整します。

● 音量は−12dB〜＋12dBの範囲で、0.5dB単位で調整できます。

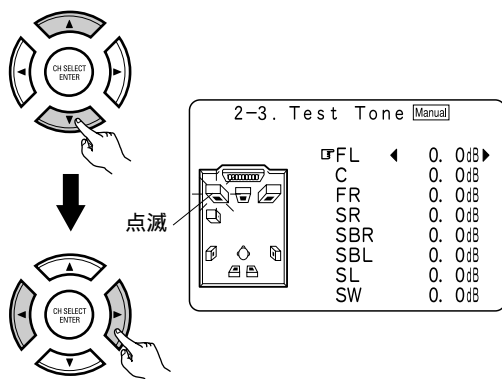
2.3
TestTone Auto
FL :◀ −11.5dB▶

（次のページに続きます。）

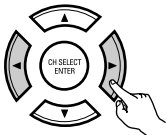
6 つづき

b) “ Manual ” モードを選択した場合

テストトーンを出力させたいスピーカーをカーソルアップまたはダウンで選択します。その後、カーソルレフトまたはライトボタンを押して各スピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるように調整します。

7

エンターボタンを押して設定を確定します。

- Channel Level 画面に戻ります。

※ 設定を取り消す場合は、Channel Level 画面上でカーソルボタンを押して “ Level Clear ” を選択し、さらに “ Yes ” を選択してください。

※ チャンネルレベルの設定にてチャンネルレベルを調整した場合には、調整した値がすべての再生モードに対して設定されます。
チャンネルレベル設定後、再生モード別にチャンネルレベルを調整する場合は、64ページの操作をおこなってください。

システムセットアップのしかた（つづき）

4 クロスオーバー周波数

★ ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、クロスオーバー周波数の設定をします。

1

Speaker Config. 画面で
サブウーハーを " Yes " またはフロントスピーカーを " Large " および他のスピーカーを " Small " に設定した場合、
Crossover Frequency の項目が表示されます。
Speaker Setup 画面上で
" Crossover Frequency " を選択します。

```
2. Speaker Setup

 1. Speaker Config.
 2. Delay Time
 3. Channel Level
☞4. Crossover Frequency
 5. Subwoofer Mode Setup

 Exit
```

```
                2.4
 *Speaker Setup
 Crossover Freq.
```

2

エンターボタンを押して
Crossover Frequency 画面に切り替えます。

3

クロスオーバー周波数を選択します。

```
2-4. Crossover Frequency

 ◂ 80 Hz ▸
```

```
                2.4
 *Crossover Freq
 ◂ 80Hz ▸
```

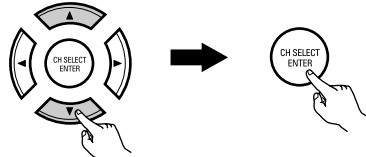
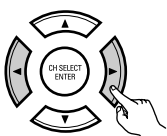
4

エンターボタンを押して設定を確定します。
- Speaker Setup 画面に戻ります。

クロスオーバー周波数について

- 各スピーカーからの低音域をサブウーハーまたはLargeに設定しているスピーカー（サブウーハーを使用しない場合のみ）から何Hz以下（クロスオーバー周波数）で出力するかを設定します。
- Smallに設定したスピーカーは、クロスオーバー周波数以下の音はカットして出力され、カットされた低音域はサブウーハーまたはLargeに設定しているスピーカーから出力します。
- クロスオーバー周波数モードの設定は「スピーカーの種類・有り無しの設定」（41ページ）でサブウーハーを " Yes " に設定した場合、またはサブウーハーを " No " に設定してフロントスピーカーを " Large " および他のスピーカーを " Small " に設定した場合のみ有効です。

40, 60, 80, 100, 120, 150, 200, 250 Hz：
お手持ちのスピーカーシステムの低域の再生能力に合わせてお好みで設定してください。

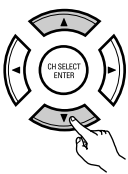
ご注意：
- 一般的なスピーカーシステムを使用する場合は、クロスオーバー周波数を80Hzに設定することを推奨しますが、小型スピーカーを使用する場合は、より高い周波数に設定することで、クロスオーバー周波数付近での周波数特性を改善できる場合もあります。

ドルビーおよびDTS信号再生時以外のサブウーハーの動作についてのご注意

ドルビーおよびDTS以外のサラウンドモードでは、サブウーハーが " YES " に設定されていると、低域成分が常にサブウーハーチャンネルに出力されます。
チャンネルレベルの調節でサブウーハー " OFF " にすることができます。（64ページ参照）

システムセットアップのしかた（つづき）

5 サブウーハーモードの設定

★ ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、サブウーハーモードの設定をします。

サブウーハーモードについて

- サブウーハーモードの設定は「スピーカーの種類・有り無しの設定」（41ページ）でフロントスピーカーを “ Large ” およびサブウーハーを “ Yes ” に設定した場合のみ有効です。
- 『LFE+Main』モードを選択すると、Largeに指定されたチャンネルの低音域信号は、そのチャンネルとサブウーハーチャンネルから同時に再生されます。このモードでは、より均一な低音域が室内に広がりますが、部屋の大きさと形によっては干渉のために実際の低音域音量が低下することもあります。
- 『LFE』再生モードを選択すると、Largeに指定されたチャンネルの低音域信号はそのチャンネルからのみ再生されます。この再生モードは、室内の低音域干渉が起こりにくくなります。
- 音楽ソースや映画ソースを再生してみて、量感のある低音域が得られる方の再生モードを選択してください。

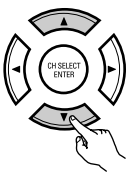
システムセットアップのしかた（つづき）

(3) 入力に関する設定

1

System Setup Menu 画面上で
“ Input Setup ” を選択します。

2

エンターボタンを押して
Input Setup 画面に切り替えます。

1 デジタル入力の設定

★ 本機のデジタル入力端子を入力ソースに対して割り当てます。

1

Input Setup 画面上で
“ Digital In Assign ” を選択します。

2

エンターボタンを押して
Digital In Assign 画面に切り替えます。

3

入力ソースに割り当てたいデジタル入力端子を選択します。

◎ 入力ソースの選択　　◎ デジタル端子の選択

※ **デジタル入力を使わない入力ソースは、“ OFF ” を選択してください。**

※ Defaultの “ Yes ” を選択すると、工場出荷時の初期設定（30、31ページ参照）に戻ります。

4

エンターボタンを押して設定を確定します。

● Input Setup 画面に戻ります。

ご注意

● 本機リアパネルのOPTICAL-3/4はCDレコーダーまたはMDレコーダーなどのデジタル録音機器用に光デジタル出力端子を備えていますので、デジタル録音の際にご利用ください。
● 本機リアパネルのOPTICAL-3 OUT端子に接続した機器の出力をOPTICAL-3 IN端子以外に接続しないでください。
● 本機リアパネルのOPTICAL-4 OUT端子に接続した機器の出力をOPTICAL-4 IN端子以外に接続しないでください。
● PHONOはデジタル入力の設定では選択できません。

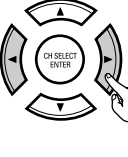
2 外部入力（EXT. IN）サブウーハーレベルの設定

★ EXT. INのサブウーハーに接続されたアナログ入力信号の再生レベルを設定します。

3 コンポーネント（D端子、Y・P_B/C_B・P_R/C_R）映像入力の設定

★ 本機のコンポーネント（D端子、Y・P_B/C_B・P_R/C_R）映像入力端子を入力ソースに対して割り当てます。

1 **Input Setup 画面上で “ Component In Assign ” を選択します。**

2 **エンターボタンを押して “ Component In Assign ”画面に切り替えます。**

3 **入力ソースに割り当てたいコンポーネント（D端子、Y・P_B/C_B・P_R/C_R）映像入力端子を選択します。**

◎ 入力ソースの選択　　◎ デジタル端子の選択

※ **コンポーネント（D端子、Y・P_B/C_B・P_R/C_R）映像入力を使わない入力ソースは、“ NONE ”を選択してください。**

※ Defaultの “ Yes ” を選択すると、工場出荷時の初期設定（30、31ページ参照）に戻ります。

4 **エンターボタンを押して設定を確定します。**

● Input Setup 画面に戻ります。

ご注意

コンポーネント（D端子、Y・P_B/C_B・P_R/C_R）端子に入力される信号は、COMPONENT VIDEO MONITOR OUTのD4端子、ピンジャック（Y・P_B/C_B・P_R/C_R）の両方から出力されますが、両方同時に使用することはできません。どちらか一方のみをモニターTVに接続してください。

COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子は、お手持ちの機器に合わせて接続してください。

4 ビデオ入力モードの設定

★ ビデオモニター出力端子に出力する入力信号を選択します。

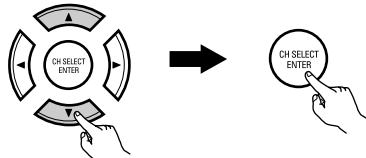
3 つづき

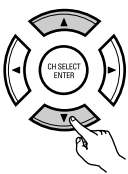
AUTO：
複数の入力信号がある場合に、入力信号を検出してコンポーネント、S-ビデオ、コンポジットの順番で自動的にモニター出力端子に出力する入力信号を選択します。
※ Sモニター出力端子を接続しないと、S入力信号はコンバートしません。

Component：
常にコンポーネントビデオ端子に接続された信号を再生します。
ビデオコンバート処理はおこなわないため、コンポーネント端子に入力信号がない場合には、コンポーネントモニター出力端子に映像信号は出力されません。
コンポーネント端子の入力信号の有無に関わらずS-ビデオおよびコンポジットビデオモニター出力端子に映像信号は出力されません。
コンポーネント映像入力の設定（50ページ）でコンポーネント入力端子を設定した場合に選択できます。

S-Video：
常にS-ビデオ端子に接続された信号を再生します。
コンポジットおよびコンポーネントモニター出力端子にはS-ビデオ入力信号がコンバートされて出力されます。

Video：
常にコンポジットビデオ端子に接続された信号を再生します。
S-ビデオおよびコンポーネントモニター出力端子にはコンポジットビデオ入力信号がアップコンバートされて出力されます。

4 エンターボタンを押して設定を確定します。

● Input Setup 画面に戻ります。

5 Input Setup 画面上で “ Exit ” を選択し、エンターボタンを押します。

● System Setup Menu 画面に戻ります。

ご注意

コンポーネントビデオ信号からS-ビデオ、コンポジットビデオ信号へのダウンコンバートはできませんので、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子を使用しない場合は、S-ビデオまたはコンポジットビデオ入力端子で再生機器と接続してください。
詳しくは22ページの「コンバート機能についてのご注意」を参照してください。

(4) 音声再生に関する設定

1 **System Setup Menu 画面上で "Advanced Playback" を選択します。**

2 **エンターボタンを押して Advanced Playback 画面に切り替えます。**

1 オーディオディレイの設定について

★ 映像信号とオーディオ信号の時間差を調整し、入力ソースごとにその値を記憶する機能です。
DVDなどのソフトを視聴しながら設定しますのでここでは設定しません。（初期状態でデジタル入力がない場合には表示されません。）
設定のしかたについては、72、73ページを参照してください。

2 Dolby Digitalダウンミックスの設定

★ センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを使用しない場合のダウンミックス方法を設定します。
OFF：ダイナミックレンジの圧縮をおこないません。（通常はこのモードでご使用ください。）
ON ：聴取される平均音量レベルが大きい場合に、フロントスピーカーの再生音がピークレベルで歪んで聞こえるときは、Compressionの設定を『ON』にしてご使用ください。

1 **Advanced Playback 画面で "Dolby Digital Setup" を選択します。**

2 **エンターボタンを押して Dolby Digital Setup 画面に切り替えます。**

3 **Dolby Digital Downmix Compressionを使用する場合は "ON" を、使用しない場合は "OFF" を選択します。**

※ センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを使用しない場合、再生音はフロントスピーカーから出力されます。

4 **エンターボタンを押して設定を確定します。**

● Advanced Playback 画面に戻ります。

システムセットアップのしかた（つづき）

3 オートサラウンドモードの設定

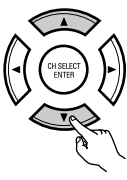
★ 下記の3種類の入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶し、次に同じ信号が入力された場合には記憶したサラウンドモードで自動的に再生します。
なお、サラウンドモードは各入力ソースに対しても個別に記憶されます。
① アナログおよびPCMの2チャンネル信号（STEREO）
② ドルビーデジタルやDTSなどの2チャンネル信号（DOLBY PLⅡx cinema）
③ ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネル信号（DOLBY / DTS SURROUND）
※（　）内は初期設定。
※ PURE DIRECTモードで再生中は、入力信号が変化してもサラウンドモードは変わりません。

1 **Advanced Playback 画面で“Auto Surround Mode”を選択します。**

2 **エンターボタンを押してAuto Surround Mode 画面に切り替えます。**

3 **Auto Surround Modeを使用する場合は“ON”を、使用しない場合は“OFF”を選択します。**

4 **エンターボタンを押して設定を確定します。**
● Advanced Playback 画面に戻ります。

※ オートサラウンドモードの記憶した内容は、オンスクリーン画面上で確認することができます。

システムセットアップのしかた（つづき）

4 バイリンガルモードの設定

★ AACソースおよびドルビーデジタルソースの音声出力内容を設定します。

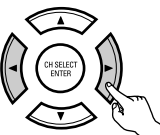
1

Advanced Playback 画面上で “ Bilingual Mode ” を選択します。

```
4. Advanced Playback

  1. Audio Delay
  2. Dolby Digital Setup
  3. Auto Surround Mode
☞4. Bilingual Mode


  Exit
```

```
                    4.4
   *Advanced Play
   Bilingual Mode
```

2

エンターボタンを押して Bilingual Mode 画面に切り替えます。

```
4-4. Bilingual Mode

        ◀MAIN▶
```

```
                    4.4
   *Bilingual Mode
   MODE:◀   MAIN   ▶
```

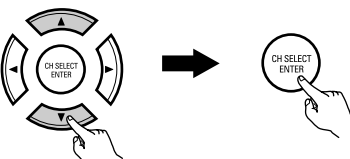
3

音声出力モードを選択します。

- カーソルレフト、ライトボタンを押すたびに下記のように表示が切り替わります。

→ MAIN/SUB ←→ MAIN ←→ SUB ← MAIN+SUB ←

- MAIN/SUBを選択すると、MAIN（主）音声は左チャンネルから、SUB（副）音声は右チャンネルから出力されます。
- MAIN+SUBを選択すると、MAIN（主）音声とSUB（副）音声がミックスされて出力されます。

4

エンターボタンを押して設定を確定します。

- Advanced Playback 画面に戻ります。

5

Advanced Playback 画面上で “ Exit ” を選択し、エンターボタンを押します。

- System Setup Menu 画面に戻ります。

ご注意

バイリンガルモードは、AACソースおよびドルビーデジタルソースで、二重音声の情報がある場合のみ有効となります。二重音声の情報がないAACソース、ドルビーデジタル、DTS、PCMおよびアナログソースに対しては、切り替えても無効です。

AACソースまたはドルビーデジタルソースで二重音声の情報を検出した場合

- “ MAIN ” 選択時： FL（点灯） C FR
- “ SUB ” 選択時： FL C FR（点灯）
- “ MAIN/SUB ” または “ MAIN＋SUB ” 選択時： FL（点灯） C FR（点灯）

※ DTSソースで二重音声を検出した場合はバイリンガルモードの設定に関わらず、FL FR が点灯します。

システムセットアップのしかた（つづき）

（5）その他の設定

1 System Setup Menu 画面上で "Option Setup" を選択します。

2 エンターボタンを押して Option Setup 画面に切り替えます。

1 トリガーアウト1の設定

★ 本機は2つのDC12Vトリガーアウト端子を備えており、トリガー入力端子を持つ外部機器をコントロールすることができます。
★ 各入力ソースに対してトリガーアウト1の出力のON/OFFを設定します。

1 Option Setup 画面上で "Trigger Out 1 Setup" を選択します。

2 エンターボタンを押して Trigger Out 1 Setup 画面に切り替えます。

3 各入力ソースに対して "ON" または "OFF" を選択します。

◎ 入力ソースの選択　　◎ ON/OFFの選択

4 エンターボタンを押して設定を確定します。

● Option Setup 画面に戻ります。

2 トリガーアウト2の設定

★ 各入力ソースに対してトリガーアウト2の出力のON/OFFを設定します。

1 Option Setup 画面上で "Trigger Out 2 Setup" を選択します。

2 以降は「トリガーアウト1の設定」と同様に設定してください。

3 ミューティングレベルの設定

★ ミューティングボタンが押されたときのボリウムの減衰量を設定することができます。

4 オンスクリーンディスプレイの設定（OSD）

★ メニュー画面以外のオンスクリーンディスプレイ表示のON/OFFの切り替えができます。
Mode1：映像信号がないとき、オンスクリーンディスプレイのちらつきを防止します。
Mode2：ちらつきの防止はおこないません。
ご使用になるTVの組み合わせにより、Mode1にてオンスクリーンディスプレイが出ない場合、本モードをご使用ください。

5 セットアップ内容の保護

★ システムセットアップで設定した内容を簡単に変更できないようにロックします。

1 **Option Setup 画面上で“ Setup Lock ”を選択します。**

2 **エンターボタンを押して Setup Lock 画面に切り替えます。**

3 **セットアップ内容をロックする場合は、“ ON ”を選択します。**

4 **エンターボタンを押して設定を確定します。**

- Option Setup 画面に戻ります。

5 **Option Setup 画面上で“ Exit ”を選択し、エンターボタンを押します。**

- System Setup Menu 画面に戻ります。

※“ Setup lock ”を“ ON ”に設定すると
下記設定が変更できなくなり、
関連するボタンを操作すると“ SETUP LOCKED！ ”が表示されます。

- システムセットアップの設定
- サラウンドパラメーターの設定値
- トーンコントロールの設定値
- チャンネルレベルの設定値（テストトーンも含む）

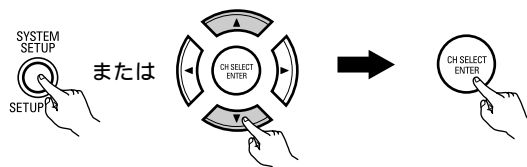
※ 設定を解除する場合は、
システムセットアップボタンを押して
再度Setup Lock 画面を表示させ、“ OFF ”に設定し直してください。

システムセットアップのしかた（つづき）

システムセットアップ後の操作

★ 以上でシステムセットアップは終了です。
システムセットアップは一度設定をおこなったら、接続するAV機器やスピーカーを取り替えたり、スピーカーの配置を変えない限り、再度設定をおこなう必要はありません。

1 **System Setup Menu 画面上で**
システムセットアップボタンを押すか、
または " Exit " を選択し、エンターボタンを押します。

● 変更した設定値が確定され、オンスクリーン表示が消えます。

■ オンスクリーンディスプレイ表示信号について

	本機への信号入力		オンスクリーンディスプレイ表示信号の出力		
	VIDEO映像信号 入力端子 （黄）	S映像信号 入力端子	VIDEO映像信号 MONITOR OUT端子 （黄）	S映像信号 MONITOR OUT端子	コンポーネント 映像信号 MONITOR OUT端子
1	×	×	○	○	○
2	○	×	○	○	○
3	×	○	○	○	○
4	○	○	×	○	○

（○：信号有り　×：信号無し）　（○：オンスクリーン出力有り　×：オンスクリーン出力無し）

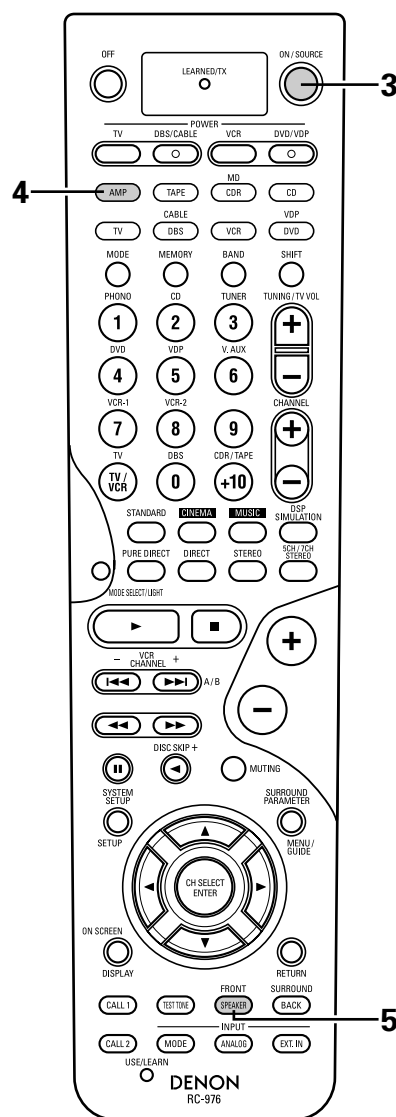
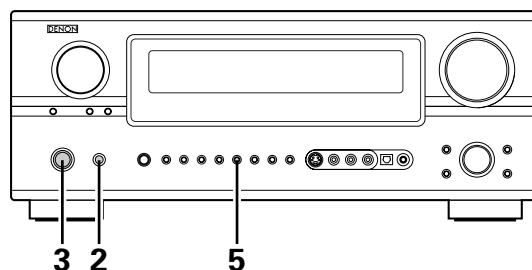
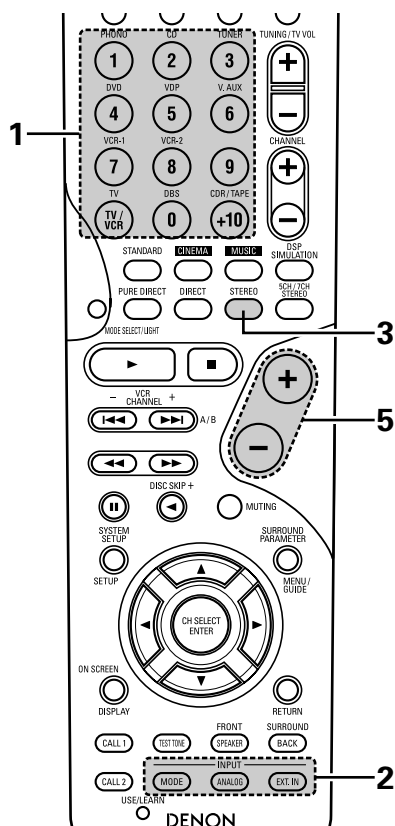
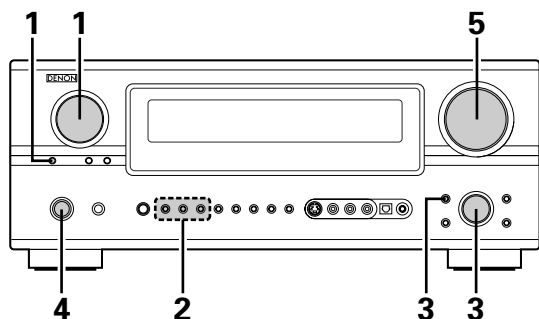
ご注意

コンポーネント映像信号入力がある場合およびシステムセットアップのVideo Input ModeでComponent固定モードに設定した場合は、System Setup、Surround parameterおよびリモコンのオンスクリーンボタンの操作時のみオンスクリーンディスプレイ表示が表示されます。

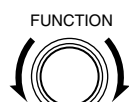
9 操作のしかた

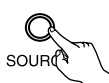
(1) 入力ソースの再生のしかた

1 操作する前に

1	**「接続のしかた」（18〜26ページ）を参照して、接続に間違いがないことを確認します。**
2	**電源スイッチをONにします。** ▃ **ON** ：電源表示LEDが赤色に点灯します。 ▆ **OFF**：電源表示LEDは消灯します。 （本体）
3	**電源を入れます。** ● 電源表示 LED が緑色に点滅して、電源が入ります。 ON / STANDBY 点滅（本体）　ON / SOURCE（リモコン） ● 電源ボタンを押すと電源が入り、ディスプレイが点灯します。 ● 電源ボタンを押してから音声が出力されるまで、数秒間かかります。これは電源ON/OFF時の雑音を防止するミューティング回路が内蔵されているためです。 ● 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしても一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず電源スイッチをOFFにするか、電源プラグをコンセントから抜いてください。
4	**アンプボタンを押します。** AMP（リモコン）
5	**フロントスピーカーボタンを押します。** ● ボタンを押すたびに、下記のように切り替わります。 → FRONT A → FRONT B → FRONT A+B → FRONT SPEAKER（本体）　FRONT SPEAKER（リモコン）

2 入力ソースの再生

1 **再生したい入力ソースを選択します。**

【例】CD

FUNCTION　　CD

（本体）　　（リモコン）

※ 入力ソースにREC OUTを選択している場合は、ソースボタンを押してから入力ファンクションを操作してください。

SOURCE
（本体）

2 **入力モードを選択します。**

◎ **AUTO、PCM、DTSモードの選択**
モード切り替えボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

MODE
（本体）

AUTO → PCM → DTS

MODE
（リモコン）

2 つづき

◎ **ANALOGモードの選択**
アナログボタンを押して、ANALOG入力に切り替えます。

（本体）　　（リモコン）

◎ **外部入力（EXT. IN）モードの選択**
外部入力ボタンを押して、外部入力（EXT. IN）に切り替えます。

（本体）　　（リモコン）

入力モード選択機能

入力モードは、各入力ソースごとに選択が可能です。また、選択された入力モードは、入力ソースごとに記憶されます。

① **AUTO（オールオートモード）**
選択された入力ソースごとにデジタル入力端子・アナログ入力端子に入力されている信号の種類を検出し、自動的に本機のサラウンドデコーダー内部のプログラムを切り替え、再生するモードです。デジタル入力の設定（48ページ参照）をしているソースで選択することが可能です。
デジタル信号の有無を検出し、デジタル入力端子に入力されている信号を判断し、DTS/ドルビーデジタル/AAC/PCMいずれかの方式で、自動的にデコード・再生をおこないます。
デジタル信号が入力されていない場合は、アナログ入力端子を選択します。

② **PCM（PCM信号再生専用モード）**
PCM信号が入力されたときだけデコード・再生をおこないます。
ノイズを発生する場合がありますので、PCM信号を再生する場合以外はこのモードを使用しないでください。

③ **DTS（DTS信号再生専用モード）**
DTS信号が入力されたときだけデコード・再生をおこないます。

④ **ANALOG（アナログ音声信号再生専用モード）**
アナログ入力端子に入力されている信号を再生します。

⑤ **EXT. IN**
（外部デコーダー用入力端子選択モード）
外部デコーダー用入力端子に入力されている信号をサラウンド回路を通さずに再生します。

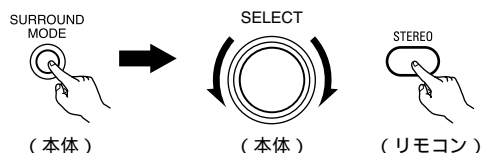
ご注意

DTS方式で記録されたCDやLDを、PCMモードやANALOGモードで再生するとノイズが出力されますのでご注意ください。DTS方式で記録された音楽用CDを再生するときはDTSモードを選択してください。

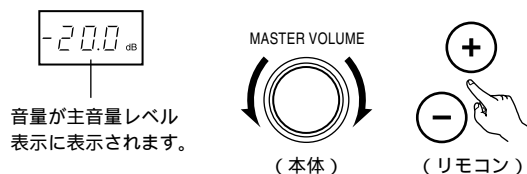
（次のページに続きます。）

3 再生モードを選択します。

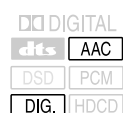
※ サラウンドパラメーターおよびトーンコントロールを調整中に本体でサラウンドモードを選択する場合、サラウンドモードボタンを押してからセレクトつまみを操作してください。

【例】ステレオ

4 選択した機器の再生をはじめます。

- 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

5 音量を調節します。

※ 音量は－80〜0〜18dBの範囲で0.5dBステップで調節できます。ただし、44、45、64ページに記載されている方法でチャンネルレベルを設定しているとき、どれか1つのチャンネルでも＋1dB以上に設定していると音量は18dBまで調整できません。（この場合、音量の最大調整範囲は " 18dB－チャンネルレベルの最大値 " となります。）

DTSソースの再生をおこなう場合の入力モード

- DTS対応のCDやLDをANALOGモードまたはPCMモードで再生すると、DTS再生できないためノイズが出力されます。
  DTS対応のソースを再生する場合は、必ずデジタル（OPTICAL/COAXIAL）入力端子に接続し、入力モードを " AUTO " または " DTS " に設定してください。
- AUTOモードでDTSを再生した場合、再生のはじめおよびサーチ中にノイズを発生する場合があります。このような場合は、" DTS " モードで再生してください。

※ デジタル信号が正常に入力されると DIG. が点灯します。点灯しない場合はデジタル入力機器のセットアップ（48ページ）や接続が正しいか、または機器の電源が入っているかを確認してください。

※ サラウンドモードが PURE DIRECT / DIRECT / STEREO 時にPCM信号を再生すると、AL24 Processingが動作します。

ご注意

- オーディオ以外のデータの記録されたCD-ROMディスクを再生した場合は、ディスプレイに DIG. が点灯しますが音声は聞けません。
- DVDプレーヤーの中には、デジタル出力の有無を機器側の設定でおこなうものがありますので、プレーヤーの取扱説明書も確認してください。

3 外部入力（EXT. IN）端子での再生について

1 **入力モードを外部入力（EXT.IN）に設定します。**

（本体）

（リモコン）

- 設定後は選択されている端子のFL（フロント左）、FR（フロント右）、C（センター）、SL（サラウンド左）、SR（サラウンド右）、SBL（サラウンドバック左）、SBR（サラウンドバック右）に接続された入力信号をサラウンド回路を通さずに直接フロント（左/右）、センター、サラウンド（左/右）、サラウンドバック（左/右）の各スピーカーシステムおよび各プリアウトに出力します。
  また、SW（サブウーハー）端子に入力された信号はプリアウト（PRE OUT）のSUB WOOFER端子に出力されます。

2 **【外部入力モードの解除のしかた】**

- 外部入力の設定を解除するときには、入力モード切り替えボタンまたはアナログボタンを押して、再生したい入力モードに切り替えてください。
  （詳しくは61ページを参照してください。）

（本体）

（リモコン）

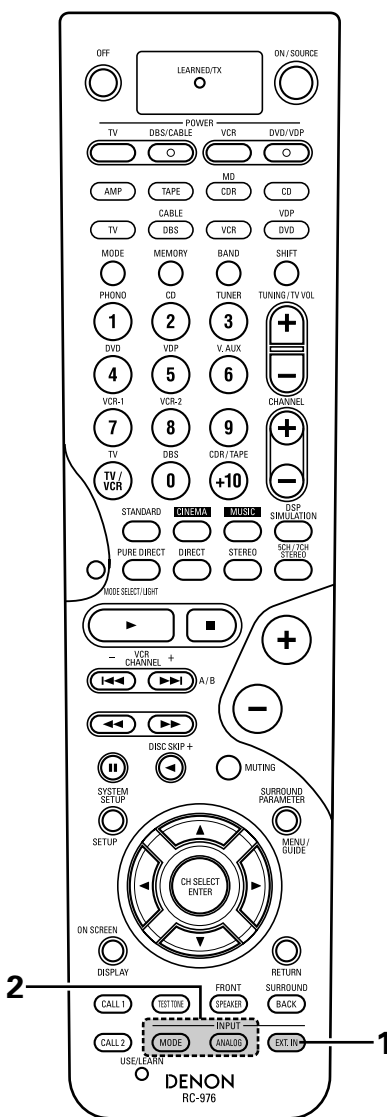
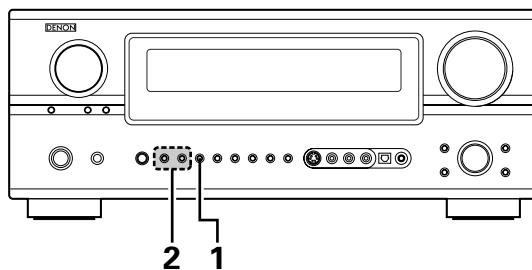
または

（本体）

（リモコン）

入力モードを外部入力に設定している場合は、サラウンドモード（DIRECT、STEREO、DOLBY/DTS SURROUND、5CH/7CH STEREO、WIDE SCREEN、DSP SIMULATION）の設定はできません。

ご注意

- 外部入力モード以外の再生モードでは、この端子に入力された信号は再生できません。また入力端子に接続されていないチャンネルからは出力できません。
- 外部入力モードは、どの入力ソースにおいても設定できます。映像と合わせてお楽しみいただく場合は、映像信号を接続した入力ソースを選択後、本モードに設定してください。

(2) サラウンド再生のしかた

1 サラウンド再生の前に

★ サラウンド再生の前にオートセットアップをおこなっていない場合は、テストトーンにより各スピーカーの再生レベルの調節をおこなってください。調節はシステムセットアップ（44、45ページ参照）でもできますが、下記の通りリモコンでも調節できます。

★ リモコンでのテストトーンによる調節は“ AUTO ”のみで、ドルビーサラウンドモードとDTSサラウンドモード時のみ有効で、調節したレベルは上記各サラウンドモードに自動的に記憶されます。

1 **テストトーンボタンを押します。**

（リモコン）

2 **テストトーンが各スピーカーより出力されますので、各スピーカーの音量が同じになるように調節します。**

（リモコン）

3 **調節が終わったら、もう一度テストトーンボタンを押します。**

（リモコン）

★ テストトーンによる調節後は、再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、下記の操作により各チャンネルレベルの調節をおこなってください。

1 **レベル調節したいスピーカーを選択します。**

● ボタンを押すたびに下記の順序でチャンネルが切り替わります。

（リモコン）

FL → C → FR → SR → SBR※ → SBL※ → SL → SW → FADER → FL

※「スピーカーの種類・有り無しの設定」（41ページ）でサラウンドバックスピーカーを“ 1 spkr ”に設定した場合は SB となります。

2 **選択したスピーカーのレベルを調節します。**

※ サブウーハー（SW）のレベルは－12dBを設定後、再びカーソルレフトボタンを押すと“ OFF ”に設定することができます。

（リモコン）

操作のしかた（つづき）

2 フェーダー機能について

★ 本機能は、フロント側（FL、C 、FRチャンネル）とリア側（SL、SR、SBL、SBRチャンネル）のそれぞれの音量を一括して減衰させることが可能な機能です。
マルチチャンネルミュージックソース再生時などの定位バランスの調整に活用できます。

1 **“ FADER ” を選択します。**

● ボタンを押すたびに下記の順序でチャンネルが切り替わります。

（リモコン）

FL → C → FR → SR → SBR※ → SBL※ → SL → SW → FADER → FL

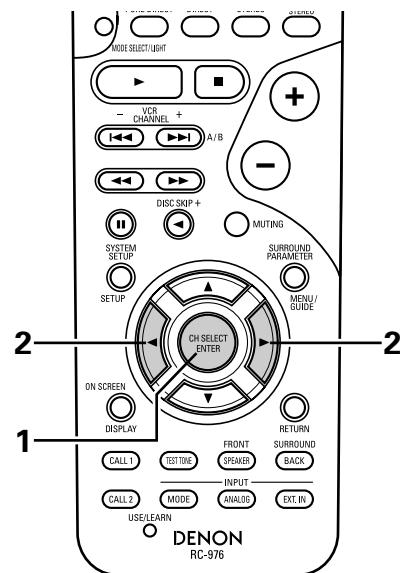
2 **リア側の音量を一括して減衰させたい場合はカーソルライトボタンを、またフロント側の音量を一括して減衰させたい場合はカーソルレフトボタンを押します。**

※ なお、SWチャンネルにはフェーダー機能は働きません。

（リモコン）

※ フェーダーの調整は、チャンネルレベルが一番小さく調整されているチャンネルがフェーダー機能により－12dBに減衰するまで可能です。

※ フェーダーの調整後、チャンネルレベルを個別に調整した場合は、フェーダー調整値はクリアされますので、その時点から新たにフェーダー調整をおこなってください。

※「スピーカーの種類・有り無しの設定」（41ページ）でサラウンドバックスピーカーを “ 1 spkr ” に設定した場合は SB となります。
また、“ None ” に設定した場合は表示されません。

フェーダーコントロール設定時のみ表示されます。

Fader FRONT◀：▶REAR

FL	0．0dB
C	0．0dB
FR	0．0dB
SR	0．0dB
SBR	0．0dB
SL	0．0dB
SBL	0．0dB

*Fader Vol.
Front◀：▶Rear

3 ドルビーデジタルモード、DTSサラウンドモード（デジタル入力のみ）

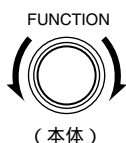
1

入力ソースを選択します。

デジタル入力での再生

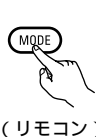
① **デジタル（COAXIAL/OPTICAL）が設定されている（48ページ参照）入力ソースを選択します。**

FUNCTION　DVD 4

（本体）　（リモコン）

② **DTSサラウンドモードの場合は、入力モードを“AUTO”または“DTS”に設定します。ドルビーデジタルモードの場合は、入力モードを“AUTO”に設定します。**

MODE　MODE

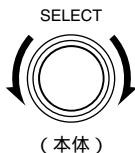
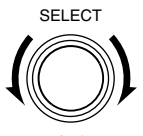
（本体）　（リモコン）

2

再生するプログラムソースに合わせて、スタンダードボタンを押してドルビーまたはDTSサラウンドモードを選択します。

※ 本体で操作する場合、サラウンドモードボタンを押してからセレクトつまみを回して、ドルビーまたはDTSサラウンドモードを選択してください。

SURROUND MODE　SELECT　STANDARD

（本体）　（本体）　（リモコン）

3

DOLBY DIGITAL または dts マークの付いたプログラムソースを再生します。

- ドルビーデジタルソース再生中はドルビーデジタル表示（ DD DIGITAL ）が点灯します。
- DTSソース再生中はDTS表示（ dts ）が点灯します。

サラウンドバックボタンでサラウンドバックチャンネルのオン/オフを切り替えることができます。

- サラウンドバックチャンネルがオンのときは、サラウンドバックチャンネル出力表示が点灯します。

SURROUND BACK　SURROUND BACK

SBL SB SBR 点灯

SBL SB SBR 点灯

（本体）　（リモコン）

（次のページに続きます。）

4 **ソースに合わせて Surround Parameter 画面を表示させます。**

※ 各パラメーターについては「サラウンドパラメーターについて②」（80ページ）を参照してください。

（本体）　（リモコン）

5 **各種パラメーターを選択します。**

（本体）　（リモコン）

6 **各サラウンドパラメーターを設定します。**

（本体）　（リモコン）

7 **本体ボタンでサラウンドパラメーターの設定をした場合には、設定が終了したらボタン操作を止めてください。設定の内容は自動的に確定され、数秒後に通常の表示に戻ります。**

- リモコンで操作した場合には、サラウンドパラメーターボタンで終了します。

ご注意

- Defaultを選択してカーソルレフトボタンを押すと、自動的に“ CINEMA EQ. ”と“ D.COMP. ”がOFFに、“ LFE ”と“ TONE ”が初期値に設定されます。
“ ROOM EQ ”は初期値（OFF）に設定されません。

■ダイアログノーマライゼーションについて

ドルビーデジタルプログラムソースの再生中は、ダイアログノーマライゼーション機能が自動的に動作します。
この機能は、ドルビーデジタルの基本機能であり、プログラムソースごとに異なるレベルで記録されている信号のレベル（標準レベル）を自動的に補正する作用があります。
本内容はステータスボタンで確認できます。

```
Dial.Norm
Offset  -4dB
```

数字は再生中のプログラムを標準レベルに補正をした場合の補正レベルを表わします。

4 AACサラウンドモード（デジタル入力のみ）

1 **入力ソースを選択します。**

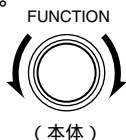
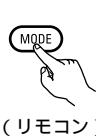
デジタル入力での再生

① **デジタル（COAXIAL/OPTICAL）が設定されている（48ページ参照）入力ソースを選択します。**

FUNCTION　　DBS 0

（本体）　　（リモコン）

② **入力モードを“ AUTO ”に設定します。**

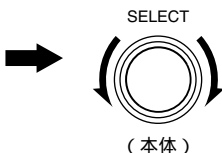
MODE　　MODE

（本体）　　（リモコン）

2 **AACのプログラムソースを再生します。**

- AACソース再生中はAAC表示（ AAC ）が点灯します。

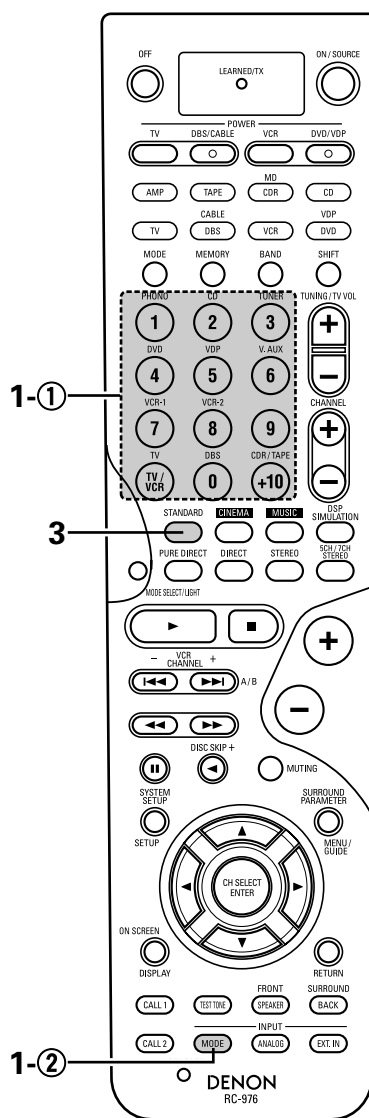
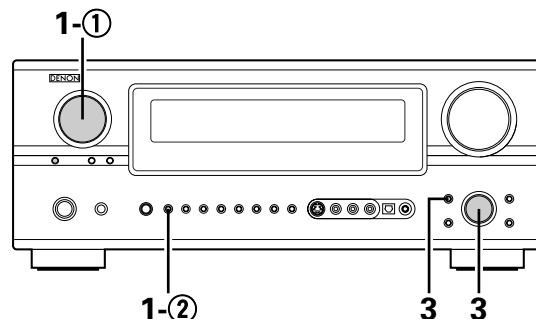
3 **5.1chの再生をおこなうときは、AACサラウンドモードを選択します。**

※ 5.1chのプログラムソースが入力されているとき、AACサラウンドモードは“ MPEG2 AAC ”と表示されます。

※ 本体で操作する場合、サラウンドモードボタンを押してからセレクトつまみを回して、ドルビーサラウンドモードを選択してください。

※ AACの2chソースが入力されているときは、PRO LOGICⅡxモードまたはDTS NEO:6モードになります。

※ AAC放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れることがあります。

ご注意

- BSデジタルチューナーのデジタル音声出力が『AAC』に設定されていることを確認してください。
  詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- AACのプログラムソースは、上記のサラウンドモード以外でも使用できます。お好みに合わせて各種サラウンドモードをお楽しみください。
- BSデジタルチューナーによっては、AACのデジタル出力が出ない機器やデジタル出力の設定が必要な機器があります。詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

★ AACサラウンドモードはサラウンドパラメーター画面で、AFDM（Auto Flag Detect Mode）およびSB CH OUT（サラウンドバックチャンネルアウト）の設定により6.1ch再生をおこなうことができます。
なお、6.1ch再生をおこなっているときは、“ AAC+ DD EX ”が表示されます。

5 ドルビーサラウンドプロロジックⅡx（プロロジックⅡ）モード

1 ドルビーサラウンドプロロジックⅡxモードを選択します。

- ドルビープロロジック表示（ PRO LOGIC Ⅱ ）が点灯します。
- スタンダードボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

DOLBY PLⅡx → DTS NEO:6

※ 本体で操作する場合、サラウンドモードボタンを押してからセレクトつまみを回して、ドルビーサラウンドモードを選択してください。

2 DOLBY SURROUND マークの付いたプログラムソースを再生します。

- 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

3 Surround Parameter 画面を表示させます。

ドルビーサラウンドプロロジックⅡxモードのときに、CINEMAボタンまたはMUSICボタンでドルビーサラウンドプロロジックⅡxのシネマモードまたはミュージックモードを直接選択することができます。

（次のページに続きます。）

4

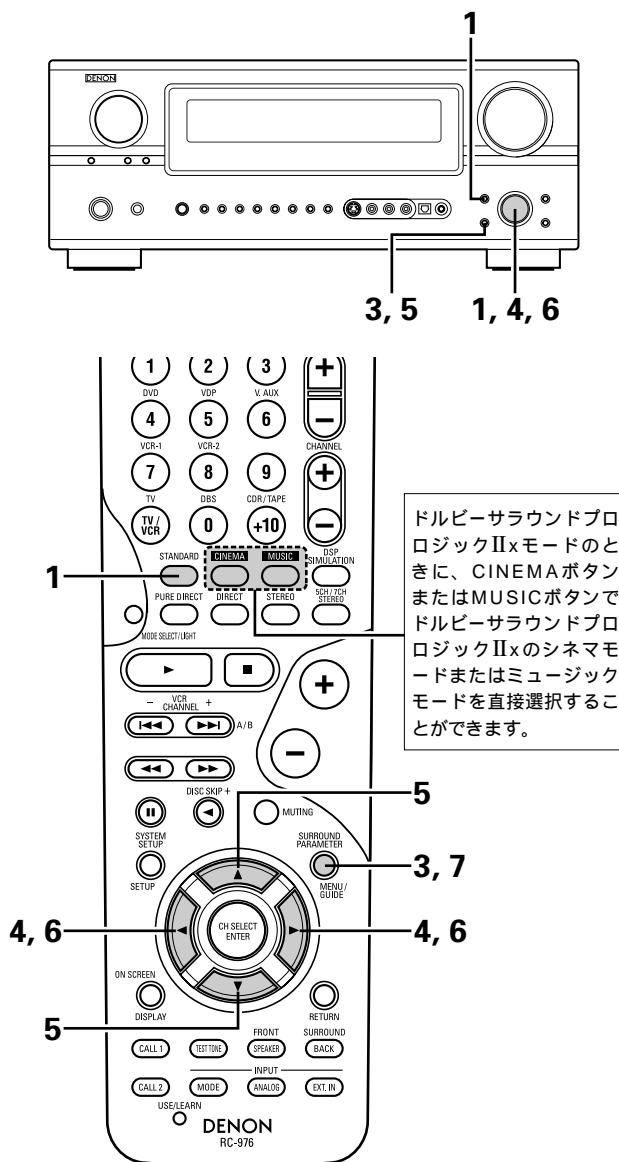
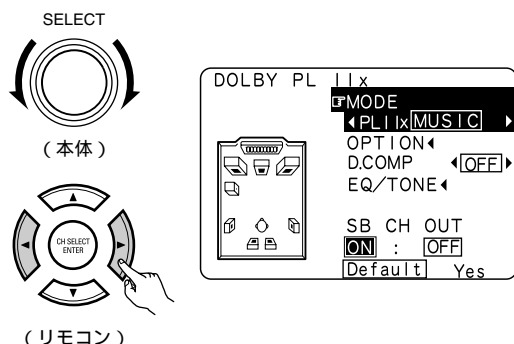
再生モードを選択します。

SELECT

（本体）

CH SELECT ENTER

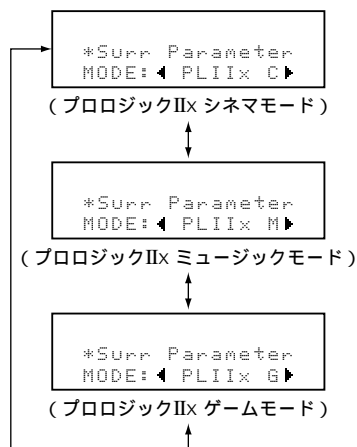
（リモコン）

DOLBY PL IIx
☞MODE
◀PLIIx MUSIC ▶
OPTION◀
D.COMP ◀OFF▶
EQ/TONE◀
SB CH OUT
ON : OFF
Default Yes

[『SB CH OUT』が " ON " の場合]

- システムセットアップでサラウンドバックスピーカーが " 1 spkr " または " 2 spkrs " に設定されている場合

*Surr Parameter
MODE:◀ PLIIx C▶
（プロロジックIIx シネマモード）

*Surr Parameter
MODE:◀ PLIIx M▶
（プロロジックIIx ミュージックモード）

*Surr Parameter
MODE:◀ PLIIx G▶
（プロロジックIIx ゲームモード）

[『SB CH OUT』が " OFF " の場合]

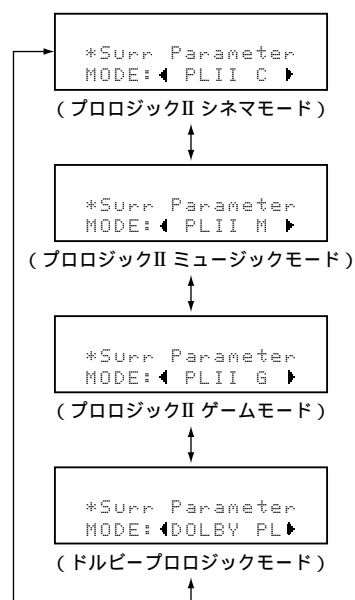
- システムセットアップでサラウンドバックスピーカーが " None " に設定されている場合

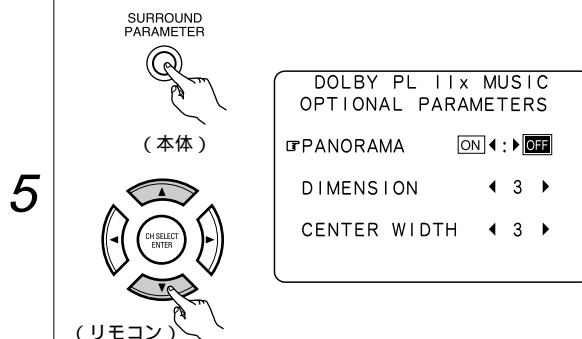
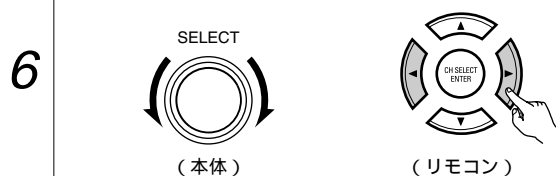
*Surr Parameter
MODE:◀ PLII C ▶
（プロロジックII シネマモード）

*Surr Parameter
MODE:◀ PLII M ▶
（プロロジックII ミュージックモード）

*Surr Parameter
MODE:◀ PLII G ▶
（プロロジックII ゲームモード）

*Surr Parameter
MODE:◀DOLBY PL▶
（ドルビープロロジックモード）

5

各種パラメーターを選択します。

※ 各パラメーターについては、「サラウンドパラメーターについて①、②」（79、80ページ）を参照してください。

※ MUSICモード時にリモコンを使用してOSDで設定をする場合には、カーソルアップまたはダウンボタンで " OPTION◀ " にマークを合わせて、カーソルレフトボタンを押してください。エンターボタンを押すと、前画面に戻ります。

6

各サラウンドパラメーターを設定します。

SELECT

（本体）

CH SELECT ENTER

（リモコン）

7

本体ボタンでサラウンドパラメーターの設定をした場合には、設定が終了したらボタン操作を止めてください。設定の内容は自動的に確定され、数秒後に通常の表示に戻ります。

- リモコンで操作した場合には、サラウンドパラメーターボタンで終了します。

ご注意

ドルビーサラウンドプロロジックは " NORMAL(ノーマル) "、" PHANTOM(ファントム) "、" WIDE(ワイド) " および " 3CH. LOGIC(チャンネル ロジック) " の4つのモードがありますが、これらはシステムセットアップの「スピーカーの種類、有り無しの設定」（41ページ）をおこなうことにより本機が自動的に設定します。

6 DTS NEO:6モード

★ アナログ入力およびデジタル入力の2ch信号に対して、サラウンド再生をおこなうことができます。

1 DTS NEO:6モードを選択します。

- スタンダードボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

※ 本体で操作する場合、サラウンドモードボタンを押してからセレクトつまみを回して、DTSサラウンドモードを選択してください。

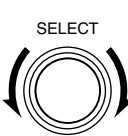
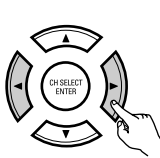
2 プログラムソースを再生します。

3 Surround（サラウンド） Parameter（パラメーター） 画面を表示させます。

※ 各パラメーターについては、「サラウンドパラメーターについて①、②」（79、80ページ）を参照してください。

4 再生モードを選択します。

DTS NEO：6モードのときに、CINEMAボタンまたはMUSICボタンでDTS NEO：6のシネマモードまたはミュージックモードを直接選択することができます。

5 各種パラメーターを選択します。

6 各サラウンドパラメーターを設定します。

7 本体ボタンでサラウンドパラメーターの設定をした場合には、設定が終了したらボタン操作を止めてください。設定の内容は自動的に確定され、数秒後に通常の表示に戻ります。

- リモコンで操作した場合には、サラウンドパラメーターボタンで終了します。

ご注意

Defaultを選択してカーソルレフトボタンを押すと、自動的に“ MODE ”と“ TONE ”が初期値に、“ CINEMA EQ. ”がOFFに設定されます。

7 オーディオディレイの調整のしかた

★ DVDなどの映像ソフトを視聴しているときに、モニター画面の映像が音声に対して遅れていると感じる場合があります。このような場合にはオーディオディレイを調整し、音声を遅らせることで映像とのタイミングを合わせます。
オーディオディレイの設定値は設定した入力ソースごとに記憶されます。

（次のページに続きます。）

4 **エンターボタンを押して Advanced Playback 画面に切り替えます。**

（リモコン）

5 **Advanced Playback 画面で “ Audio Delay ” を選択します。**

（リモコン）

6 **エンターボタンを押して Audio Delay 画面に切り替えます。**

（リモコン）

7 **ディレイ時間を設定します。（0ms～200ms）**

（リモコン）

※ 映画ソースなどで俳優の口の動きと声の出るタイミングなどを見て調整します。

8 **エンターボタンを押して設定を確定します。**

- Advanced Playback 画面に戻ります。

（リモコン）

9 **Advanced Playback 画面上で “ Exit ” を選択し、エンターボタンを押します。**

- System Setup Menu 画面に戻ります。

（リモコン）

10 **System Setup Menu 画面上でシステムセットアップボタンを押すか、または “ Exit ” を選択し、エンターボタンを押します。**

- 変更した設定値が確定され、オンスクリーン表示が消えます。

または

（リモコン）

ご注意

- コンポーネントビデオ信号に対して本設定をおこなう場合は、ディレイ時間を設定してオンスクリーン表示をオフした後、コンポーネント映像と音声のタイミングが合っているか確認してください。
- EXIT. INモード時およびアナログ入力時のダイレクトモード、ステレオモード（Tone Defeat “ ON ”）で再生中はオーディオディレイは効きません。

（3）DENONオリジナルサラウンドについて

★ 本機はデジタル信号処理により、音場を疑似的に再現する高性能なDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）を内蔵しています。10通り用意されたサラウンドモードを再生するプログラムソースに合わせて選択して、パラメーターを調節することで、よりリアルでパワフルな音場を再現することができます。

1 各サラウンドモードとその特長

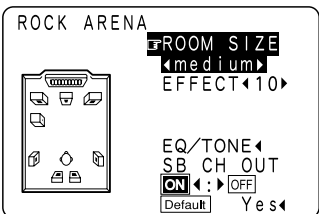
1	ワイド スクリーン WIDE SCREEN	大きなスクリーンの映画館で映画を見ているような雰囲気で楽しみたいときに選択します。このモードでは、DOLBY PRO LOGICやDOLBY DIGITAL 5.1chをはじめとしたすべての信号ソースを7.1ch再生します。サラウンドチャンネルには、映画館のマルチサラウンドスピーカーをシミュレートした効果が付加されます。
2	スーパー スタジアム SUPER STADIUM	野球やサッカーなどの中継プログラムをスタジアムで観戦しているような雰囲気で楽しみたいときに選択します。最も長い残響信号を得ることのできるモードです。
3	ロック アリーナ ROCK ARENA	反射音が回り込んでくるアリーナでのライブコンサートの雰囲気で楽しみたいときに使用します。
4	ジャズ クラブ JAZZ CLUB	天井が低く、固い壁に囲まれたライブハウスのような場所で、アーティストがすぐ近くで演奏するような雰囲気で楽しみたいときに選択します。
5	クラシック コンサート CLASSIC CONCERT	豊かな響きのコンサートホールの雰囲気で楽しみたいときに選択します。
6	モノ ムービー MONO MOVIE（注1）	モノラル録音の映画ソースを広がりのある音場の雰囲気で楽しみたいときに選択します。
7	ビデオ ゲーム VIDEO GAME	ビデオゲームで楽しみたいときに使用します。
8	マトリクス MATRIX	ステレオ録音された音楽ソースを、広がり感を強調して楽しみたいときに選択します。サラウンドCHからは、入力された信号の差の成分（広がり感の成分）に遅延処理を加えた信号が出力されます。
9	バーチャル VIRTUAL	フロント2chだけのスピーカーを使用して、立体感のあるサラウンド再生を楽しみたいときに選択します。
10	チャンネル チャンネル ステレオ 5CH/7CH STEREO	サラウンドおよびサラウンドバック信号のLchにはフロントLchの信号、サラウンド信号のRch にはフロントRchの信号を出力し、センターchにはLchとRchの同相成分を出力します。ステレオサウンドを楽しむためのモードです。

※ 再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られないことがあります。
この場合には、サラウンドモードの名称にこだわらずに各モードを試して、お好みの音場を創り出してください。

（注1）モノラル録音ソースを再生する場合、LまたはRの片チャンネル入力では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

パーソナルメモリープラスについて

本機には、入力ファンクションごとに選択された、サラウンドモードなどを自動的に記憶されるパーソナルメモリープラスという機能を搭載しています。入力ファンクションを切り替えるごとに、前回使用されたときの記憶が自動的に呼び出されます。

【パーソナルメモリープラス機能で各入力ファンクションごとに自動的に記憶される内容】

① サラウンドモード
② 入力モード選択機能
サラウンドパラメーターおよびトーンコントロールの設定、各出力チャンネルの再生レベルは、サラウンドモードごとに記憶します。

2 DSPサラウンドシュミレーションのしかた

■ サラウンドモードとサラウンドパラメーターをリモコンで操作する場合

1

入力ソースに合わせて、サラウンドモードを選択します。

DSP SIMULATION
（リモコン）

※ DSP SIMULATIONボタンを押すたびに、サラウンドモードが下記のように切り替わります。

WIDE SCREEN → SUPER STADIUM → ROCK ARENA → JAZZ CLUB → CLASSIC CONCERT → MONO MOVIE → VIDEO GAME → MATRIX → VIRTUAL → WIDE SCREEN

2

Surround Parameter 画面を表示させます。

※ 各パラメーターについては「サラウンドパラメーターについて③」（81ページ）を参照ください。

SURROUND PARAMETER
MENU GUIDE
（リモコン）

ROCK ARENA
ROOM SIZE
medium
EFFECT 10
EQ/TONE
SB CH OUT
ON : OFF
Default Yes

*Surr Parameter
ROOM: Medium

※ 選択されているサラウンドモードの画面が表示されます。

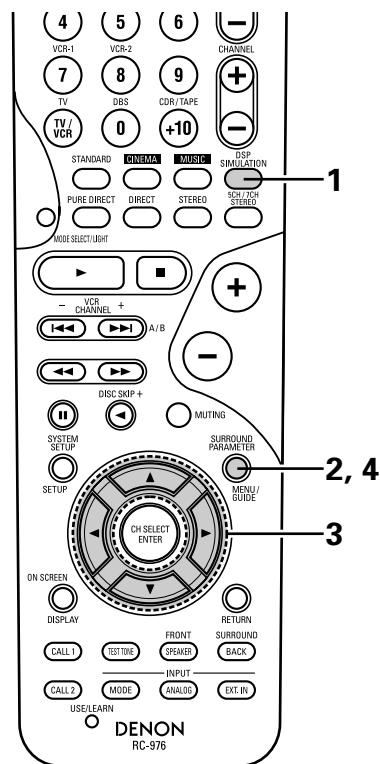
3

各種パラメーターを設定します。

CH SELECT ENTER
（リモコン）
（リモコン）

4

設定モードを終了する場合は、再度サラウンドパラメーターボタンを押します。

SURROUND PARAMETER
MENU GUIDE
（リモコン）

ご注意

- リモコンのスピーカーボタンで、フロントスピーカーの設定を変えることができます。
- Defaultを選択してカーソルレフトボタンを押すと、自動的に“CINEMA EQ.”と“D.COMP.”がOFFに設定されます。また、ROOM SIZEは“medium”、EFFECT LEVELは“10”、DELAY TIMEは“30ms”、LFEは“0dB”にそれぞれ設定されます。
- ROOM SIZEは各サラウンドモードにおける広がり感の効果を音場の大きさで表現したものです。再生する部屋の大きさを表わすものではありません。
- PCMデジタル信号またはアナログ信号をDOLBY PRO LOGICⅡx、DTS NEO:6のサラウンドモードで再生中に、入力信号がドルビーデジタルでエンコードされたデジタル信号に切り替わった場合には、強制的にドルビーサラウンドモードに切り替わります。また、入力信号がDTS信号に切り替わった場合には、強制的にDTSサラウンドに切り替わります。

操作のしかた（つづき）

■ サラウンドモードとサラウンドパラメーターを本体で操作する場合

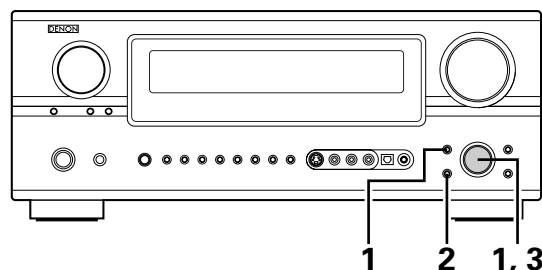
1

サラウンドモードボタンを押してからセレクトつまみを回して、サラウンドモードを選択します。

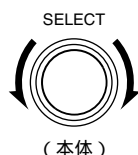
2

Surround Parameter（サラウンド パラメーター）画面を表示させます。

- サラウンドパラメーターボタンを押し続け、設定したいパラメーターに合わせます。
- 設定できるパラメーターはサラウンドモードにより異なります。（82ページの「サラウンドモードとパラメーター 一覧表」を参照）

3

調整したいパラメーターを表示させてから、セレクトつまみを回して設定します。

SELECT

（本体）

ご注意

PCMデジタル信号またはアナログ信号をDOLBY PRO LOGICⅡ、DTS NEO:6のサラウンドモードで再生中に、入力信号がドルビーデジタルでエンコードされたデジタル信号に切り替わった場合には、強制的にドルビーサラウンドモードに切り替わります。
また、入力信号がDTS信号に切り替わった場合には、強制的にDTSサラウンドに切り替わります。

3 Room EQ / トーンコントロールの設定

★ Room EQ の設定をおこないます。
★ 低音および高音をお好みに合わせて調節する場合に、トーンコントロールの設定をおこないます。

■ Room EQ / トーンコントロールをリモコンで操作する場合

1 Surround Parameter 画面を表示させます。

※選択されているサラウンドモードの画面が表示されます。（ダイレクトモードの場合は“ TONE ”を選択できません。）

2 “ EQ / TONE ”を選択します。

3 Room EQ / Tone Control 画面に切り替えます。

ご注意

- “ Normal ”、“ Front ” および “ Flat ” のイコライザーはオートセットアップメニューで自動測定を実行した後に選択可能となります。
- ヘッドホンを接続している場合はイコライザーの設定は “ OFF ” になります。

4 イコライザーの設定を選択します。

5 Tone Defeat の “ OFF ” を選択します。

6 音質を調節します。

◎ 低音、高音の選択　◎ レベルの設定

7 設定を確定します。

- サラウンドパラメーター画面に戻ります。

8 設定モードを終了する場合は、再度サラウンドパラメーターボタンを押します。

■ Room EQ を本体で操作する場合

■ トーンコントロールを本体で操作する場合

2 調整するボリウム名を表示させた状態で、セレクトつまみを回してレベルを調整します。

SELECT

（本体）

- 強くするとき：右へまわす
  （＋6dBまで1dBステップで調整可能です。）
- 弱くするとき：左へまわす
  （－6dBまで1dBステップで調整可能です。）

4 サラウンドパラメーターについて

サラウンドパラメーターについて①

MODE（ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡ）

- **CINEMA：**
ドルビーサラウンド録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生に適したモードです。高精度デコーダーによる5チャンネルデコードをおこない、2チャンネルソースでも360度均一なサラウンド音場を実現します。
主にステレオ音楽成分を多く含むソースの場合、MUSICモードの方がより効果的な場合もあります。試聴結果によって、効果的なモードを選択してください。

- **MUSIC：**
ステレオ音楽信号のサラウンド再生に適したモードです。音楽信号の残響成分に多く含まれる逆相信号の再生をサラウンドチャンネルでおこない、同時にサラウンドチャンネルの周波数特性をサラウンド音に最適化させることにより、自然な、且つ広がり感のある音楽再生をおこないます。
音楽信号は、そのジャンル、状態（ライブ音楽等）など信号ソースの内容により音場の広がり方が異なります。そのためMUSICモードには、さらに音場の調整を可能とする、各種のオプションパラメーターがあります。

PANORAMA
フロントステレオの音場イメージを、サラウンドチャンネルまで拡大します。
ノーマル状態でステレオイメージが狭く、サラウンド効果が薄いと感じられる場合に効果的です。

DIMENSION
音場イメージの中心をフロント、またはサラウンド側にシフトします。
ソースの残響成分の大きさに拠らず、各チャンネルの再生バランスを調整することが可能です。音場イメージがフロント側、サラウンド側のいずれかに偏った場合に、それらを補正することができます。

CENTER WIDTH
センターの信号成分の再生方法を、センターチャンネルのみの再生からフロントチャンネルのみの再生の間で調整します。
セパレーションを重視したセンターチャンネル再生をおこなった場合、フロントチャンネルの音場について定位が明確化する反面、全体の音場イメージがセンターに集中したり、各チャンネル間の繋がりが希薄に感じられることがあります。このパラメーターを調整することにより、音場イメージの安定感を増加させ、自然な左右の広がりを得ることができます。

- **GAME：**
従来のMUSIC/CINEMAモードに加えて、ゲームに最適なGAMEモードに対応しています。
GAMEモードは、2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

- **PL：**
従来のドルビープロロジック再生互換モードです。ドルビーサラウンド録音ソースに対して、録音時の再生イメージに忠実なデコードをおこないます。

MODE（DTS NEO:6）

- **CINEMA：**
映画再生に最適なモードです。セパレーション特性を重視してデコードすることにより、2チャンネルソースでも6.1チャンネルソースと同じような雰囲気で楽しむことが可能です。
同相成分は主にセンター（C）に、逆相成分はサラウンド（SL,SR,SB）に振り分けられる特性を持つため、従来のサラウンド録音されたソース再生にも効果があります。

- **MUSIC：**
主に音楽再生に適したモードです。フロントチャンネル（FL,FR）の信号はデコーダーを通らずそのまま再生されるため音質の変化が無く、更にセンター（C）とサラウンド（SL,SR,SB）チャンネルから出力されるサラウンド信号の効果により、音場にナチュラルな拡がり感が加わります。

CNTR. IMAGE（センターイメージ）
センターチャンネルの広がりを調整するパラメーターです。可変範囲が0.0〜1.0になり、初期値も0.3になりました。

サラウンドパラメーターについて②

CINEMA EQ.（シネマイコライザー）：
映画ソフト再生中に会話部分が耳ざわりと感じるときに使用します。（高域の成分を下げます。ドルビープロロジックII、ドルビーデジタル、DTSサラウンド、DTS NEO;6、MPEG-2 AAC、ワイドスクリーンモードのみ有効です。）

D.COMP.（ダイナミックレンジコンプレッション）：
ダイナミックレンジの圧縮をおこないます。（ドルビーデジタルならびにDTSで録音されたプログラムソース再生時のみ有効です。）“ OFF ”、“ LOW ”、“ MID ”（MIDDLE）、“ HI ”（HIGH）の4つのパラメーターから選択します。
このパラメーターは、DTSソースを再生する場合、対応するソフトのみ表示されます。

LFE（ローフリクエンシーエフェクト）：
プログラムソースと可変範囲：
1. ドルビーデジタル　－10dB～0dB
2. DTSサラウンド　－10dB～0dB
3. MPEG-2 AAC　－10dB～0dB

ドルビーデジタルで録音されたソフトを再生する場合は、正しいドルビーデジタル再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようおすすめします。
DTSで録音された映画ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようおすすめします。
DTSで録音された音楽ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを－10dBに設定するようおすすめします。

TONE（トーン）：
トーンコントロールの調整をおこないます。
ダイレクト以外のサラウンドモードで設定が可能です。サラウンドモードごとに設定が可能です。
（Dolby/DTS/AACサラウンドモードは、共通です。）

AFDM（Auto Flag Detect Mode）：
Auto Flag Detect ModeのON/OFFを切り替えます。
※ ドルビーデジタル/DTSの5chソースの場合
AFDM（Auto Flag Detect Mode）を“ OFF ”に設定した場合は、サラウンドバックチャンネルの再生方法を選択できます。選択できるパラメーターは、Non Flag Source SBch Outputの設定内容と同等です。
AFDM（Auto Flag Detect Mode）を“ ON ”に設定した場合は、Non Flag Source SBch Outputで選択した設定が表示されます。
設定を変更する場合はAFDM（Auto Flag Detect Mode）を“ OFF ”にしてください。

SB CH OUT（サラウンドバックチャンネルアウト）：
“ OFF ”……………………サラウンドバックスピーカーを使用しない再生をおこないます。
“ NON-MTRX ” ………サラウンドバックスピーカーを使用した再生をおこないます。
サラウンドバックチャンネルにはL、Rチャンネルともにサラウンドチャンネルと同じ信号が出力されます。
“ MTRX ON ”…………サラウンドバックスピーカーを使用した再生をおこないます。
デジタルマトリクス処理をおこないサラウンドバックチャンネルを再生します。
“ ES MTRX ” …………dts信号を再生する場合にサラウンドバック信号をデジタルマトリックス処理をして再生するモードです。
“ ES DSCRT ” ………dts信号でディスクリート6.1chソースである認識番号が含まれている場合に、ソースに含まれているサラウンドバック信号を再生するモードです。
“ PLIIx CINEMA ” ……PLIIx CINEMAモードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。
PLIIx CINEMAモードで再生する場合はシステムセットアップでSp.Backを2spkrsに設定します。
“ PLIIx MUSIC ”………PLIIx MUSICモードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。
PLIIx MUSICモードで再生する場合は、システムセットアップでSp.Backを1spkrまたは2spkrsに設定します。

※ 2チャンネルソースの場合
“ OFF ”……………………サラウンドバックを使用しない再生をおこないます。
“ ON ” …………………サラウンドバックを使用する再生をおこないます。

サラウンドパラメーターについて③

EFFECT（エフェクト）：
WIDE SCREENモードにおいて、マルチサラウンドスピーカー効果を持つエフェクト信号をON/OFFします。
このパラメーターをOFFにすると、SBL、SBRチャンネルの信号はそれぞれSL、SRチャンネルと同等となります。

LEVEL（レベル）：
WIDE SCREENモードにおいて、エフェクト信号の大きさを設定します。“ 1 ” ～ “ 15 ” の15段階で設定できます。
サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。

ROOM SIZE（ルームサイズ）：
音場の大きさを設定します。
“ small ”、“ med.s ”、“ medium ”、“ med.l ”、“ large ” の5つのパラメーターがあります。“ small ” では小さな音場空間、“ large ” では大きな音場空間を再現します。

EFFECT LEVEL（エフェクトレベル）：
サラウンドの効果の大きさを設定します。
“ 1 ” ～ “ 15 ” の15段階で設定できます。音が歪んで変に感じられるときは、低いレベルに設定してください。

DELAY TIME（ディレイタイム）：
マトリクスモードに限り、“ 0ms ” ～ “ 300ms ” の範囲でディレイタイムを設定できます。

SW ATT：
EXT.IN入力モードでの再生時に、サブウーハーチャンネルのレベルを下げるパラメーターSW ATTが追加されました。ご使用になるプレーヤーによってはSuper Audio CDを再生した時に、SWチャンネルの再生レベルが大きいと感じる場合があります。この時にはSW ATTをONに設定してください。
DENON製プレーヤーの場合は初期設定でご使用ください。

Subwoofer ON/OFF：
サブウーハー出力のON/OFFを設定できます。

Room EQ：
各スピーカーの周波数特性を設定します。
“ OFF ” ……………イコライザーは使用されません。
“ Normal ” …………すべてのスピーカーの周波数特性を一般的なサラウンドシステムに適した特性に調整します。
“ Front ”……………各スピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。
“ Flat ” ……………すべてのスピーカーの周波数特性を均一（フラット）にします。これはITU-Rスピーカーセッティングのような音楽再生に適しています。
“ Manual ”…………Manual EQ Setupメニューで設定されたグラフィックイコライザーを使用し、各スピーカーの特性を調整します。

■ 入力信号に対するサラウンドモード表示

モード	入力信号								
	ANALOG	LINEAR PCM	DTS			DOLBY DIGITAL		AAC	
			DTS (5.1ch)	DTS 96/24 (5.1ch)	DTS (6.1ch)	D.D. (2ch)	D.D. (5.1ch)	2ch	2ch以外
PURE DIRECT, DIRECT	○	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DTS SURROUND	DTS NEO:6	DTS NEO:6	DTS+PLⅡx (CINEMA,MUSIC)	DTS+PLⅡx (CINEMA,MUSIC)	DTS+PLⅡx (CINEMA,MUSIC)	DTS NEO:6	×	DTS NEO:6	×
DOLBY SURROUND	∗DOLBY PRO LOGIC Ⅱ DOLBY PRO LOGIC Ⅱx (CINEMA,MUSIC,GAME)	∗DOLBY PRO LOGIC Ⅱ DOLBY PRO LOGIC Ⅱx (CINEMA,MUSIC,GAME)	×	×	×	∗DOLBY PRO LOGIC Ⅱ DOLBY PRO LOGIC Ⅱx (CINEMA,MUSIC,GAME)	DOLBY PRO LOGIC Ⅱx (CINEMA,MUSIC)	∗DOLBY PRO LOGIC Ⅱ DOLBY PRO LOGIC Ⅱx (CINEMA,MUSIC,GAME)	MPEG2+AAC AAC+PL Ⅱx (CINEMA,MUSIC)
DTS SIMULATION	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：選択可
∗：サラウンドパラメーター『SB CH OUT』の設定によりサラウンドモード名が変わります。
◎：入力信号によりサラウンドモード名が変わります。
×：選択不可

■ サラウンドモードとパラメーター 一覧表

モード	チャンネル出力					ドルビーデジタル信号再生時	DTS信号再生時	PCM信号再生時	アナログ信号再生時	AAC信号再生時	パラメーター（　）内は初期値		
											サラウンドパラメーター		
	FRONT L/R	CENTER	SURROUND L/R	SURROUND BACK L/R	SUB-WOOFER						SB CH OUT	ROOM EQ	TONE CONTROL
DIRECT / PURE DIRECT	○	×	×	×	◎	○	○	○	○	○	×	○ (OFF)	×
STEREO	○	×	×	×	◎	○	○	○	○	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)
EXTERNAL INPUT	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	○	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎	◎	◎	○ ∗	○ ∗	○	○	○ ∗	○	○ (OFF)	○ (0dB)
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎	◎	○ ∗	○ ∗	○	○	○ ∗	○	○ (OFF)	○ (0dB)
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	◎	○ ∗	○ ∗	○	○	○ ∗	○	○ (OFF)	○ (0dB)
DOLBY DIGITAL SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	○	×	×	×	×	○	○ (OFF)	○ (0dB)
DTS SURROUND (DTS ES MTRX6.1)	○	◎	◎	◎	◎	×	○	×	×	×	○	○ (OFF)	○ (0dB)
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	○	○	○ (OFF)	○ (0dB)
5/7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0dB)
WIDE SCREEN	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0dB)
SUPER STADIUM	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (注1)
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (注2)
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0dB)
CLASSIC CONCERT	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0dB)
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0dB)
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0dB)
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○ (OFF)	○ (0dB)
VIRTUAL	○	×	×	×	◎	○	○	○	○	○	×	○ (OFF)	○ (0dB)

○：信号有り
×：信号無し
◎：スピーカーコンフィグレーションの設定により、ON/OFF可能

○：制御可能
×：制御不可能
∗ 2チャンネル時のみ

（注1）：BASS：＋6dB, TREBLE：　0dB
（注2）：BASS：＋6dB, TREBLE：＋4dB

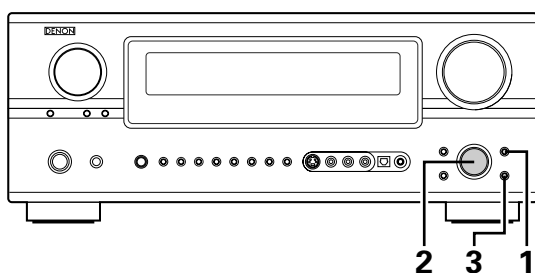
モード	パラメーター（　）内は初期値															
	サラウンドパラメーター															
	CINEMA EQ	MODE	ROOM SIZE	EFFECT	LEVEL	EFFECT LEVEL	DELAY TIME	SUB-WOOFER ON/OFF	ドルビー/DTS信号再生時			プロロジックII / IIx MUSIC MODEのみ			NEO:6 MUSIC MODE のみ	EXT.IN
									D. COMP	LFE	AFDM	PANORAMA	DIMENSION	CENTER WIDTH	CENTER IMAGE	SW ATT
DIRECT / PURE DIRECT	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×
STEREO	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×
EXTERNAL INPUT	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC II	○ (注3)	○ (CINEMA)	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	×	×	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx	○ (注4)	○ (CINEMA)	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	×	×	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×
DTS NEO:6	○ (注4)	○ (CINEMA)	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	×	○ (0.3)	×
DOLBY DIGITAL SURROUND	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)	○	×	×	×	×	×
DTS SURROUND (DTS ES MTRX6.1)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)	○	×	×	×	×	×
MPEG2 AAC	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)	○	×	×	×	×	×
5/7CH STEREO	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×
WIDE SCREEN	○ (OFF)	×	×	○ (ON)	○ (10)	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×
SUPER STADIUM	×	×	○ (Medium)	×	×	○ (10)	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×
ROCK ARENA	×	×	○ (Medium)	×	×	○ (10)	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×
JAZZ CLUB	×	×	○ (Medium)	×	×	○ (10)	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×
CLASSIC CONCERT	×	×	○ (Medium)	×	×	○ (10)	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×
MONO MOVIE	×	×	○ (Medium)	×	×	○ (10)	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×
VIDEO GAME	×	×	○ (Medium)	×	×	○ (10)	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×
MATRIX	×	×	×	×	×	×	○ (30msec)	×	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×
VIRTUAL	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×

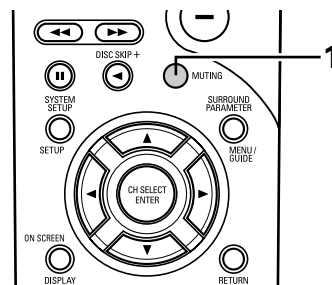
（注3）：CINEMA, PLモードのみ
（注4）：CINEMAモードのみ

○：制御可能
×：制御不可能

（4）その他の一般操作のしかた（再生したあとに）

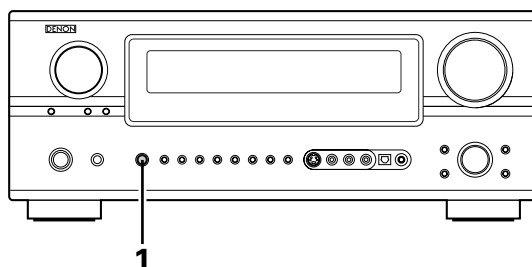
1 音質を調節するには

★ トーンコントロールはダイレクトモードでは動作しません。
★ トーンコントロールの設定はフロントスピーカーのみおこなえます。
★ トーンコントロールをおこなった場合は、主音量レベルを18dBまで調整できなくなります。（主音量レベルの最大値はサラウンドモードによって異なります。）

1	**トーンコントロールボタンを押します。** ※ ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。 BASS ←→ TREBLE （本体）
2	**調整するボリウム名を表示させた状態で、セレクトつまみを回してレベルを調整します。** SELECT （本体） ● 強くするとき：右へまわす （＋6dBまで1dBステップで調整可能です。） ● 弱くするとき：左へまわす （－6dBまで1dBステップで調整可能です。）
3	**音質を調節しない場合は、トーンデフィートオンモードに設定します。** （本体） ※ 信号が音質調整回路（BASS、TREBLE）を通らないため、より高音質でお楽しみいただけます。

2 一時的に音を消すには（ミューティング）

1	**ミューティングボタンを押します。** ●「ミューティングレベルの設定」（56ページ）で設定したレベルになります。 （リモコン） ※ 解除するときは、もう一度ミューティングボタンを押してください。

ご注意

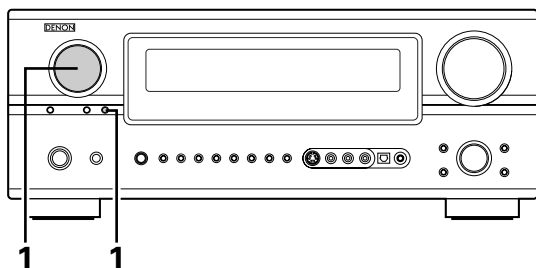
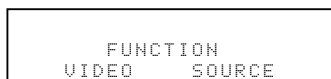
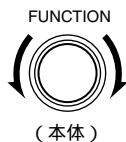
● 主音量調節つまみまたは主音量調節ボタンを操作すると解除されます。
● 本機の電源をオフにすると、設定が解除されます。

3 ヘッドホンで音を聴くには

1	**ヘッドホンジャックにヘッドホン（別売り）を差し込みます。** ※ 差し込むと自動的にPRE OUT出力およびスピーカー出力がオフになり、スピーカーより音が出なくなります。

操作のしかた（つづき）

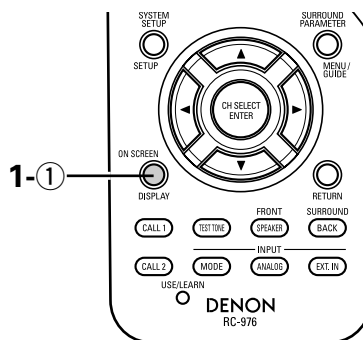
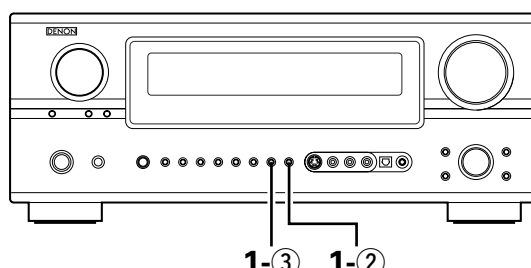
4 今聞いている音に好きな映像を組み合わせるには

ディスプレイ

1

ビデオセレクトボタンを押してから好きな映像が出るまでファンクションつまみを回します。

VIDEO SELECT（本体） ➡ FUNCTION（本体）

※ 解除するときには、次のいずれかの操作をおこなってください。
- もう一度ビデオセレクトボタンを押してからファンクションつまみを回して、" SOURCE "を選択します。
- または入力ソースをビデオ系入力に切り替えます。

5 今再生しているプログラムソースなどを確認するには

1

① オンスクリーン/ディスプレイボタンを押します。
- 押すたびに、ビデオモニター出力端子に接続したモニターテレビの画面上で、現在のプログラムソースやサラウンドなど各種設定が確認できます。

ON SCREEN DISPLAY（リモコン）

```
Mode:Dolby Digital EX

RoomEQ:Normal
SIGNAL:DOLBY DIGITAL
fs    :48kHz
FORMAT:3/3/.1
OFFSET:−4dB
FLAG  :MATRIX
                    OSD−1
```

OSD-1：入力信号の確認
OSD-2：入出力設定の確認
OSD-3：オートサラウンドモード記憶内容の確認

② ステータスボタンを押します。
- 押すたびに、ディスプレイ上で現在のプログラムソースやサラウンドなど各種設定が確認できます。

STATUS（本体）

③ ディマーボタン押すとディスプレイの明るさを調節できます。
- 押すたびに明るさが3段階に変化し、最後には消すことができます。

DIMMER（本体）

(5) より高音質な再生のしかた

★ 本機には音楽専用の2CH再生モードとして、3つのモードを装備しています。
お好みに合わせてご使用ください。

1

PURE DIRECT（ピュアダイレクト）モード

- 極めて高品位の音質を再生するモードです。
  このモードにすると映像関連の回路動作をすべて休止しますので、音楽信号を高音質で再現することができます。また、アナログ入力モードおよび外部入力モード（EXT. IN）を選択するとデジタル処理関連の回路も休止しますのでさらに純粋なアナログアンプとなります。

（本体）　（リモコン）

2

DIRECT（ダイレクト）モード

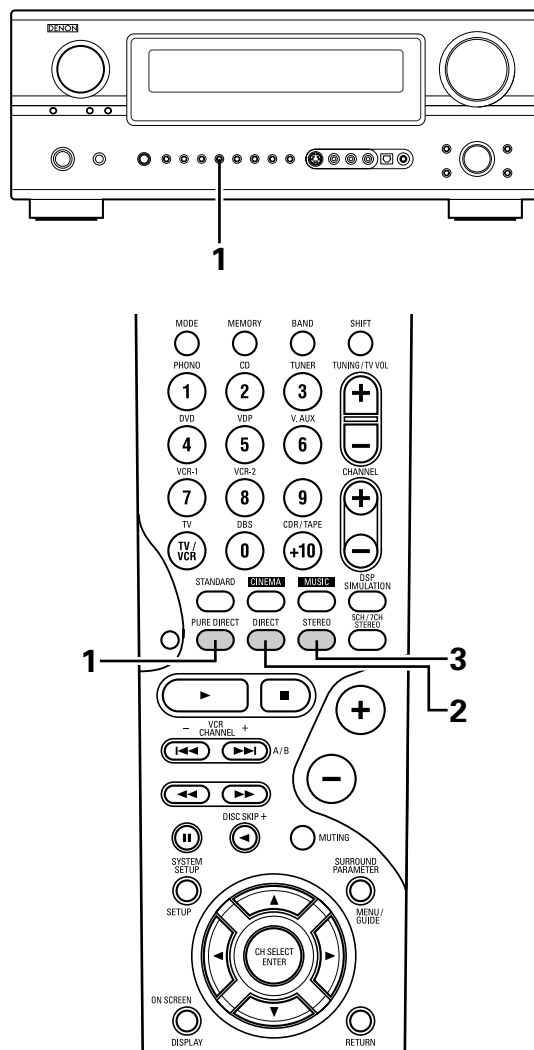
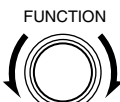
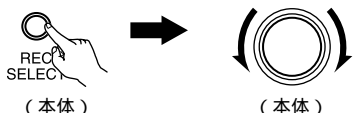
- 映像を見ながら、音の良い2チャンネル再生ができるモードです。音声信号の処理経路がトーン回路などを通らずストレートに伝送されるので、より良い音質で再生ができます。

（リモコン）

3

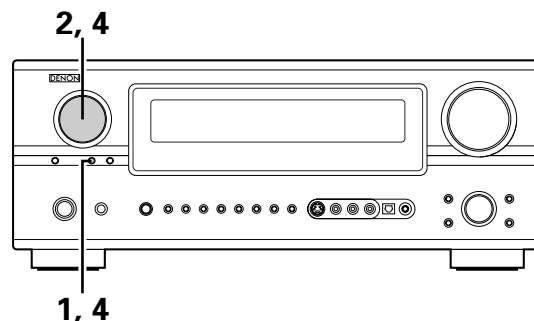
STEREO（ステレオ）モード

- 映像を見ながら、トーン調整をして自在に音の印象を変化させて楽しむモードです。

（リモコン）

ご注意

- PURE DIRECTモード時にはシステムセットアップはできません。設定を解除してから操作してください。
- PURE DIRECTモード時のチャンネルレベル、サラウンドパラメーターはDIRECTモードと共通になります。
- PURE DIRECTモードでデジタル回路を休止させる場合は、システムセットアップでサブウーハーのチャンネルレベルを“ OFF ”に設定する必要があります。（64ページ参照）

(6) 録音/録画のしかた（REC OUTモード）

1	**レックセレクトボタンを押します。**
2	**ディスプレイに録音させたいソースが表示されるまで、ファンクションつまみを回します。** ● 選択したプログラムソース表示が点灯します。
3	**録音/録画状態にします。** ※ 操作のしかたは、録音または録画する機器の取扱説明書をご覧ください。
4	**解除するときはレックセレクトボタンを押し、ディスプレイに“ SOURCE ”が表示されるまでファンクションつまみを回します。**

ご注意

デジタル信号はオーディオ/ビデオ出力端子からは出力されません。

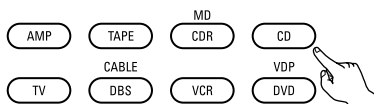
10 リモコンによる他機器の操作のしかた

（1）DENON製オーディオ機器の操作のしかた

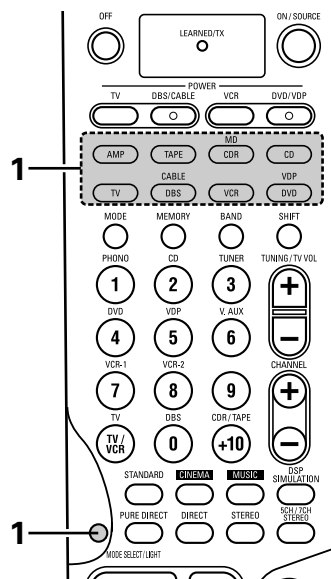
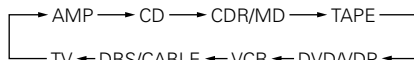
★ 操作する前に各機器の電源を入れてください。
★ お手持ちの機器の形式、年式によって操作できないボタンもあります。

1

操作したい機器を選択します。

AMP　TAPE　MD/CDR　CD
TV　CABLE/DBS　VCR　VDP/DVD

※ モードセレクトボタンを押すたびにファンクションが次のように切り替わります。

→ AMP → CD → CDR/MD → TAPE →
TV ← DBS/CABLE ← VCR ← DVD/VDP ←

2

オーディオ機器を操作します。

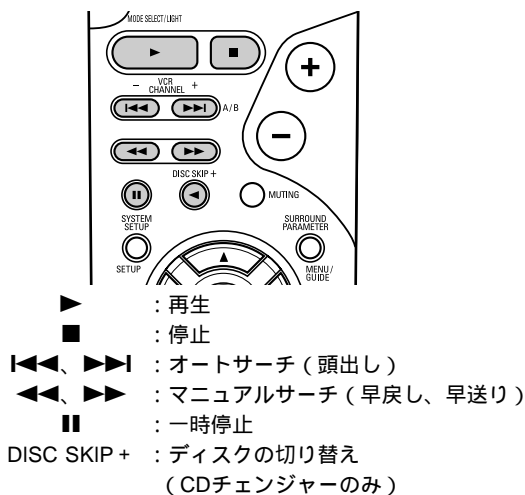
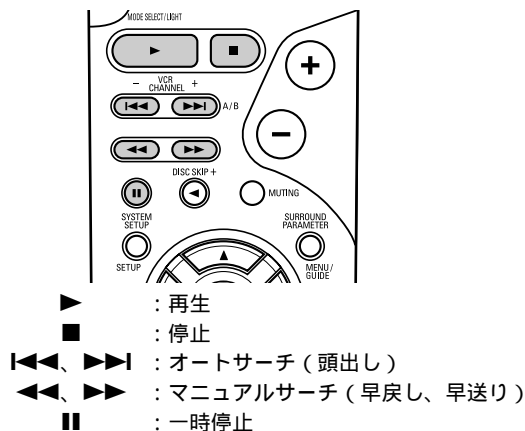
● 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

※ 機種によっては操作できないものがあります。

1．CDプレーヤー（CD）のシステムボタン

►	：再生
■	：停止
I◄◄、►►I	：オートサーチ（頭出し）
◄◄、►►	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
II	：一時停止
DISC SKIP＋	：ディスクの切り替え（CDチェンジャーのみ）

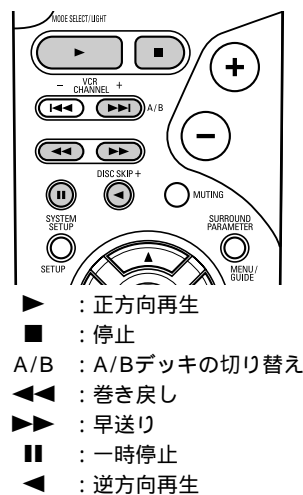
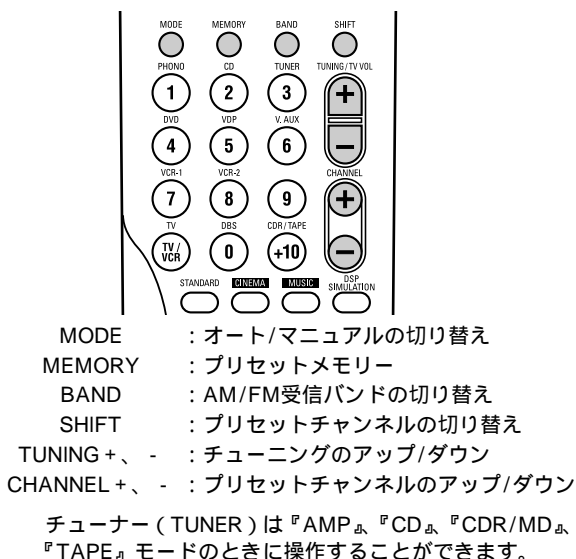
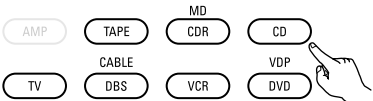
2．テープデッキ（TAPE）のシステムボタン

►	：正方向再生
■	：停止
A/B	：A/Bデッキの切り替え
◄◄	：巻き戻し
►►	：早送り
II	：一時停止
◄	：逆方向再生

3．MDレコーダー（MD）またはCDレコーダー（CDR）のシステムボタン

►	：再生
■	：停止
I◄◄、►►I	：オートサーチ（頭出し）
◄◄、►►	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
II	：一時停止

※ 工場出荷時の初期設定は『CDR』です。

4．チューナー（TUNER）のシステムボタン

MODE	：オート/マニュアルの切り替え
MEMORY	：プリセットメモリー
BAND	：AM/FM受信バンドの切り替え
SHIFT	：プリセットチャンネルの切り替え
TUNING＋、－	：チューニングのアップ/ダウン
CHANNEL＋、－	：プリセットチャンネルのアップ/ダウン

※ チューナー（TUNER）は『AMP』、『CD』、『CDR/MD』、『TAPE』モードのときに操作することができます。

リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

(2) プリセットメモリーについて

★ お手持ちの機器のメーカーをプリセットメモリーすることにより、付属のリモコンで各社の機器を操作することができます。なお、**機種によっては操作できない場合や機器が正確に動作しない場合があります**ので、その場合は学習機能（91ページ参照）によりお手持ちの機器のリモコン信号を付属のリモコンに記憶させてご使用ください。

1 **電源ボタンのON/SOURCEボタンとOFFボタンを同時に押します。**
- LEARNED/TX LEDが点滅します。

OFF　ON / SOURCE

2 **プリセットメモリーしたい機器のモードボタンを押します。**
- モードボタンとLEARNED/TX LEDが点滅します。

AMP　TAPE　MD CDR　CD
CABLE DBS　VDP DVD　TV　VCR

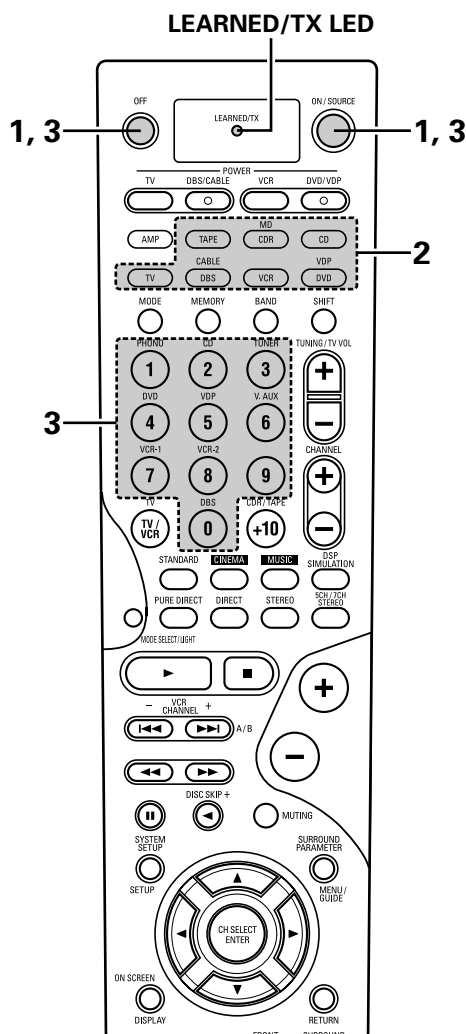
3 **付属のリモコンコード表を参照して、メモリーする機器のメーカーに対応する数字ボタン（4桁）を入力します。**

※ 解除するときは、電源ボタンのON/SOURCEボタンとOFFボタンを同時に押してください。

4 **正常にメモリーされると、モードボタンとLEARNED/TX LEDが点灯します。**

5 **続けて他の機器のメモリーをおこなう場合は、操作*1*～*4*をくり返しおこなってください。**

ご注意

- 添付のリモコンコード表中のメーカー製品であっても形式・年式によっては使用できないものがあります。
- 学習をしたボタンについては、プリセットメモリーをしても学習した内容を優先して残しますので、不要の場合は94ページに従って学習内容を消去してください。
- メーカーによってはリモコンコードを数種類持っています。動作しない場合は設定を変えて確認してください。
- **CDR/MD、DVD/VDPおよびDBS/CABLEは、各々どちらか一方の機器しかプリセットメモリーすることができません。**

■ 工場出荷時および初期化時のプリセットコードは、以下の通りです。
- TV, VCR ……………………………HITACHI
- CD, TAPE ……………………………DENON
- CDR/MD ……………………DENON（CDR）
- DVD/VDP……………………DENON（DVD）
- DBS/CABLE…………………ABC（CABLE）

■ DENON製DVDプレーヤーのプリセットコード

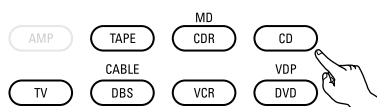
DENON製DVDプレーヤー	プリセットコード番号
DVD-900/1000/1400/1500 DVD-2200/2800/2900/3800 DVD-A11/A1	0000
DVD-800/1600/2000 DVD-2500/3300	0001

※ 工場出荷時の初期設定は『0000』です。

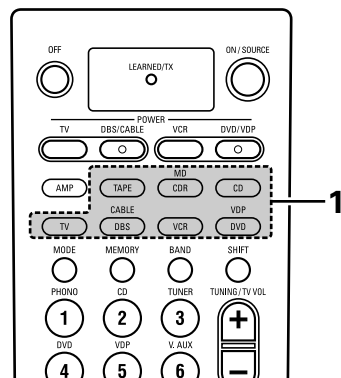
リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

(3) プリセットメモリーした機器の操作のしかた

1

操作したい機器を選択します。

ご注意

DVDのリモコンボタンはメーカーによって機能名が異なる場合がありますので、各機能のリモコンの動作と照らし合わせ、ご使用ください。

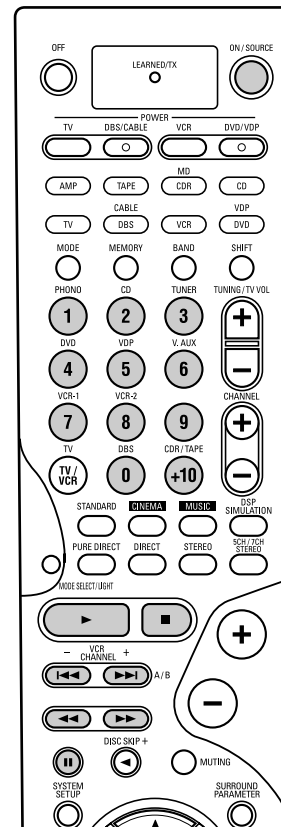
2

機器を操作します。

● 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

※ 機種によっては操作できないものがあります。

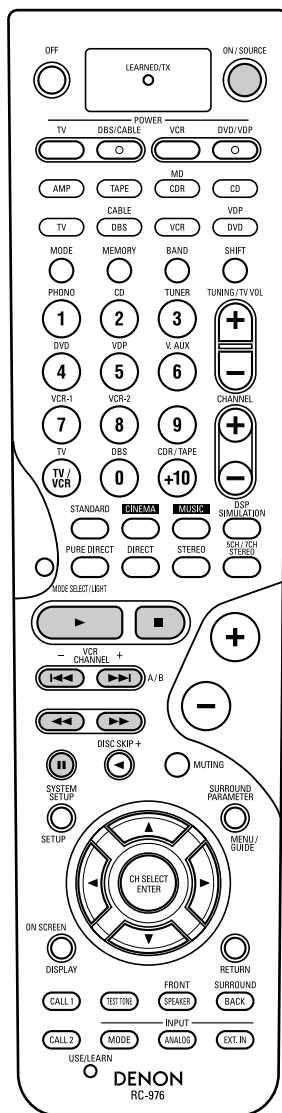
1．DVDプレーヤー（DVD）のシステムボタン

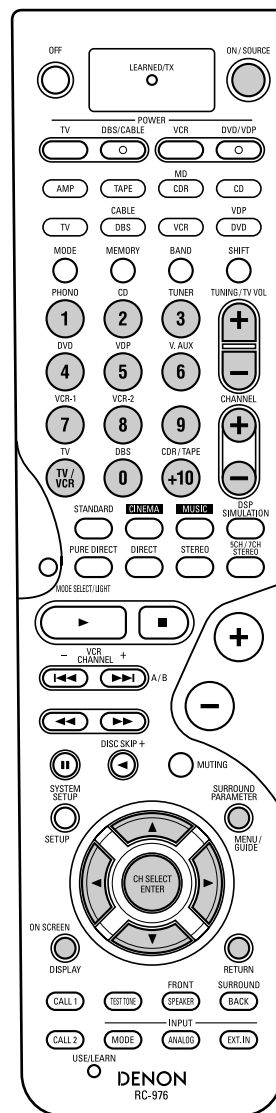
POWER (ON/SOURCE)	：電源のオン/スタンバイ
0〜9、+10	：テンキー
▶	：再生
■	：停止
⏮、⏭	：オートサーチ（頭出し）
◀◀、▶▶	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
❚❚	：一時停止
DISC SKIP＋	：ディスクの切り替え（DVDチェンジャーのみ）
SETUP	：セットアップ
MENU	：メニューの呼び出し
DISPLAY	：ディスプレイの切り替え
RETURN	：メニューのリターン
▲、▼、◀、▶	：カーソル上/下/左/右
ENTER	：設定の確定

2．ビデオディスクプレーヤー（VDP）のシステムボタン

POWER (ON/SOURCE)	：電源のオン/スタンバイ
0〜9、+10	：テンキー
▶	：再生
■	：停止
⏮、⏭	：オートサーチ（頭出し）
◀◀、▶▶	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
❚❚	：一時停止

リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

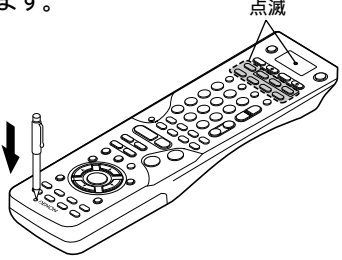
2
つづき

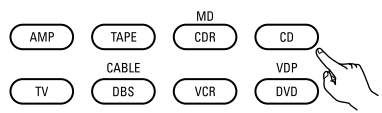
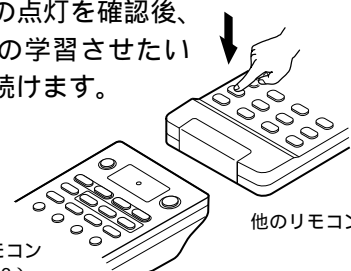
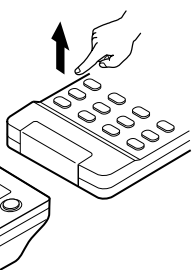
3．ビデオデッキ（VCR）のシステムボタン

POWER (ON/SOURCE)	：電源のオン/スタンバイ
►	：再生
■	：停止
CHANNEL ＋、－	：チャンネルの切り替え
◄◄、►►	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
❚❚	：一時停止

4．モニターテレビ（TV）、衛星放送（DBS）チューナーまたはケーブル（CABLE）のシステムボタン

POWER (ON/SOURCE)	：電源のオン/スタンバイ
0～9、+10	：チャンネルの選択
TV/VCR	：テレビ/ビデオの切り替え
TV VOL＋、－	：音量のアップ/ダウン
CHANNEL ＋、－	：チャンネルの切り替え
MENU	：メニューの呼び出し
DISPLAY	：ディスプレイの切り替え
RETURN	：メニューのリターン
▲、▼、◄、►	：カーソル上/下/左/右
ENTER	：設定の確認

ご注意

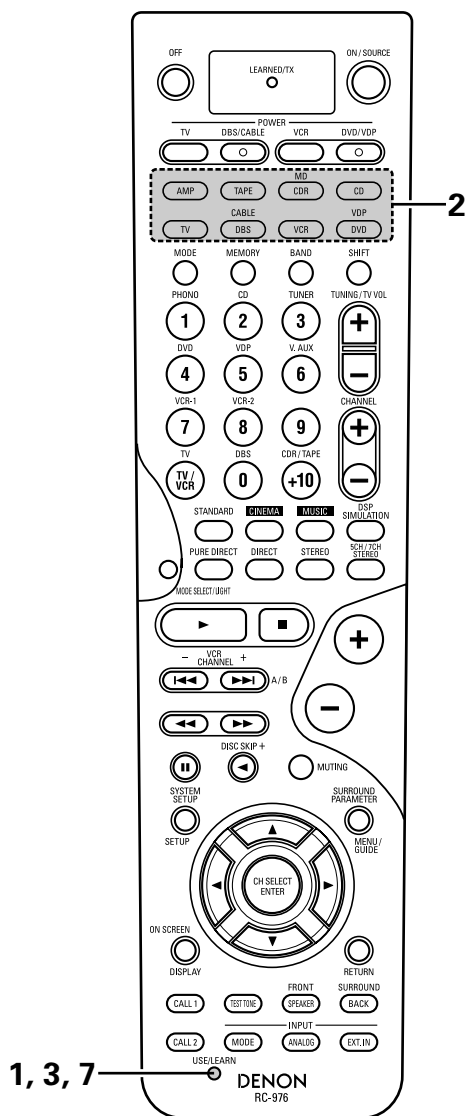
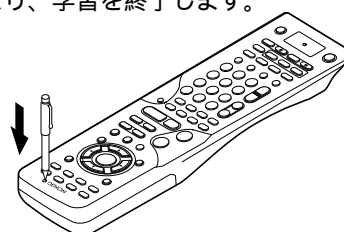
- オーディオ機器（CD、CDR、MDおよびTAPE）は、DENON製オーディオ機器と同じボタンで操作することができます。
- テレビは『DVD/VDP』、『VCR』、『TV』モードのときに操作することができます。

リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

（4）学習機能について

★ お手持ちのAV機器がDENON製品でない場合、またはプリセットメモリーで操作できない場合は、各機器のリモコン信号を付属のリモコンに記憶させて操作をすることができます。
★ リモコン信号によっては学習できない場合や学習に成功しても機器が正常に動作しない場合がありますので、このような場合にはご使用になる機器に付属の専用リモコンで操作してください。

1 **USE/LEARN切り替えボタンをペンなどの先端で押します。**
- モード切り替えボタンとLEARNED/TX LEDが点滅します。

2 **学習させたい機器のモードボタンを押します。**
- モードボタンとLEARNED/TX LEDが点滅します。

3 **学習させたいボタンを押します。**
- モードボタンとLEARNED/TX LEDの点滅が止まり、モードボタンが点灯します。
- 学習できないボタンを押した場合は、モードボタンとLEARNED/TX LEDが点滅します。
- 解除するときは、USE/LEARN切り替えボタンを押します。

4 **モードボタンの点灯を確認後、他のリモコンの学習させたいボタンを押し続けます。**

5 **モードボタンとLEARNED/TX LEDが点灯したら、他のリモコンから指を離します。**
- モード切り替えボタンとLEARNED/TX LEDがもう一度点滅します。

6 **他にも学習させたいボタンがある場合は、操作*2*～*5*をくり返しおこなってください。**

7 **学習させたいボタンをすべて学習させたら、USE/LEARN切り替えボタンを押します。**
- モード切り替えボタンとLEARNED LEDの点滅が止まり、学習を終了します。

※ 学習させたリモコンコードが正しく動作するか確認してください。

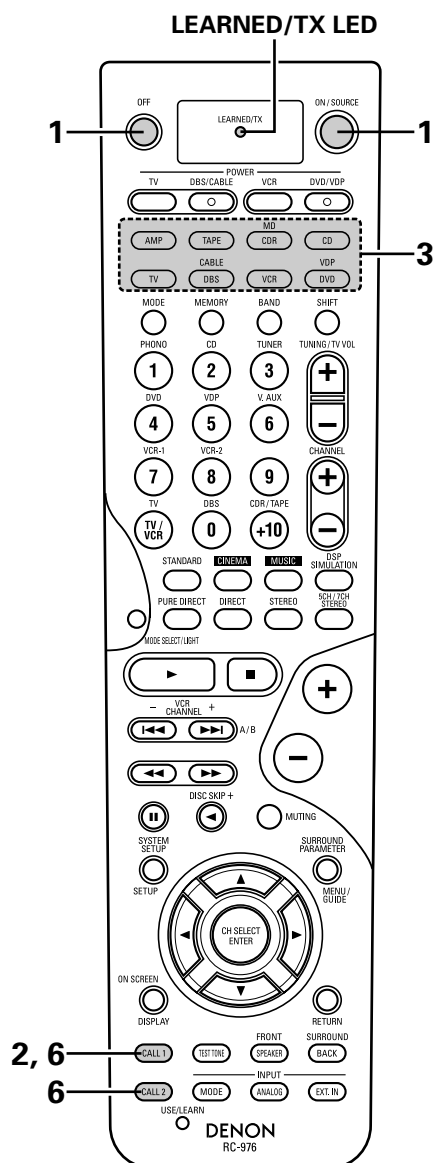
リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

（5）システムコールについて

★ 付属のリモコンには、1つのボタン操作をおこなうだけで、連続して複数のリモコン信号を送信できるシステムコール機能が搭載されています。
この機能を用いることにより、ワンタッチでアンプの電源ON、入力ソースの選択、モニターテレビの電源ON、ソース機器の電源ON、再生などが可能です。

1 システムコールボタン

CALL1およびCALL2ボタンにそれぞれ10個までの信号を登録することができます。

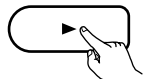
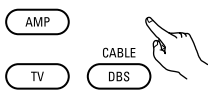
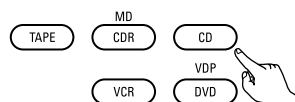
2 システムコールの登録のしかた

■ **CALL1ボタンに登録する場合**

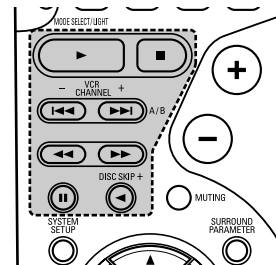
1	**電源ボタンのON/SOURCEボタンとOFFボタンを同時に押します。** ● LEARNED/TX LEDが点滅します。 OFF　ON / SOURCE
2	**CALL1ボタンを押します。** ● モード切り替えボタンとLEARNED/TX LEDが点滅します。 CALL 1
3	**システムコールに登録したい機器のモード切り替えボタンを押します。** AMP　TAPE　MD CDR　CD CABLE DBS　VDP DVD　TV　VCR
4	**登録させたいリモコン信号を持つボタンを1つずつ押します。**
5	***3*、*4* の操作をくり返して必要なボタンを登録します。**
6	**CALL1ボタンを押して、システムコールを登録します。** CALL 1

ご注意

● システムコール登録中に押したボタンのリモコン信号は送信されますので、登録中は機器が不用意に動作しないように送信窓を覆うなどしてください。
● 登録できる数を超えた場合は、モード切り替えボタンとLEARNED/TX LEDの点滅が早くなります。

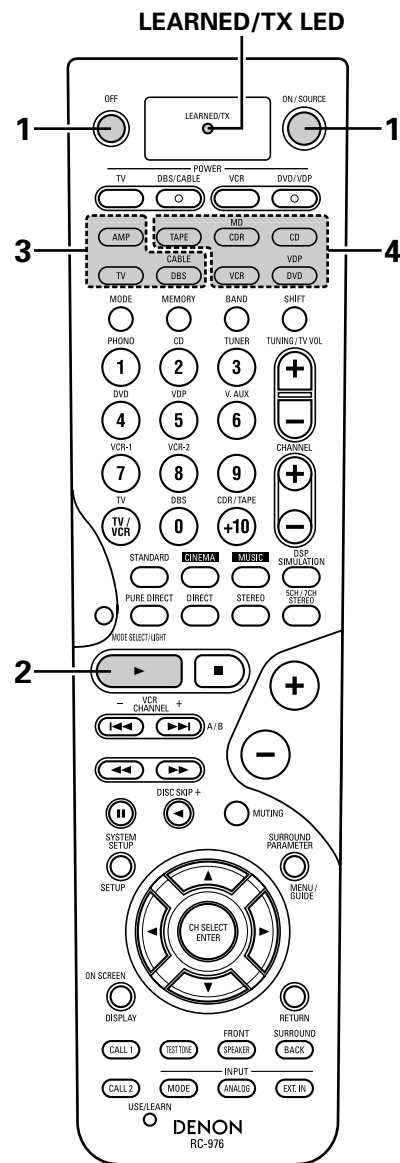
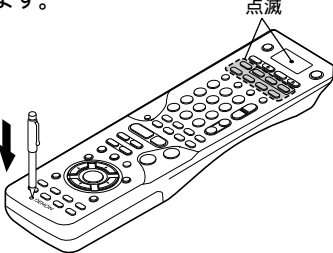
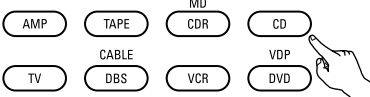
3 システムコールのしかた

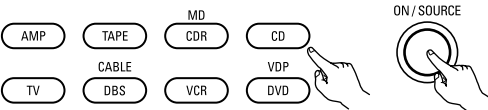
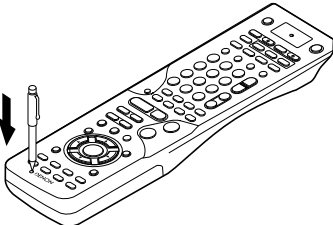
1	**アンプモードを選択します。** AMP
2	**システムコールを登録したボタンを押します。** ● 登録した信号が連続して送信されます。

（6）パンチスルーについて

★ AMP、TV、DBSおよびCABLEモード時には通常使用しない下図のボタンにCD、CDR、MD、TAPE、DVD、DVDR、VDP、VCR1およびVCR2モードのボタンを割り当てることができます。
例えば、AMPモードにCDモードをパンチスルー設定すると、AMPモード時にCDモードのPLAY、STOP、MANUAL SEARCH、AUTO SEARCH、PAUSEおよびDISC SKIPボタンを操作することができます。

1 **電源ボタンのON/SOURCEボタンとOFFボタンを同時に押します。**
- LEARNED/TX LEDが点滅します。

2 **►（再生）ボタン押します。**
- AMP、TVおよびDBS/CABLEモードボタンとLEARNED/TX LEDが点滅します。

3 **パンチスルーに設定したい機器のモードボタンを押します。**
- TAPE、CDR/MD、CD、VCRおよびDVD/VDPモードボタンとLEARNED/TX LEDが点滅します。

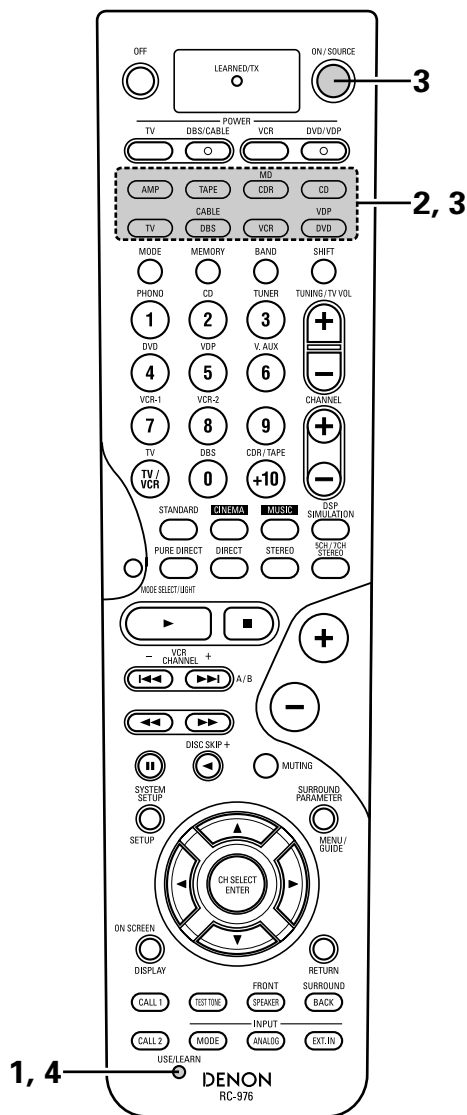
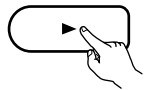
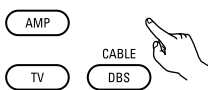
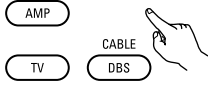
4 **パンチスルーしたい機器のモードボタンを押します。**
- 設定したモードボタンが点灯します。

リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

（7）学習したリモコン信号の消しかた

1 **USE/LEARN切り替えボタンをペンなどの先端で押します。**

- モード切り替えボタンとLEARNED/TX LEDが点滅します。

2 **リセットしたい機器のモードボタンを押します。**

- モードボタンとLEARNED/TX LEDが点滅します。

3 **リセットしたい機器のモードボタンとON/SOURCEボタンを同時に4秒以上押し続けます。**

- モードボタンとLEARNED/TX LEDが再度点滅して、選択した機器の学習させたリモコン信号が消去されます。

4 **USE/LEARN切り替えボタンを押します。**

（8）パンチスルーの初期化のしかた

1　電源ボタンのON/SOURCEボタンとOFFボタンを同時に押します。

- LEARNED/TX LEDが点滅します。

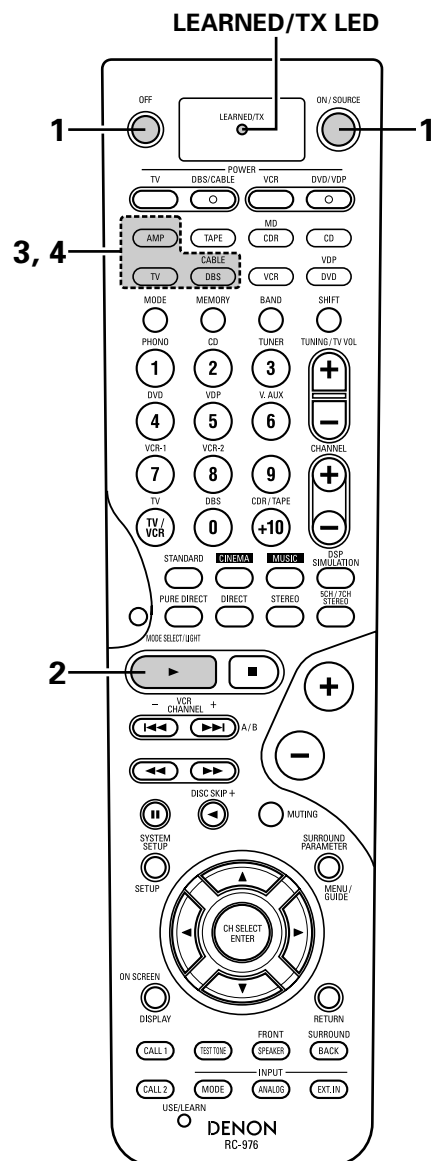
2　►（再生）ボタン押します。

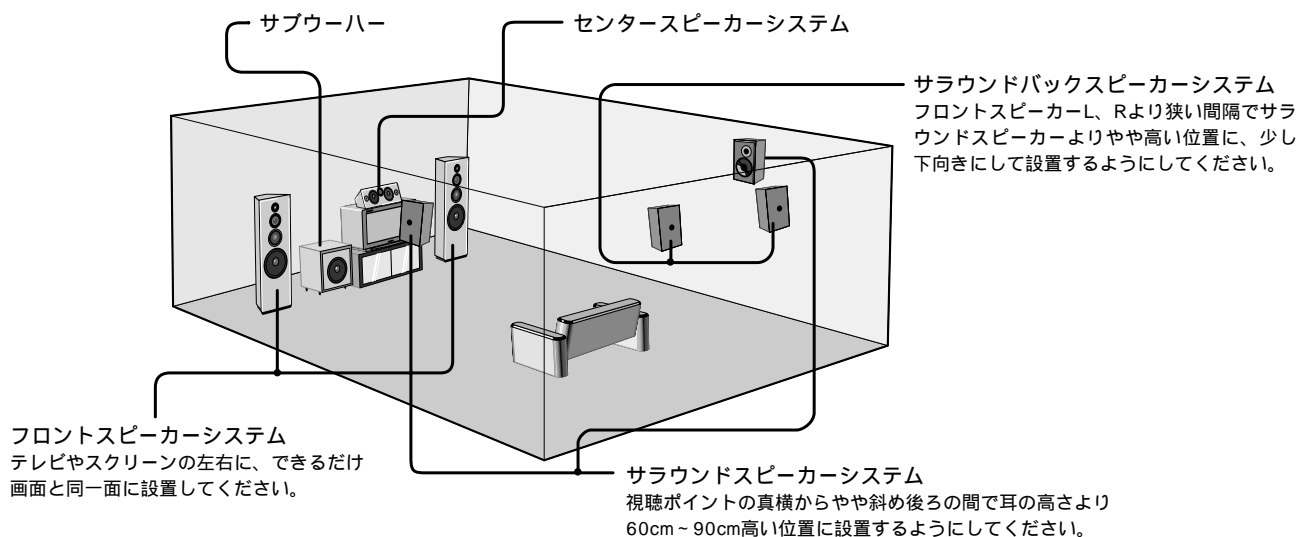
- AMP、TVおよびDBS/CABLEモードボタンとLEARNED/TX LEDが点滅します。

3　リセットしたい機器のモードボタンを押します。

- TAPE、CDR/MD、CD、VCRおよびDVD/VDPモードボタンとLEARNED/TX LEDが点滅します。

4　再度リセットしたい機器のモードボタンを押します。

- リセット中は選択したモードボタンとLEARNED/TX LEDが点灯し、終了すると定常状態に戻ります。

11 スピーカーのセットアップについて

★ スピーカーシステムのレイアウト
基本的なシステムレイアウト
● スピーカーシステム（8台）とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例です。

■セッティングの前に……ソースごとに異なる最適なサラウンド再生

現在、マルチチャンネル信号、すなわち2チャンネル以上のチャンネルを持つ信号（フォーマット）にはさまざまな種類があります。

★マルチチャンネル信号の種類

ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTS-ES、ハイビジョン3-1信号、DVD-Audio、SACD（スーパーオーディオCD）、MPEGマルチチャンネルオーディオなど

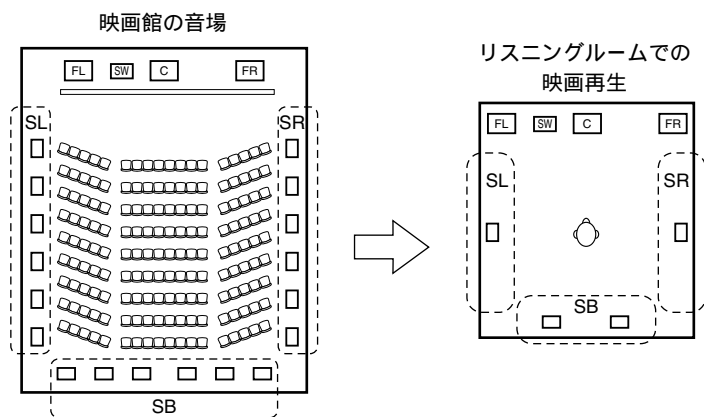
しかし、ここでいう『ソース』というのはこれら信号の種類（フォーマット）ではなく、そこに記録されている信号の中味（ジャンル）のことで、これらは大別すると下の2つに分けられます。

★ソースの種類

● 映画の音声：映画館にて上映されることを前提にしてつくられた信号です。ドルビーデジタルやDTSといったフォーマットによらず、多数のサラウンドスピーカーを使用する映画館の環境に合わせた録音がおこなわれているのが一般的です。

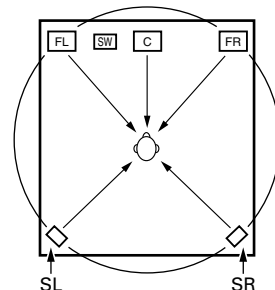
映画館の音場

マルチサラウンドスピーカー（6.1chシステムの場合）

リスニングルームでの映画再生

サラウンドチャンネルに対して、映画館と同様の広がり感を持たせることが重要になります。
そのため、サラウンドスピーカーの数を増やしたり（4〜8本程度）、ダイポール特性を持つものを使用したりといった工夫がされる場合もあります。

SL：サラウンドLチャンネル
SR：サラウンドRチャンネル
SB：サラウンドバックチャンネル

● その他の音声：3〜5本程度のスピーカーを用いて360 ° の音場を再現することを目的につくられた信号です。

各チャンネルのスピーカーが円を描くようにリスナーを囲み、360 ° 均一な音場をつくることがポイントで、理想的には、サラウンドスピーカーもフロントと同様に『点』音源として機能させる必要があります。

これら2種類のソースにはそれぞれ以上のような特徴があり、理想的な再生のためのスピーカーのセッティング、特にサラウンドスピーカーのセッティングには、互いに異なる部分があります。

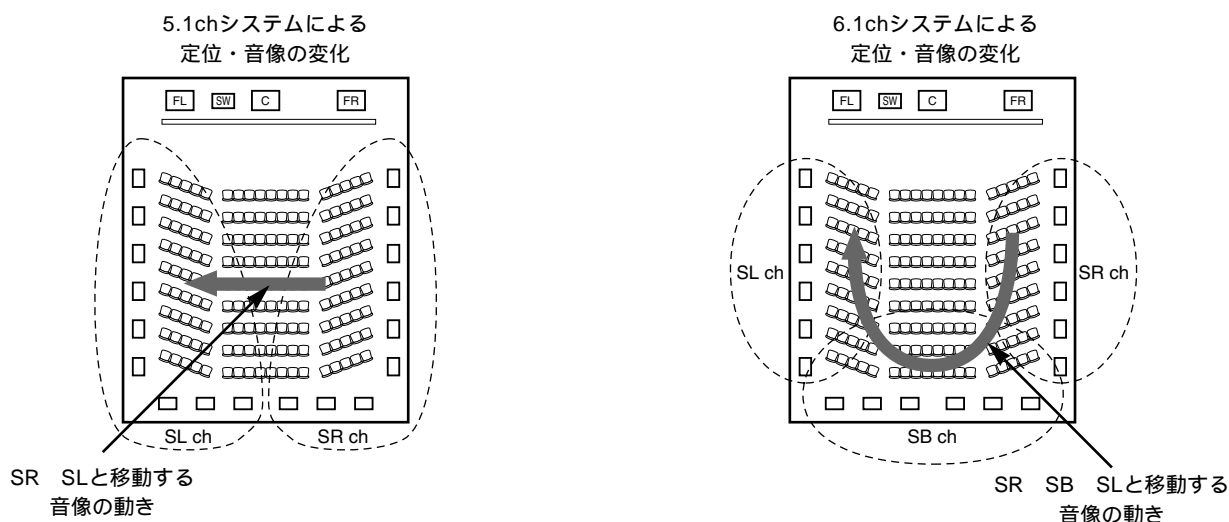
★サラウンドバックスピーカーについて

6.1chシステムよって、従来の5.1chシステムに加えて新たに『サラウンドバック（SB）チャンネル』が生まれました。これによって、従来のマルチサラウンドスピーカーに合わせてサラウンドデザインされていたために出し難いとされていた真後ろへの定位を容易に実現できるようになりました。同時に側方から後方にかけての音像が絞られ、側方から後方へ回り込む音、正面から真後ろへ移動する音など、サラウンド信号の表現力が大幅に向上しました。

5.1chシステムによる
定位・音像の変化

SR→SLと移動する
音像の動き

6.1chシステムによる
定位・音像の変化

SR→SB→SLと移動する
音像の動き

サラウンドバックスピーカーを追加することにより6.1chで録音されたソースだけでなく、従来の2〜5.1chソースでもよりサラウンド効果を高めることができます。本機のWIDE SCREENモードは、従来のドルビーサラウンド録音ソースやドルビーデジタル5.1ch、DTSサラウンド5.1chソースにおいて、サラウンドバックスピーカーを用いた最大7.1chのサラウンド再生を実現するモードです。また、他のDENONオリジナルサラウンド（74ページ参照）もすべて7.1ch再生に対応しており、すべての信号ソースに対して7.1ch再生をお楽しみいただけます。

★サラウンドバックスピーカーの本数について

サラウンドバックチャンネルは、6.1chソース（DTS-ESなど）においては1chの再生信号ですが、2本のスピーカーを使用することを推奨します。特にダイポール特性のスピーカーを使用する場合は、2本使用することが必須となります。
2本使用することにより、1本だけ使用した場合に比べてサラウンドチャンネルとの音のつながりやオフセンターで聞いた場合のサラウンドバックチャンネルの定位感を向上させることができます。

★サラウンドバックスピーカーを使用する場合のサラウンドL、Rチャンネルの設置について

サラウンドバックスピーカーを使用することによって、後方の定位感が大幅に向上します。そのためサラウンドL、Rチャンネルの役割は、前後の音像のスムーズなつながりが重要になってきます。上図にもあるように、映画館におけるサラウンド信号は、リスナーの前方側面からも再生され、空間を漂うような音像を実現します。
これらを再現するため、サラウンドL、Rチャンネルのスピーカーを従来よりやや前寄りに設置することを推奨します。なお、この場合従来の5.1chソースを6.1サラウンドまたはDTS-ESマトリクス6.1モードで再生することによってサラウンド効果が高まる場合があります。サラウンドモードの選択は、それぞれのサラウンド効果を確認して決定してください。

スピーカーのセットアップについて（つづき）

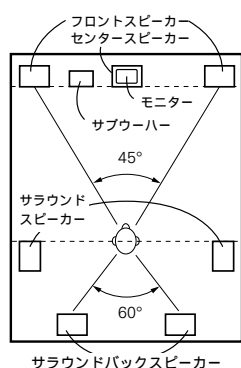
■ スピーカーセッティング例

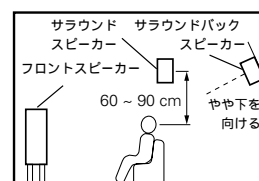
次にさまざまな目的に応じたスピーカーのセッティング例をご紹介します。これらを参考にお手持ちのスピーカーの種類や主に使用される用途に合わせてセッティングをおこなってください。

1．6.1chサラウンド（DTS-ES等）システム（サラウンドバックスピーカーを使用）の場合

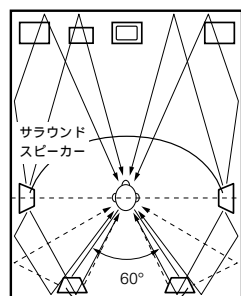
《側面から見た図》

（1）映画再生をメインにおこなう、基本的なセッティング

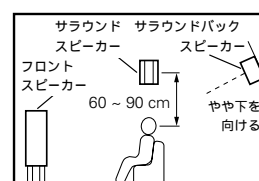
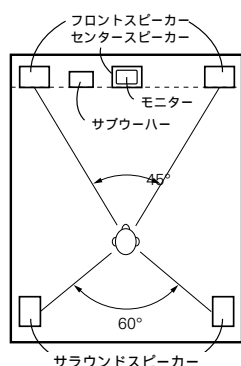
映画再生がメインで、サラウンドスピーカーに通常のシングルウェイや2ウェイスピーカーを使用する場合におすすめします。

《上面から見た図》

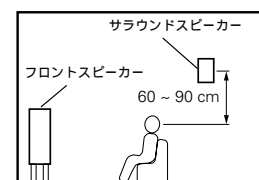
- フロントスピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならないところに置きます。
- サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横からやや斜め後の間で、耳の高さより60〜90cm高い位置に、壁と平行に設置します。
- サラウンドバックスピーカーは、2本設置する場合は後方から前向きにフロントL、Rよりも狭い角度で、1本設置する場合は真後ろから前向きに、サラウンドスピーカーよりやや高い位置に設置します。（サラウンドスピーカー ＋0〜20cmの高さで）
- サラウンドバックスピーカーは、やや下向きに角度をつけて設置することを推奨します。これはサラウンドバックチャンネルの信号がフロント中央のモニターやスクリーンで反射して干渉し、前後の移動感があいまいになることを防ぐのに効果的です。

（2）映画再生をメインにおこない、サラウンドスピーカーに拡散型スピーカーを使用する場合

《側面から見た図》

サラウンド音の視聴ポイントに到達するイメージ

《上面から見た図》

映画再生をより効果的におこなうために、サラウンドスピーカーにダイポール特性やトライポール特性などを持つ、拡散音場型のスピーカーを用いる場合は、サラウンドスピーカーの設置場所を（1）に比べてやや前寄りにします。

- フロントスピーカー、センタースピーカー、サブウーハーの設置方法は（1）と同様です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横かやや前よりが望ましく、耳の高さより60〜90cm高い位置に設置します。
- サラウンドバックスピーカーの設置方法は、（1）と同様です。また、サラウンドバックスピーカーにもダイポール特性のスピーカーを用いた方がより効果的です。
- サラウンドチャンネルの信号は、左図のように室内の壁から反射音を伴って、広がりを持った音となります。

2．サラウンドバックスピーカーを使用しない場合

《上面から見た図》

- フロントスピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならないところに置きます。
- サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横からやや斜め後の間で、耳の高さより60〜90cm高い位置に、壁と平行に設置します。

《側面から見た図》

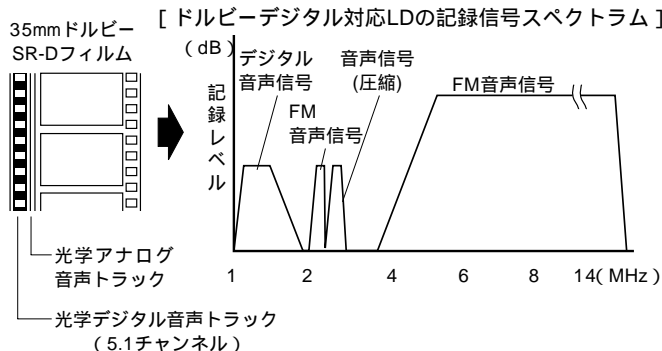
12 サラウンドについて

★本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

(1) ドルビーサラウンドについて

①ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、ドルビー研究所が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルはCDと同等以上の再生帯域（高域は20kHz以上再生可）を持つフロント3ch FL、FR、C（フロント左、右およびセンター）とサラウンド2ch SL、SR（サラウンド左、右）に加え、低域（～120Hz）効果音専用のLFE（ロー・フリクエンシー・エフェクト）の合計5.1chに対応しており、更にモノラル1chやステレオ2ch、ドルビープロロジック信号の伝送など幅広い対応が可能です。
また各チャンネルの信号はそれぞれ完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配がありません。これらのデジタル信号を、高効率符号化技術によってCDの半分以下のデータ量（最大640kbps）にて伝送可能といった特徴を持っています。
この特徴を映画のサウンドトラックに生かし、映画館用に開発されたサラウンドシステムが『DOLBY SR-D（ドルビーステレオデジタル)』です。従来一般的であったドルビーサラウンド（ドルビープロロジック）がアナログ・マトリクス方式であったのに対して、各チャンネルが完全に独立したデジタル・ディスクリート方式となり、音の遠近感、移動感、定位感のある音場をよりリアルに再現することが可能となりました。そしてドルビーデジタル対応メディアであるLD、DVDなどは、AVルームでDOLBY SR-Dのサラウンドトラックをそのまま再現することを可能にしたため、映画館と同様に驚くほどリアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

◎SR-Dとドルビーデジタルの関係

◎ドルビーデジタルとドルビープロロジック

家庭用サラウンド方式比較	ドルビー・デジタル	ドルビー・プロロジック
記録(素材)ch数	5.1ch	2ch
再生ch数	5.1ch	4ch
再生ch構成(MAX)	L, R, C, SL, SR, SW	L,R,C,S（SWは推奨）
音声処理	デジタル・ディスクリート処理 ドルビーデジタル エンコード、デコード	アナログ・マトリックス処理 ドルビー・サラウンド
サラウンドchの高域再生限界	20kHz	7kHz

◎ドルビーデジタル対応メディアとその対応方法

ドルビーデジタル対応マーク：DOLBY DIGITAL

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と併せて確認してください。

メディア	ドルビーデジタル出力端子	再生方法
LD（VDP）	ドルビーデジタルRF出力 専用同軸端子 ※1	入力モードを『AUTO』に設定します。（61ページ参照）
DVD	光または同軸デジタル出力 （PCMと共通） ※2	入力モードを『AUTO』に設定します。（61ページ参照）
その他 衛星放送、CATVなど	光または同軸デジタル出力 （PCMと共通）	入力モードを『AUTO』に設定します。（61ページ参照）

※1 デジタル入力端子にドルビーデジタルRFを接続するときは、市販のアダプターを使用してください。（アダプターの取扱説明書を参照してください。）

サラウンドについて（つづき）

②ドルビープロロジックⅡx対応

DOLBY DIGITAL・EX PRO LOGIC Ⅱx

◎ドルビープロロジックⅡxはドルビープロロジックⅡのマトリックスデコード技術を拡張して、2チャンネルで記録された音声を、サラウンドバックチャンネルを含めた最大7.1チャンネルにデコードして再生することができます。

また、5.1チャンネルソースについても、最大7.1チャンネルでの再生を楽しむことができます。
音楽再生に適したMUSICモード、映画再生に適したCINEMAモード、ゲームをお楽しみになる場合に最適なGAMEモードが再生するソースに合わせて選べます。
GAMEモードは2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

③ドルビープロロジックⅡ

◎ ドルビープロロジックⅡ は、従来のドルビープロロジック回路を更に進化させたフィードバックロジックステアリング技術を用いて、ドルビー研究所により開発された新しいマルチチャンネル再生方式です。

◎ ドルビーサラウンド録音されたソース（※）に加え、音楽ソースなどの通常のステレオ録音ソースも5ch（FL、FR、C、SL、SR）の信号にデコードし、サラウンド再生を楽しむことができます。

◎ サラウンドチャンネルの再生周波数帯域は、帯域制限のあった従来のドルビープロロジックに比較して広帯域（20～20kHz以上）になっています。また、従来サラウンドチャンネルはサラウンドL（左）＝サラウンドR（右）のモノラル再生でしたが、新たにステレオ信号として再生する方式をとっています。

◎ 再生するソースの種類や内容に合わせて最適なデコード処理をおこなえるように、各種パラメーターを設定することが可能になりました。（79ページ参照）

※“ **ドルビーサラウンド録音されたソース** ”とは

- 3ch以上で構成されるサラウンド信号を、ドルビーサラウンドエンコード技術によって2chの信号として記録したソースです。
- DVD、LD、ステレオVTRで再生される映画のサウンドトラックをはじめ、FM、TV、BS、CSなどのステレオ放送信号にて用いられています。
- この信号に対して、プロロジックⅡデコードを施すことにより、マルチチャンネルでのサラウンド再生が可能になりますが、一般的なステレオ機器でそのままステレオ再生することも可能です。
- ドルビーサラウンド録音信号には2種類あります。

  ① PCMステレオ2ch信号
  ②ドルビーデジタル2ch信号

  いずれの信号が本機に入力されても『DOLBY/DTS SURROUND』モードを選択すると、サラウンドモードは自動的に『ドルビープロロジックⅡ』となります。

■ ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。

ドルビーサラウンド対応マーク： DOLBY SURROUND

サラウンドについて（つづき）

（2）DTS デジタルサラウンドについて

DTSデジタルサラウンド（または単にDTSと呼ばれます）は、デジタル・シアター・システムズ社が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SRの5chに加えてLFE 0.1chを持つ5.1chで、他にステレオ2chモードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストーク等で劣化する心配はありません。
DTSはドルビーデジタルに対して比較的高いビットレート（CD/LDで1234kbps、DVDは1536kbpsか768kbps）となり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。そのためデータ量が多く、映画館においてのDTS再生は、フィルムと同期をとったCD-ROMを別途再生する方法がとられています。
もちろんLDやDVDにおいてはそういった心配はなく、1枚のディスクに映像とサウンドが同時に記録可能なため、他のフォーマットと同様の取り扱いが可能です。
この他のメディアにはDTS録音されたCDがあります。これは従来の（2ch録音された）CDと同様のメディアに5.1chのサラウンド信号が記録されたもので、映像はありませんが、CDプレーヤーを使ってサラウンド再生が可能となるという特徴があります。
DTSによるサラウンドトラック再生も映画館とAVルームの間で基本的な違いは無く、映画館と同様の緻密で雄大なサウンドを楽しむことができます。

◎DTS対応メディアとその再生方法

DTS対応マーク：DIGITAL dts SURROUND または dts

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と併せて確認してください。

メディア	DTSデジタル出力端子	再生方法
CD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）　※2	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（61ページ参照）。絶対に『ANALOG』並びに『PCM』モードには切り替えないでください。　※1
LD（VDP）	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）　※2	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（61ページ参照）。絶対に『ANALOG』並びに『PCM』モードには切り替えないでください。　※1
DVD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）　※3	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（61ページ参照）。

※1　CDやLDのDTS信号は、通常のCDやLDにおけるPCM信号がそのままDTS信号に置き換わった形で記録されています。そのためCD、LDプレーヤーのアナログ出力からはDTS信号がノイズとなって出力されます。このノイズをアンプによって再生した場合、最悪のケースでは本機やスピーカーなどの周辺機器が故障する可能性があります。これらの問題を避けるため、DTSで記録されたCDやLDを再生する前に、入力モードを必ず『AUTO』または『DTS』モードへ切り替えてから、ディスクの再生をおこなうようにしてください。また再生中は絶対に『ANALOG』並びに『PCM』モードへは切り替えないでください。DVDプレーヤーやLD/DVDコンパチプレーヤーでCDやLDの再生をおこなうときも同様です。なおDVDメディアの場合は、DTS信号は専用の記録方式で記録されているため、問題はありません。

※2　CDまたはLDプレーヤーなどで、デジタル出力に何らかの信号処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換など）がおこなわれている場合があります。この場合誤ってDTS信号に信号処理がおこなわれてしまい、本機と接続しても正しく再生できずノイズなどが発生することがありますので、はじめてDTS再生をおこなう場合はまず主音量調節つまみを絞り、DTSディスクの再生を開始すると本機のDTSインジケーター（62ページ参照）が点灯することを確認してから主音量調節つまみを上げるようにしてください。

※3　DVDのDTSメディアは、その再生に対応したプレーヤーが必要です。お手持ちのDVDプレーヤーがDTS対応であるかはDVDプレーヤーのメーカーまたは販売店にご確認ください。

(3) DTS-ES Extended Surround™について

DTS-ES Extended Surroundは、デジタル・シアター・システムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。DTS-ES Extended Surroundは、従来のDTS Digital Surroundフォーマットに対して上位互換性を持ちつつ、更に拡張されたサラウンド信号によって360度の定位感や空間表現力が大幅に拡大します。映画館においては1999年に導入され商業利用されています。
DTS-ES Extended SurroundはサラウンドチャンネルとしてFL,FR,C,SL,SR,LFEの5.1チャンネルに対して、SB（サラウンドバック、またはサラウンドセンターと呼ばれる）チャンネルが加わり、合計6.1チャンネルのサラウンド再生がおこなわれます。またそのサラウンド信号記録方式の違いにより、次の2種類の信号フォーマットがあります。

DTS-ES™ Discrete6.1（ディスクリート6.1）：

追加されたSBチャンネルを含め、6.1チャンネル全てがデジタルディスクリート方式によって独立したチャンネルとして記録される最新のフォーマットです。SL,SR,SBの各チャンネルが完全に独立しているため自由なサウンドデザインが可能で、360度周囲を取り囲むバックグラウンド音の中を自由に音像が飛び交う、といった表現も可能となるのが大きな特徴です。
この方式で記録されたサウンドトラックはDTS-ESデコーダーで再生することによってそのパフォーマンスを最大限に発揮しますが、同時に従来のDTSデコーダーで再生した場合も、SBチャンネルの信号は自動的にSL,SRチャンネルにダウンミックスされて再生されるため、信号成分の欠落無く再生することが可能です。

DTS-ES™ Matrix6.1（マトリクス6.1）：

追加されたSBチャンネルを予めSL,SRチャンネルへマトリクスエンコードを施し挿入し、再生時にマトリクスデコーダーによってSL,SR,SBの各チャンネルにデコードするフォーマットです。DTS社の開発した高精度デジタルマトリクスデコーダーを使用することにより記録時のエンコーダーとその特性を完全に合わせることができるため、従来の5.1または6.1チャンネルシステムに比べて、より制作者のサウンドデザインに忠実なサラウンド再生が実現できます。また、ビットストリームのフォーマットは従来のDTS信号と100パーセントの互換性がありますので、5.1チャンネルの信号ソースでもMatrix6.1の効果を確認することが可能です。勿論、DTS-ES Matrix6.1エンコードソースをDTSの5.1チャンネルデコーダーで再生することも可能です。

DTS-ES Discrete6.1/Matrix6.1エンコードソースをDTS-ESデコーダーでデコードした場合、デコード時にフォーマット検出をおこないそれぞれ最適な再生モードが選択されます。ただしMatrix6.1のソースについては一部に5.1チャンネルのフォーマットとして検出されるソースがあります。これらを再生する場合は、手動でDTS-ES Matrix6.1モードを選択する必要があります。
（サラウンドモード選択の方法については80ページを参照してください。）
またDTS-ESデコーダーには別の機能として、デジタルPCM信号及びアナログ信号ソースを6.1チャンネル再生する、DTS NEO:6サラウンドモードがあります。

DTS NEO:6™ サラウンドについて：

DTS-ES Matrix6.1に採用された高精度デジタルマトリクスデコーダーを従来の2チャンネル信号に応用し、6.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。高精度な入力信号検出及びマトリクス処理によって、6.1チャンネル全てのチャンネルでフルバンド（周波数特性20〜20kHz以上）の再生が可能な上、各チャンネル間のセパレーション特性もデジタルディスクリート方式と同等な程までに向上しています。
DTS NEO:6サラウンドモードには、再生する信号ソースの内容に合わせて最適なデコード処理を選択できる、2つのモードがあります。

DTS NEO:6 CINEMA：

映画再生に最適なモードです。セパレーション特性を重視してデコードすることにより、2チャンネルソースでも6.1チャンネルソースと同じような雰囲気で楽しむことが可能です。
同相成分は主にセンター（C）に、逆相成分はサラウンド（SL、SR、SB）に振り分けられる特性を持つため、従来のサラウンド録音されたソース再生にも効果があります。

DTS NEO:6 MUSIC：

主に音楽再生に適したモードです。フロントチャンネル(FL,FR)の信号を重視してデコードすることにより音質の変化が少なく、更にセンター（C）とサラウンド（SL、SR、SB）チャンネルから出力されるサラウンド信号の効果により、音場にナチュラルな拡がり感が加わります。

（4）DTS-96/24について

現在音楽などのスタジオ録音に関して、ハイサンプリング・ハイビット化、並びにマルチチャンネル化が進んでおり、96kHz/24bit　5.1chなどの高品質な信号ソースが増加しています。

例えば、DVD-Videoにおける高音質録音ソースとしては、96kHz/24bitのステレオPCM音声トラックをもつものがあります。
しかしそれらは音声トラックのデータレートが非常に高いため2chの収録が限界で、さらに映像の品質を制限せざると得なく静止が像のみの収録が一般的です。
また、DVD-Audioでは96kHz/24bitの5.1chサラウンドを実現可能としていますが、この品質での再生にはDVD-Audioプレーヤーが必要です。

DTS 96/24はこのような状況の中に登場した、デジタル・シアターシステムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

従来のサラウンドフォーマットではサンプリング周波数が48kHzまたは44.1kHzであったため再生信号周波数の上限は20kHz程度で留まっていたのに対して、DTS 96/24ではサンプリング周波数を96kHzまたは88.2kHzに引き上げることにより、40kHzを超える広い周波数帯域を実現しています。
また、24bitの分解能を持ち、96kHz/24bitのPCMと同等の周波数帯域、ダイナミックレンジを実現しています。

DTS 96/24は、従来のDTSサラウンドと同様に最大5.1chまで対応しており、DTS 96/24を用いて録音されたソースはDVD-VideoやCDといった通常のメディアにおいてハイサンプリングマルチチャンネル音声の再生を可能とします。
従って、DTS 96/24は従来のDVD-Videoプレーヤー（※1）を使用して、DVD-Audioと同等の96kHz/24bitマルチチャンネルサラウンドを、DVD-Videoの映像とともに楽しむことができます。またDTS 96/24対応CDメディアの場合、一般的なCD/LDプレーヤー（※1）を使用して88.2kHz/24bitマルチチャンネルサラウンドを楽しむことができます。

このように、高音質なマルチチャンネル信号を確保しているにも関わらず、収録時間は従来のDTSサラウンドソースと変わりません。
さらに、DTS 96/24は従来のDTSサラウンドフォーマットと完全な互換性を持っています。DTS 96/24の信号ソースは、従来のDTSまたはDTS-ESサラウンドデコーダーにおいても、48kHzまたは44.1kHzの周波数帯域での再生が可能です（※2）。

※1 DTSデジタル出力に対応したDVDプレーヤー（CD/LDプレーヤーの場合、従来のDTS-CD/LDメディアに対応したデジタル出力を持つプレーヤー）と、DTS 96/24にて収録されたメディアが必要です。

※2 分解能は、そのデコーダーによって24bitまたは20bitとなります。

サラウンドについて（つづき）

（5）AACについて

MPEG2-AAC（Advanced Audio Coding）はMPEG（Moving Picture Experts Group）が開発したマルチチャンネル音声フォーマットです。
その特長は、高音質・高圧縮率を両立できることです。特に低ビットレート（高圧縮率）の環境においてドルビーデジタルやMP3（MPEG Layer-3）等従来のフォーマットに比べて高い音質を維持することが出来ます。具体的にはわずか96kbpsという低ビットレートで、CD並みといわれる品質のステレオ音声を伝送することが出来ます。
その特長を生かしてポータブルオーディオ等への応用が増加している一方、多チャンネルに対応しても全体のビットレートを低く抑えることが出来るため、日本のBSデジタル放送における5.1chサラウンド放送をはじめとする、サラウンドシステムへの応用が始まりました。
MPEG2-AACは元々映像信号と音声信号の複合データであるMPEGデータの音声規格として開発されたため、その用途に応じて求められるスペックは多岐に渡ります。映像と組み合わせたトータルのビットレートを低く抑えるため低ビットレートでの音質確保、また多チャンネル伝送時のデータ量低減、業務用途のみに特化することなく使えるデータ処理の簡略化、それらは相反する要素を持ちますが、いずれの要求も満たせる様配慮され非常に柔軟性の高い規格になっています。そのため音声信号の種類やそのデータ作成環境に適合させるためにMAIN/LC/SSRプロファイルという3種類のデータ構造を持っています。

◎MPEG2-AACのスペック（概要）

- アルゴリズム：　MAINプロファイル
  LC（Low Complexity）プロファイル
  SSR（Scaleable Sampling Rate）プロファイル
- サンプリング周波数：　8kHzから96kHzまで対応
- チャンネル数：　最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能：　LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

この中で本機は、BSデジタル放送にて使用される32kHzから48kHzまでのサンプリング周波数と、LCプロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大5.1chのデータに対応します。

※ MPEGによる音声規格は他にLayer-1、2、3等がありますが、それらとAACの間に互換性はありません。
本機はその中で先に述べたAACの再生に対応します。

■ 以下がAACに関する米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

（6）AL24 Processing

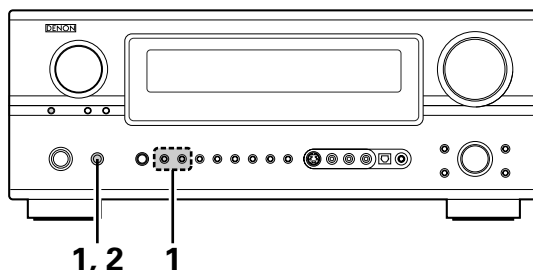
CDなどのデジタル入力時に入力されたデジタルデータを手掛かりに、その音が自然界に存在したはずのアナログ波形に近づくようにデジタルデータの補間をおこない、24bitのクオリティで再現するAL24 Processingを搭載しています。

13 ラストファンクションメモリーについて

★ 本機には電源をOFFにする直前の各種ボタンの設定状態を記憶するラストファンクションメモリー機能を備えています。電源をONにすると、電源をOFFにする直前の入出力状態が呼び出されますので、再度設定し直す必要はありません。
★ また、本機にはバックアップメモリー機能を備えています。これにより電源がOFFになったとき、および電源コードを抜いた場合でも各種ボタンの設定状態をバックアップして約1週間保持することができます。

14 マイコンの初期化について

★ 本体のディスプレイ表示が正常でない、または本体またはリモコンのボタンで操作できない場合は、下記の操作でマイコンの初期化をおこなってください。

1	**電源スイッチを“ OFF ”にします。**
2	**MODEボタンとANALOGボタンを同時に押しながら、電源スイッチを“ ON ”にします。**
3	**ディスプレイ表示が約1秒間隔で点滅するのを確認後、2つのボタンから指を離します。** ● マイコンが初期化されます。

ご注意

● 操作***3***の状態にならない場合は、もう一度操作***1***からやり直してください。
● マイコンの初期化をおこなった場合は、各種ボタンの設定状態がすべて工場出荷時の初期設定に戻ります。

15 保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

※修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
※当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

16 故障かな？と思ったら

故障？と思っても、もう一度確かめてみましょう

■各接続は正しいですか
■取扱説明書に従って正しく操作していますか
■スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きとり、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　象	原　因	処　置	関連ページ
電源を入れても、ディスプレイが点灯せず音も出ない。	●電源コードの差し込みが不完全である。	●本体および電源コンセントへの、電源プラグの差し込みを点検してください。	19
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	●スピーカーコード接続が不完全である。 ●入力切り替えボタンの位置が不適当である。 ●主音量調節つまみが絞ってある。 ●ミューティングがかかっている。 ●デジタル信号が入力されていない。	●しっかり接続してください。 ●正しい位置に切り替えてください。 ●適当な位置まで回してください。 ●ミューティングを解除してください。 ●デジタル信号の入力ソースを正しく選択してください。	26 61 62 83 61
モニターが映らない。	●本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。 ●モニターTVの入力設定が違う。	●接続が正しいか確認してください。 ●TVの入力切り替えを映像入力を接続した端子に設定してください。	20〜23 20〜23
dts音声が出ない。	●DVDプレーヤーの音声出力設定がビットストリームになっていない。 ●DVDプレーヤーがdts対応になっていない。 ●本機の入力設定がアナログになっている。	●DVDプレーヤーの初期設定をしてください。 ●dts対応のプレーヤーを使用してください。 ●AUTOまたはdtsに設定してください。	ー ー 61
DVDからVCRにダビングできない。	●ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っています。	●コピーはできません。	ー
サブウーハーが鳴らない。	●サブウーハーの電源が入っていない。 ●サブウーハー初期設定が NO になっている。 ●サブウーハーの出力が接続されていない。	●電源を入れてください。 ●設定をYESにしてください。 ●正しく接続してください。	ー 41 26
テストトーンが出ない。	●サラウンドモードがドルビーサラウンド以外のモードになっている。	●ドルビーサラウンドにしてください。	64
リモコンを操作しても正常に動作しない。	●乾電池が消耗している。 ●リモコンの距離が離れ過ぎている。 ●本体とリモコンの間に障害物がある。 ●操作したいボタン以外のボタンを押している。 ●乾電池の⊕、⊖が正しくセットされていない。	●新しい乾電池と交換してください。 ●近づいて操作してください。 ●障害物を取り除いてください。 ●操作したいボタンを押してください。 ●乾電池を正しくセットしてください。	9 9 9 ー 9
AACのインジケーターが点灯しない。	●BSデジタルチューナーと本機がアナログ接続になっている。	●デジタル接続にしてください。	12、19

17 主な仕様

■ オーディオ部

● パワーアンプ部

定格出力	フロント： 100W＋100W（負荷8Ω、20Hz～20kHz、T.H.D 0.05%） 135W＋135W（負荷6Ω、1kHz、T.H.D 0.7%） センター： 100W（負荷8Ω、20Hz～20kHz、T.H.D 0.05%） 135W（負荷6Ω、1kHz、T.H.D 0.7%） サラウンド： 100W＋100W（負荷8Ω、20Hz～20kHz、T.H.D 0.05%） 135W＋135W（負荷6Ω、1kHz、T.H.D 0.7%） サラウンドバック： 100W＋100W（負荷8Ω、20Hz～20kHz、T.H.D 0.05%） 135W＋135W（負荷6Ω、1kHz、T.H.D 0.7%）
実用最大出力	150W＋150W（負荷6Ω、EIAJ）
ダイナミックパワー	120W×2チャンネル（負荷8Ω） 170W×2チャンネル（負荷4Ω） 200W×2チャンネル（負荷2Ω）
出力端子	フロント/センター/サラウンドバック： 6～16Ω フロント： A or B 6～16Ω A ＋ B 8～16Ω

● プリアンプ部

入力感度/入力インピーダンス	200mV/47kΩ
周波数特性	10Hz～100kHz：＋0、－3dB（ダイレクトモード時）
S/N比	102dB（ダイレクトモード時）
ひずみ率	0.005%（20Hz～20kHz）（ダイレクトモード時）
定格出力	1.2V

● デジタル部

D/A出力	定格出力：2V（0dB再生時） 全高調波ひずみ率：0.008% S/N比：102dB ダイナミックレンジ：96dB
デジタル入力	フォーマット：デジタルオーディオインターフェース

● フォノ・イコライザー部（PHONO入力 REC OUT）

入力感度	2.5mV
RIAA偏差	20Hz～20kHz：±1dB
S/N比	74dB（JIS-A、5mV入力時）
ひずみ率	0.03%（1kHz、3V出力時）
定格出力/最大出力	150mV/8V

■ ビデオ部

● 標準映像端子

入出力レベル/インピーダンス	1Vp-p/75Ω
周波数特性	5Hz～10MHz：＋0、－3dB

● S映像端子

入出力レベル/インピーダンス	Y（輝度）信号：1Vp-p/75Ω C（色）信号：0.286Vp-p/75Ω
周波数特性	5Hz～10MHz：＋0、－3dB

● 色差（コンポーネント）映像端子

入出力レベル/インピーダンス	Y（輝度）信号：1Vp-p/75Ω P_B/C_B（青色）信号：0.7Vp-p/75Ω P_R/C_R（赤色）信号：0.7Vp-p/75Ω
周波数特性	DC～100MHz：＋0、－3dB

■ 総合

電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	260W（電気用品安全法による） 1W未満（スタンバイ時）
最大外形寸法	434（幅）×171（高さ）×429（奥行き）mm （フット・つまみ・端子を含む）
質量	13.5kg

■ リモコン（RC-976）

乾電池	R6P（単3形）乾電池3本使用
外形寸法	58（幅）×230（高さ）×37（奥行き）mm
質量	230g（乾電池を含む）

※（EIAJ）：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

株式会社デノン

本　　　社	〒113-0034 東京都文京区湯島3-16-11
お客様相談センター	TEL：（03）3837-8919
	受付時間　9：30～12：00、12：45～17：30
	（弊社休日および祝日を除く、月～金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。

http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。	
購入店名：	電話（　-　-　）
ご購入年月日： 年 月 日	

Printed in Japan　511 4213 005